# PIC16F8X

## 18 ピン フラッシュ /EEPROM 8 ビット マイクロコントローラ

### このデータシートに記載されているデバイス：

- PIC16F83
- PIC16F84
- PIC16CR83
- PIC16CR84
- 動作電圧範囲が広いデバイス (PIC16LF8X、PIC16LCR8X)

### 高性能 RISC CPU の特徴：

- すべての命令は 1 ワード、命令数 :35
- 2 サイクルのプログラム分岐命令を除いて、すべて 1 サイクル命令
- 動作速度： DC - 10 MHz クロック入力
  DC - 400 ns 命令サイクル

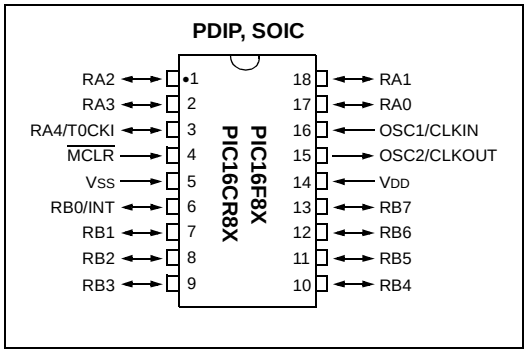
| デバイス | プログラムメモリ (ワード) | データ RAM (バイト) | データ EEPROM (バイト) | 最大周波数 (MHz) |
|---|---|---|---|---|
| PIC16F83 | 512 Flash | 36 | 64 | 10 |
| PIC16F84 | 1 K Flash | 68 | 64 | 10 |
| PIC16CR83 | 512 ROM | 36 | 64 | 10 |
| PIC16CR84 | 1 K ROM | 68 | 64 | 10 |

- 14 ビット幅の命令
- 8 ビット幅のデータ
- 特殊機能レジスタ： 15
- ハードウェアスタック： 8 レベル
- 直接、間接、相対の各アドレッシングモード
- 割り込みソース：
  - 外部 RB0/INT ピン
  - TMR0 タイマーのオーバーフロー
  - PORTB<7:4> ピン変化による割り込み
  - データ EEPROM の書き込み完了
- フラッシュプログラムメモリの消去 / 書き込みサイクル :1000 回
- EEPROM データメモリの消去 / 書き込みサイクル :10,000,000 回
- EEPROM データ保持 > 40 年

### 周辺機能の特徴：

- I/O ピン数 :13 ( ピンごとに入出力設定可能 )
- シンク / ソース電流 ( LED 直接駆動可能 )
  - 1 ピンごとに最大シンク 25 mA
  - 1 ピンごとに最大ソース 20 mA
- TMR0: 8 ビット タイマー / カウンタ プログラマブル 8 ビットプリスケーラ付き

ピン配置図




### マイクロコントローラ特殊機能：

- インサーキットシリアルプログラミング (ICSP™) (ROM デバイスではデータ EEPROM のみをサポート )
- パワーオンリセット (POR)
- パワーアップタイマー (PWRT)
- オシレータスタートアップタイマー (OST)
- ウォッチドッグタイマー (WDT) 専用のオンチップ RC オシレータ付き
- コードプロテクション
- スリープモード 消費電力を少なくできます
- オシレータオプション 選択可能です

### COMS フラッシュ /EERPOM テクノロジー：

- 低電力、高速テクノロジ
- 完全スタティック設計
- 幅広い動作電圧範囲：
  - 商業用： 2.0V to 6.0V
  - 工業用： 2.0V to 6.0V
- 低消費電力：
  - < 2 mA typ. @ 5V, 4 MHz
  - 15µA typ. @ 2V, 32 kHz
  - スタンバイ電流 < 1µA typ. @ 2V

© 1998 Microchip Technology Inc.


この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

目次

1.0 概要 ... 3
2.0 PIC16F8X デバイスの種類 ... 5
3.0 アーキテクチャの概要 ... 7
4.0 メモリ構成 ... 11
5.0 I/O ポート ... 21
6.0 タイマー 0 モジュールおよび TMR0 レジスタ ... 27
7.0 データ EEPROM メモリ ... 33
8.0 CPU の特殊機能 ... 37
9.0 命令セット ... 53
10.0 開発サポート ... 69
11.0 電気的特性 - PIC16F83 および PIC16F84 ... 73
12.0 電気的特性 - PIC16CR83 および PIC16CR84 ... 85
13.0 DC および AC 特性のグラフ / 表 ... 97
14.0 パッケージ ... 109
付録 A: PIC16C5X から PIC16F8X への機能改良点 ... 113
付録 B: PIC16C5X と PIC16F8X とのコードの互換性 ... 113
付録 C: このデータシートでの追加点 ... 114
付録 D: このデータシートの変更点 ... 114
付録 E: コンバージョンの注意点 - PIC16C84 から PIC16F83/F84 および PIC16CR83/F84 へ ... 115
索引 ... 117
オンラインサポート ... 119
アンケートにお答えください ... 120
PIC16F8X の型番 / 品名 ... 121
営業とサポート ... 121

## お客様へ

当社では、当社製品やドキュメントの品質を高めるために常に努力をしております。このドキュメントも正確を期すために非常に多くの時間を費やしておりますが、多少の見落としがあるかもしれません。もし見落としや間違っている情報にお気づきになりましたら、当社までお知らせください。より良いドキュメントを作るために皆様のご協力に感謝いたします。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 1.0 概要

PIC16F8X は、低価格、高性能、CMOS、完全スタティック設計の 8 ビットマイクロコントローラ PIC16CXX ファミリーの 1 グループです。

このグループには、以下のデバイスが含まれます。

- PIC16F83
- PIC16F84
- PIC16CR83
- PIC16CR84

全ての PICmicro™ マイクロコントローラは、先進の RISC アーキテクチャを採用しています。PIC16F8X は、機能拡張したコア機能、 8 レベルのスタック、複数の内部および外部の割り込みソースを持っています。ハーバードアーキテクチャは命令バスとデータバスが別なので、8 ビットデータが入る 14 ビット幅の命令ワードにすることができました。2 ステージ命令パイプラインによって、2 サイクルを必要とするプログラム分岐を除き、すべての命令が 1 サイクルで実行可能です。命令数は 35 です。（縮小命令セット）レジスタバンクが大きいので、高いパフォーマンスを達成できます。

PIC16F8X マイクロコントローラは、同クラスの他の 8 ビットマイクロコントローラと比較して、 およそ 2:1 のコード圧縮、最大 4:1 のスピード向上 (20 MHz) を達成できます。

PIC16F8X は、最大 68 バイトの RAM、64 バイトのデータ EEPROM メモリ、13 本の I/O ピンを搭載しています。また、タイマー / カウンタも内蔵しています。

PIC16CXX ファミリーは、外付け部品点数を少なくすることにより、コスト削減、システム信頼性向上、低消費電力化できる特殊機能を備えています。4 種類のオシレータオプションは、低コストの RC オシレータ、低消費電力の LP オシレータ、標準クリスタルの XT、高速クリスタルの HS から選択できます。スリープ（パワーダウン）モードでは消費電力を少なくできます。内部、外部割り込みやリセットによりチップをスリープモードからウェークアップできます。

専用のオンチップ RC オシレータ付きの高信頼性ウォッチドッグタイマーを使用してソフトウェアのロックアップを防ぐことができます。

フラッシュプログラムメモリのデバイスは、同じパッケージを試作開発用と生産用の両方に使用することができます。インサーキットでの再プログラム書き込み可能なので、デバイスを製品から外さずにコードをアップデートできます。これは、デバイスを簡単に取り外しできないがコードの更新が必要なアプリケーションの試作品開発用に役立ちます。また、コードの更新が必要なリモートアプリケーションにも役立ちます。（課金情報など）

表 1-1 に、PIC16F8X の機能がまとめられています。図 3-1 は、PIC16F8X の 簡単なブロック図です。

PIC16F8X は、高速自動車や家電製品のモーター制御から低電力リモートセンサー、電子錠、セキュリティデバイスおよびスマートカードにいたるまでのさまざまなアプリケーションにフィットします。フラッシュ / EEPROM 技術により、アプリケーションプログラム のカスタマイズ（送信コード、モーターの速度、受信周波数、セキュリティコードなど）を非常に速く便利に行えます。小型表面実装パッケージにより、このマイクロコントローラシリーズは、省スペースの製品にも完璧にフィットします。低価格、低消費電力、高性能、使いやすさ、I/O のフレキシビリティにより、PIC16F8X は今までマイクロコントローラの使用が検討されなかった分野（タイマ機能、シリアル通信、キャプチャ、コンペアおよび PWM 機能、コプロセッサ製品など）にも大きな能力を発揮します。

インサーキットシリアルプログラミング機能があるので、組み立て、試験終了後の製品をカスタマイズ可能です。製品に製造番号をつけたり、キャリブレーションデータを格納したり、出荷直前に最新ファームウエアをプログラム書き込みできます。

### 1.1 ファミリーや将来の製品との互換性

PIC16C5X ファミリーのマイクロプロセッサを使い慣れているユーザなら、この製品が PIC16C5X アーキテクチャの拡張バージョンであることをおわかりになるでしょう。機能拡張のリストについては付録 A を参照してください。PIC16C5X デバイス用に書かれたコードは、簡単に PIC16F8X デバイスに移植できます（付録 B)。

### 1.2 開発サポート

PIC16CXX ファミリーは、フル機能のマクロアセンブラ、ソフトウェアシミュレータ、インサーキットエミュレータ、低価格開発用プログラムライターおよびフル機能のプログラムライターによりサポートされています。また、C コンパイラやファジーロジックサポートツールもあります。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**表 1-1　PIC16F8X ファミリーのデバイス**

| | | PIC16F83 | PIC16CR83 | PIC16F84 | PIC16CR84 |
|---|---|---|---|---|---|
| クロック | 最大動作周波数 (MHz) | 10 | 10 | 10 | 10 |
| メモリ | フラッシュプログラムメモリ ( ワード ) | 512 | - | 1K | - |
| | EEPROM プログラムメモリ ( ワード ) | - | - | - | - |
| | ROM プログラムメモリ ( ワード ) | - | 512 | - | 1K |
| | データメモリ ( バイト ) | 36 | 36 | 68 | 68 |
| | データ EEPROM ( バイト ) | 64 | 64 | 64 | 64 |
| 周辺機能 | タイマモジュール | TMR0 | TMR0 | TMR0 | TMR0 |
| | 割り込みソース | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 特殊機能 | I/O ピン | 13 | 13 | 13 | 13 |
| | 動作電圧範囲 ( ボルト ) | 2.0-6.0 | 2.0-6.0 | 2.0-6.0 | 2.0-6.0 |
| | パッケージ | 18 ピン DIP、SOIC | 18 ピン DIP、SOIC | 18 ピン DIP、SOIC | 18 ピン DIP、SOIC |

全ての PICmicro™ ファミリーデバイスは、パワー・オン・リセット、選択可能なウォッチドッグタイマ、選択可能なコードプロテクション、大きい I/O 電流駆動能力を持っています。
全ての PIC16F8X ファミリーデバイスは、クロックピン RB6 とデータピン RB7 を使用してシリアルプログラミングを行います。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 2.0 PIC16F8X デバイスの種類

複数の周波数範囲およびパッケージからデバイスが選択できます。アプリケーションと量産数量に応じて、この項を参照して適切なデバイスを選択してください。ご注文の際は、このデータシートの最後にある PIC16F8X の型番 / 品名を参照して、正しい製品番号をご指定ください。

デバイスには 4 つのタイプがあり、デバイス番号の一部がタイプを示しています。

1. F タイプ、PIC16F84、フラッシュ プログラム メモリ搭載、標準的な電圧で動作
2. LF タイプ、PIC16LF84、フラッシュ プログラム メモリ搭載、広範囲の電圧で動作
3. CR タイプ、PIC16CR83、ROM プログラム メモリ搭載、標準的な電圧で動作
4. LCR タイプ、PIC16LCR84、ROM プログラム メモリ搭載、広範囲の電圧で動作

メモリ マップやその他のアーキテクチャについての説明に限り、F、CR と記述する場合、LF、LCR のバージョンも含まれます。

### 2.1 フラッシュ デバイス

フラッシュ デバイスは低コストのプラスティック製パッケージで提供されます。このデバイスは消去および再書込みが可能なので、1 つのデバイスを製品としてだけではなく、プロトタイプ開発およびパイロットプログラムにも使用することができます。

さらに、フラッシュ バージョンは電気的消去が可能なので、インサーキットで、あるいは Microchip の PICSTART(R) Plus プログラマや PRO MSTE (R) II プログラマなどのデバイス プログラマによって、消去および再書込みができます。

### 2.2 クイック・ターンアラウンド・プロダクション (QTP) デバイス

マイクロチップテクノロジーは、量産ご注文に対して QTP プログラミング サービスを行っております。このサービスは、中／大量生産のためプログラム書き込みに工数をかけたくない、またコードパターンが一定している、という場合に便利です。デバイスのすべてのフラッシュロケーションとコンフィグレーションオプションが、工場でプログラムされます。コードの確認およびプロトタイプの動作確認を出荷前に行います。

QTP コード提出手順についての詳細は、マイクロチップ製品取扱店までお問い合わせください。

### 2.3 シリアル・クイック・ターンアラウンド・プロダクション (SQTP™) デバイス

マイクロチップは、各デバイスのシリアル番号をユーザが指定したプログラム番地にプログラムする独自のプログラミングサービスを行なっています。シリアル番号には、ランダム・疑似ランダム・連続番号があります。

シリアル プログラミングにより、エントリコードやパスワードや ID 番号として使用できるデバイスごとに異なる番号をプログラム書き込みすることができます。

SQTP コード提出手順の詳細は、マイクロチップ製品取扱店までお問い合わせください。

### 2.4 ROM デバイス

いくつかのマイクロチップのデバイスは、対応するプログラムメモリが ROM のデバイスがあります。このタイプのデバイスは、他のマイクロチップのデバイス (EPROM、EEPROM) よりも低価格です。

ROM デバイス (PIC15CR8X) には、プログラムメモリにはデバイスごとに個別の情報はプログラム書き込みできません。データ EEPROM に書き込むことは出来ます。

ROM コード提出手順の詳細は、マイクロチップ製品取扱店までお問い合わせください。

© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**NOTES:**


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 3.0 アーキテクチャ概要

PIC16CXX ファミリーの性能は、RISC 型マイクロプロセッサ特有のアーキテクチャによるものです。まず、PIC16CXX はハーバードアーキテクチャを採用しています。このアーキテクチャは、プログラムとデータが異なるメモリ領域を使ってアクセスされます。そのため、デバイスにはプログラムメモリバスとデータメモリバスが用意されています。これにより、プログラムとデータが ( 同一のバスでアクセスする ) 同一のメモリでフェッチされる従来型のフォン・ニューマン・アーキテクチャよりも処理能力が改善されています。更に、プログラムメモリとデータメモリを分離することで、8 ビット幅のデータワードと異なるサイズの命令が可能になります。PIC16CXX オペコードは命令を 1 ワードで構成可能な 14 ビット幅です。プログラムメモリバスが 14 ビット幅なので 14 ビットの命令を 1 サイクルでフェッチすることを可能にします。2 ステージのパイプラインは、命令のフェッチと実行を同時実行します。( 例 3-1)。したがって、すべての命令は、プログラム分岐を除き 1 サイクルで実行されます。

PIC16F83、PIC16CR83 のプログラムメモリは 512 x 14、PIC16F84、PIC16CR84 は 1K x 14 です。すべて内蔵のプログラムメモリです。

PIC16CXX は、そのレジスタファイルやデータメモリを直接的または間接的にアドレス可能です。プログラムカウンタを含むすべての特殊機能レジスタはデータメモリに配置されます。非常に直交的 ( 対照的 ) な命令セットにより、どのアドレッシングモードを使用してもすべてのレジスタにすべてのオペレーションが実行できます。このような対照的な性質と「特定の制約条件」がないために、簡単で効率的な PIC16CXX でのプログラミングが実現され、学習効率が極めて向上します。

PIC16CXX には、8 ビット ALU およびワーキングレジスタがあります。ALU は汎用演算ユニットです。これによってワーキングレジスタと全レジスタファイル間の計算とブール演算が実行できます。

ALU は 8 ビット幅で、加算、減算、シフトと論理演算が可能です。特に指定がない限り、演算の実行は 2 の補数法で行なわれます。2 つのオペランドの命令では、一般的に 1 つのオペランドはワーキングレジスタ (W レジスタ ) で、もう 1 つはファイルレジスタまたはリテラルです。1 つのオペランド命令では、W レジスタかファイルレジスタのどちらかになります。

W レジスタは ALU の実行に使用される 8 ビットのワーキングレジスタで、アドレス指示できないレジスタではありません。

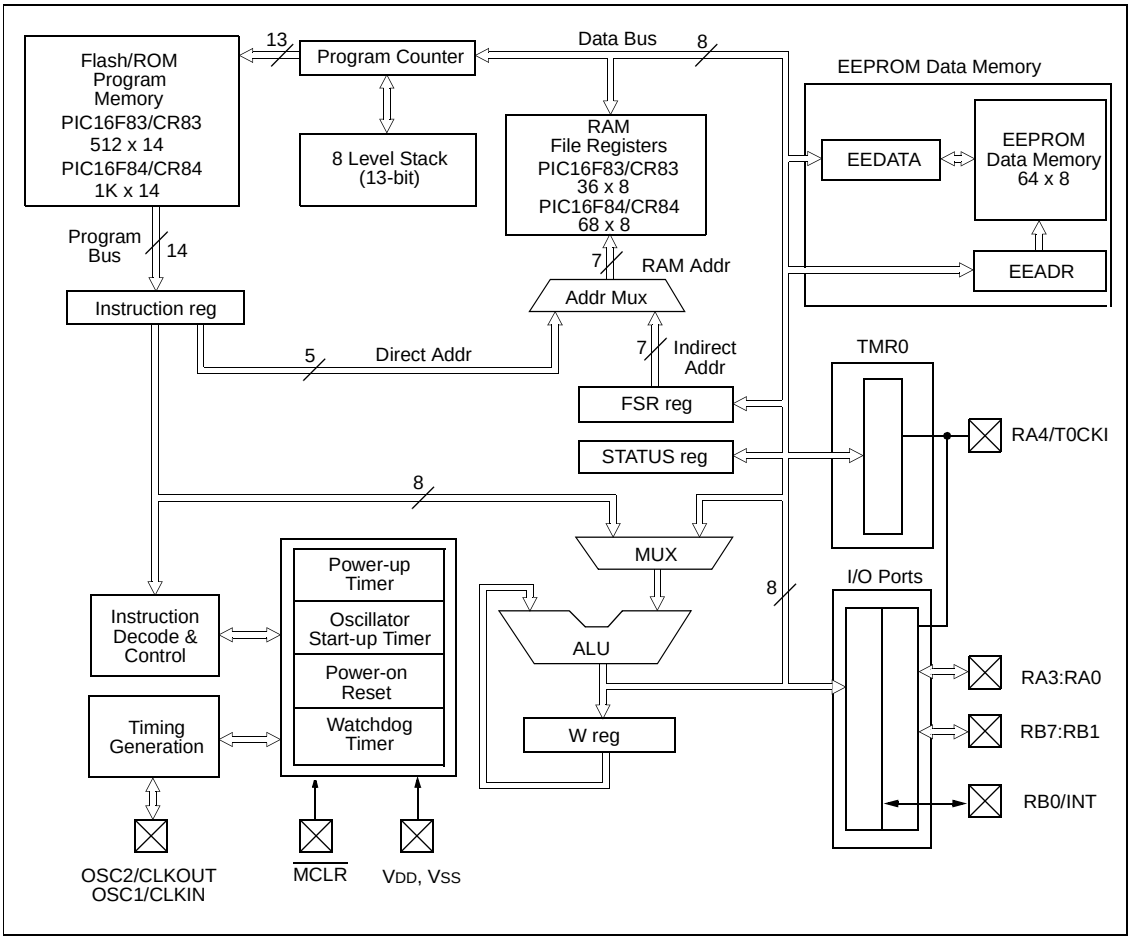
実行される命令によっては、ALU が STATUS レジスタのキャリー (C)、デジットキャリー (DC)、ゼロ (Z) ビットの値に影響を与えます。C と DC ビットは ボロービットとデジットボロービットとして扱われます。一例として SUBLW と SUBWF 命令を参照してください。

PIC16F8X のフロック図を図 3-1 に、対応するピンを表 3-1 に示します。

© 1998 Microchip Technology Inc.


この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

**図 3-1: PIC16F8X ブロック図**





© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**表 3-1 PIC16F8X ピンアウトの説明**

| ピンの名称 | DIP No. | SOIC No. | I/O/P Type | Buffer Type | 説明 |
|---|---|---|---|---|---|
| OSC1/CLKIN | 16 | 16 | I | ST/CMOS (3) | オシレータ水晶入力 / 外部クロックソース入力。 |
| OSC2/CLKOUT | 15 | 15 | O | — | オシレータ水晶出力。水晶オシレータモード時に水晶またはセラミックレゾネータに接続。RC モードでは、OSC 1 の 1/4 の周波数の OSC2 ピン出力 CLKOUT、命令サイクルレートを示す。. |
| $\overline{MCLR}$ | 4 | 4 | I/P | ST | マスター・クリア ( リセット ) 入力／プログラム電圧入力。このピンはデバイスのアクティブ・ロー・リセットになります。 |
| | | | | | PORTA は双方向 I/O ポートです。 |
| RA0 | 17 | 17 | I/O | TTL | |
| RA1 | 18 | 18 | I/O | TTL | |
| RA2 | 1 | 1 | I/O | TTL | |
| RA3 | 2 | 2 | I/O | TTL | |
| RA4/T0CKI | 3 | 3 | I/O | ST | TMR0 タイマ / カウンタへのクロック入力として選択可能。出力はオープンドレインタイプ。 |
| | | | | | PORTB は双方向 I/O ポートです。PORTB は全入力で内部弱プルアップがソフトウエアで選択可能です。。 |
| RB0/INT | 6 | 6 | I/O | TTL/ST (1) | RB0/INT は外部割り込みピンとして選択可能です。 |
| RB1 | 7 | 7 | I/O | TTL | |
| RB2 | 8 | 8 | I/O | TTL | |
| RB3 | 9 | 9 | I/O | TTL | |
| RB4 | 10 | 10 | I/O | TTL | ピン変化による割り込み。 |
| RB5 | 11 | 11 | I/O | TTL | ピン変化による割り込み。 |
| RB6 | 12 | 12 | I/O | TTL/ST (2) | ピン変化による割り込み。シリアルプログラミングクロック。 |
| RB7 | 13 | 13 | I/O | TTL/ST (2) | ピン変化による割り込み。シリアルプログラミングデータ。 |
| VSS | 5 | 5 | P | — | ロジックおよび I/O ピン用接地基準。 |
| VDD | 14 | 14 | P | — | ロジックおよび I/O ピン用正極電源。 |

凡例： I = 入力, O = 出力, I/O = 入力／出力, P = 電力, _ = なし, TTL = TTL 入力, ST = シュミット・トリガ入力
注 1: このバッファは外部割り込み入力のときはシュミットトリガ入力になります。
注 2: このバッファはシリアルプログラミングモードのときはシュミットトリガ入力になります。
注 3: このバッファは RC オシレータモードのときはシュミットトリガ入力になり、それ以外の時は CMOS 入力になります。

© 1998 Microchip Technology Inc.


この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

### 3.1 クロック方式／命令サイクル

クロック入力（OSC1 から ）は、内部で 4 分周され、Q1、Q2、Q3、Q4 と呼ばれる 4 層の重ならない直角位相クロックを発生させます。内部で、プログラムカウンター（PC）が Q1 毎にインクリメントされ、命令がプログラムメモリからフェッチされ､Q4 で命令レジスタにラッチされます。命令は次の Q1 から Q4 の間にデコードされ実行されます。クロックと命令の実行フローを図 3-2 に示します。

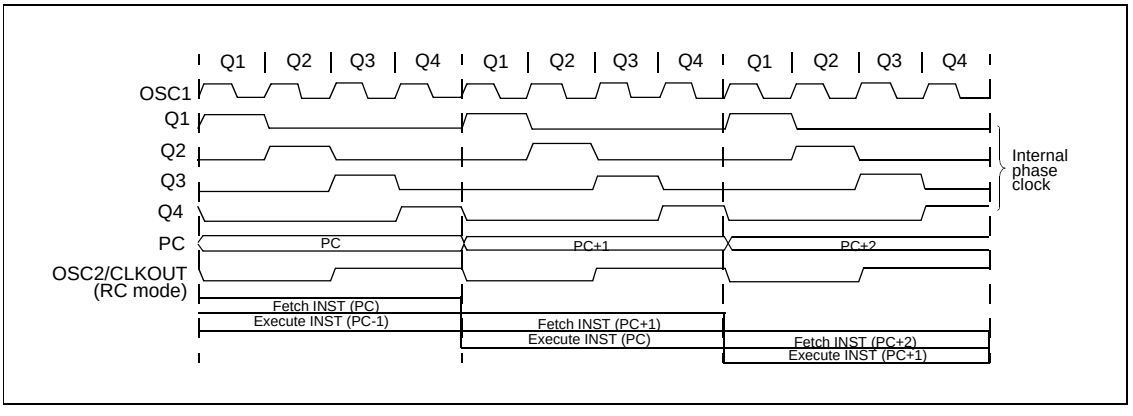
### 3.2 命令フロー／パイプライン

命令サイクルは、4 つの Q サイクル（Q1、Q2、Q3 および Q4）で構成されています｡命令のフェッチと実行は、パイプライン方式で行なわれ、フェッチに 1 命令サイクル､デコードと実行に 1 命令サイクルかかります。しかし、パイプラインによって各命令は 1 サイクルで効率的に実行されます。命令によってプログラムカウンタに変更が生じる場合（GOTO など ）は、命令を実行するために 2 サイクルが必要です｡( 例 3-1 参照 )

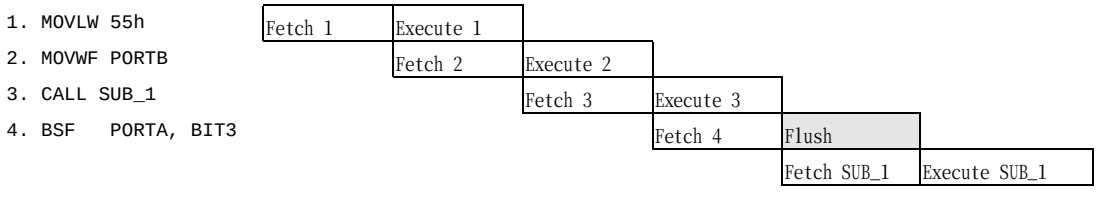
フェッチサイクルは､プログラムカウンタ（PC）が Q1 でインクリメントすることで始まります。

実行サイクルでは､フェッチされた命令はサイクル Q1 で命令レジスタ（IR）にラッチされています。この命令は、その後 Q2、Q3、Q4 サイクルの間にデコードされ実行されます。データメモリは､Q2 の間でリード（ オペランドのリード ）され、Q4 の間でライト（ 結果格納先へのライト ）されます。

図 3-2: クロック／命令サイクル




**例 3-1: 命令パイプラインフロー**




プログラム分岐以外の命令はすべてシングルサイクルです。プログラム分岐命令は、パイプラインにフェッチされていた命令を廃棄して、新しい命令をフェッチして実行するために 2 サイクルかかります。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

## 4.0 メモリ構成

PIC16F8X には 2 つのメモリ領域があります。プログラムメモリとデータメモリです。それぞれの領域には独自のバスがあるので、同じオシレータサイクルで各領域へアクセスすることが可能です。データメモリは更に汎用 RAM と 特殊機能レジスタ (SFR) に分類されます。ここでは、" コア " を制御する SFR について説明します。SFR の周辺モジュールを制御する SFR については、各周辺モジュールに関する項で説明します。

データメモリ領域には、データ EEPROM メモリも含まれます。このメモリはデータメモリに直接アクセスできませんが間接的にアクセスできます。つまり、間接アドレスポインタでデータ EEPROM メモリのリード／ライトのためのアドレスを指定します。64 バイトのデータ EEPROM メモリのアドレス範囲は 0h から 3Fh までです。メモリの詳細については、7.0 項を参照してください。

### 4.1 プログラムメモリの構成

PIC16FXX には、8K x 14 のプログラムメモリ空間をアドレス指定できる 13 ビットのプログラムカウンタがあります。PIC16F83 および PIC16CR83 の場合は、最初の 512 x 14 (0000h-01FFh) が物理的に存在します。( 図 4-1)。PIC16F84 と PIC16CR84 の場合は、最初の 1K x 14 (0000h-03FFh) が物理的に存在します ( 図 4-2)。上記の領域を超えてアクセスした場合は、ラップアラウンドします。例えば、PIC16F84 のプログラム番地が 20h、420h、820h、C20h、1020h、1420h、1820h、1C20h の場合、すべて同じ命令となります。

リセットベクタは 0000h 、割り込みベクタは 0004h です。

**図 4-1: プログラムメモリとスタック配置図 - PIC16F83/CR83**

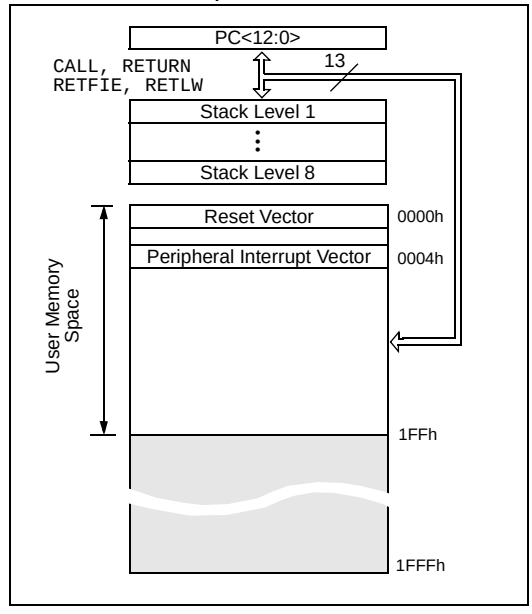
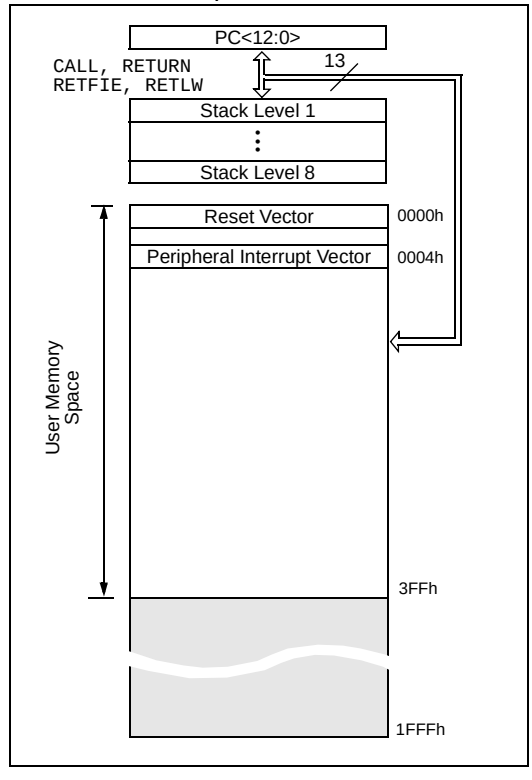



**図 4-2: プログラムメモリとスタック配置図 - PIC16F84/CR84**






この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

## 4.2 データメモリ構成

データメモリは 2 つの領域に区分されます。1 つは特殊機能レジスタ (SFR) 領域で、もう 1 つは汎用レジスタ (GPR) 領域です。SFR はデバイスの動作を制御します。

データメモリの SFR 領域も GPR 領域もバンク化されています。GPR 領域は、116 バイト以上の汎用 RAM を利用できるようにするためにバンク化されています。SFR のバンク化された領域は、周辺機能を制御するレジスタ用です。バンク切り替えにはバンク選択のための制御ビットが必要です。その制御ビットは、STATUS レジスタに配置されています。図 4-1 および図 4-2 に、データメモリマップの構成を示します。

命令 MOVWF および MOVF は、値を W レジスタからレジスタファイル ("F) の任意の位置に、またはその逆に移動させることができます。

データメモリのどこへでも、各レジスタファイルの絶対アドレスを使用して直接、またはファイルセレクトレジスタ (FSR) を通して間接的にアクセスできます (4.5 項 )。直接アドレッシングでは、データメモリのバンク化された領域へのアクセスに RP1:RP0 ビットの現在値が使用されます。

データメモリは 2 つの汎用レジスタおよび特殊機能レジスタがあるバンクに区分されます。バンク 0 は RP0 ビットをクリアすると選択されます (STATUS<5>)。RP0 ビットをセットすると、Bank 1 が選択されます。各バンクは最大 7Fh (128 バイト ) まで拡張できます。各バンクの最初の 12 個のロケーションは、特殊機能レジスタのために予約されています。残りはスタティック RAM の汎用レジスタ用です。

### 4.2.1 汎用レジスタファイル

すべてのデバイスに汎用レジスタ (GPR) 領域があります。各 GPR は 8 ビット幅で、直接または FSR を通して間接的にアクセスされます (4.5 項 )。

バンク 1 の GPR アドレスは、バンク 0 のアドレスにマップされます。例えば、アドレス番地 0Ch と 8Ch は、同一の GPR にアクセスします。

### 4.2.2 特殊機能レジスタ

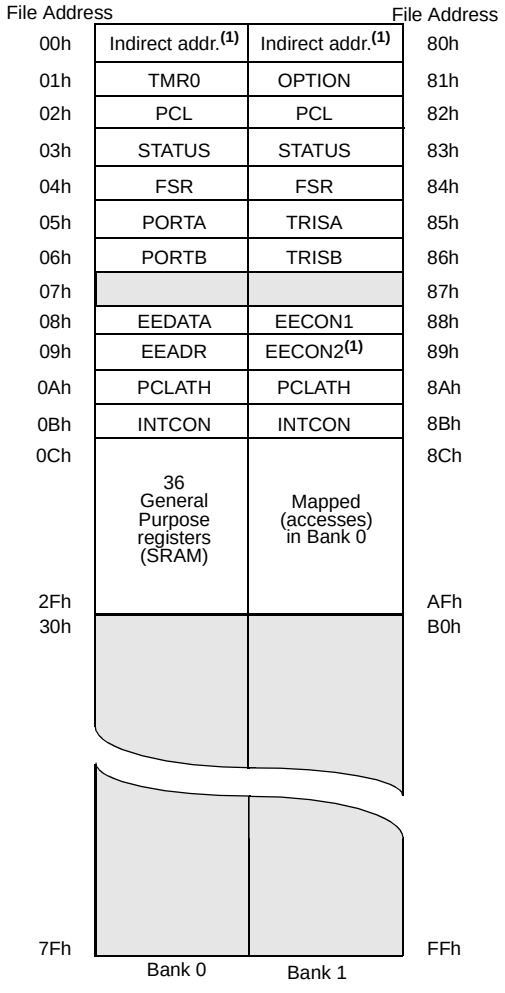
特殊機能レジスタ ( 図 4-1、図 4-2 および表 4-1) は CPU と周辺機能により使用され、デバイスの動作を制御します。このレジスタはスタティック RAM です。

特殊機能レジスタはコア機能と周辺機能の 2 種類に分類できます。コア機能に関連したレジスタは、この項で説明します。周辺機能の動作に関連したレジスタに関しては、各周辺機能の項に説明します。


© 1998 Microchip Technology Inc.

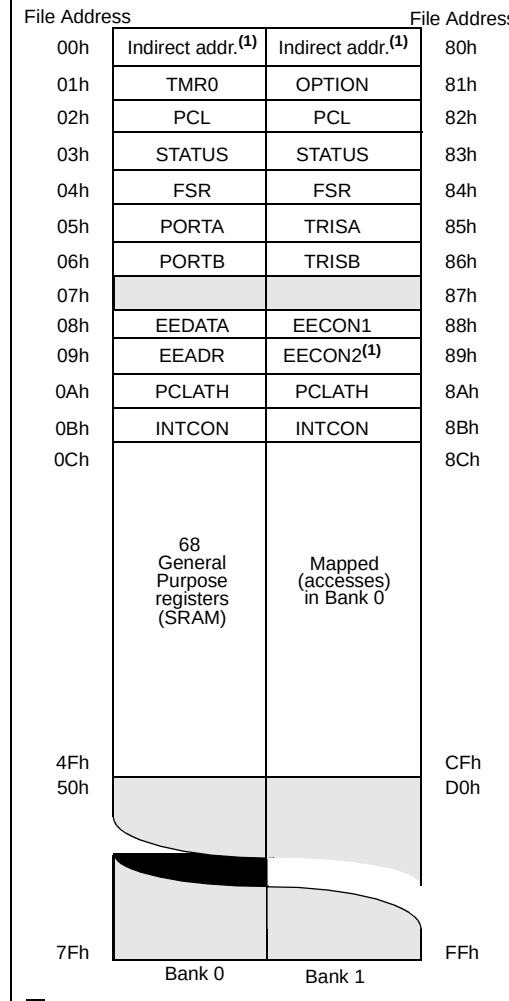
この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

**図 4-1: レジスタファイル配置図 - PIC16F83/CR83**




注 **1:** 物理的には存在しません。

**図 4-2: レジスタファイル配置図 - PIC16F84/CR84**




注 **1:** 物理的には存在しません。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**表 4-1: レジスタファイル一覧**

| Address | Name | Bit 7 | Bit 6 | Bit 5 | Bit 4 | Bit 3 | Bit 2 | Bit 1 | Bit 0 | Value on Power-on Reset | Value on all other resets (Note3) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **Bank 0** | | | | | | | | | | | |
| 00h | INDF | FSR の内容のアドレスのデータメモリ ( 物理的には存在しない ) | | | | | | | | ---- ---- | ---- ---- |
| 01h | TMR0 | 8 ビットリアルタイム・クロック／カウンタ | | | | | | | | xxxx xxxx | uuuu uuuu |
| 02h | PCL | プログラムカウンタの下位 8 ビット | | | | | | | | 0000 0000 | 0000 0000 |
| 03h | STATUS (2) | IRP | RP1 | RP0 | $\overline{TO}$ | $\overline{PD}$ | Z | DC | C | 0001 1xxx | 000q quuu |
| 04h | FSR | 間接データメモリアドレスポインタ | | | | | | | | xxxx xxxx | uuuu uuuu |
| 05h | PORTA | — | — | — | RA4/T0CKI | RA3 | RA2 | RA1 | RA0 | ---x xxxx | ---u uuuu |
| 06h | PORTB | RB7 | RB6 | RB5 | RB4 | RB3 | RB2 | RB1 | RB0/INT | xxxx xxxx | uuuu uuuu |
| 07h | | 使用しない、「0」としてリードされる | | | | | | | | ---- ---- | ---- ---- |
| 08h | EEDATA | EEDATAEEPROM データレジスタ | | | | | | | | xxxx xxxx | uuuu uuuu |
| 09h | EEADR | EEADREEPROM アドレスレジスタ | | | | | | | | xxxx xxxx | uuuu uuuu |
| 0Ah | PCLATH | — | — | — | PC の上位 5 ビットへの書き込みバッファ (1 ) | | | | | ---0 0000 | ---0 0000 |
| 0Bh | INTCON | GIE | EEIE | T0IE | INTE | RBIE | T0IF | INTF | RBIF | 0000 000x | 0000 000u |
| **Bank 1** | | | | | | | | | | | |
| 80h | INDF | FSR の内容のアドレスのデータメモリ ( 物理的には存在しない ) | | | | | | | | ---- ---- | ---- ---- |
| 81h | OPTION_REG | $\overline{RBPU}$ | INTEDG | T0CS | T0SE | PSA | PS2 | PS1 | PS0 | 1111 1111 | 1111 1111 |
| 82h | PCL | プログラムカウンタ (PC) の下位 8 ビット | | | | | | | | 0000 0000 | 0000 0000 |
| 83h | STATUS (2) | IRP | RP1 | RP0 | $\overline{TO}$ | $\overline{PD}$ | Z | DC | C | 0001 1xxx | 000q quuu |
| 84h | FSR | 間接データメモリアドレスポインタ | | | | | | | | xxxx xxxx | uuuu uuuu |
| 85h | TRISA | — | — | — | PORTA データ入出力設定レジスタ | | | | | ---1 1111 | ---1 1111 |
| 86h | TRISB | PORTB データ入出力設定レジスタ | | | | | | | | 1111 1111 | 1111 1111 |
| 87h | | 使用しない、「0」としてリードされる | | | | | | | | ---- ---- | ---- ---- |
| 88h | EECON1 | — | — | — | EEIF | WRERR | WREN | WR | RD | ---0 x000 | ---0 q000 |
| 89h | EECON2 | EEPROM 制御レジスタ 2 ( 物理的には存在しない ) | | | | | | | | ---- ---- | ---- ---- |
| 0Ah | PCLATH | — | — | — | PC の上位 5 ビットへの書き込みバッファ (1 ) | | | | | ---0 0000 | ---0 0000 |
| 0Bh | INTCON | GIE | EEIE | T0IE | INTE | RBIE | T0IF | INTF | RBIF | 0000 000x | 0000 000u |

凡例 : x = 不定、u = 不変、- = なし、「0」としてリードされる、q = 条件に応じて変化する値。

注 1: プログラムカウンタの上位バイトには直接アクセスできません。PCLATH は PC<12:8> のスレーブレジスタです。PCLATH の内容はプログラムカウンタの上位バイトに転送されますが、PC<12:8> の内容が PCLATH に転送されることはありません。

2: STATUS レジスタの TO と PD のステータスビットは、MCLR リセットによる影響を受けません。

3: 他の ( 電源 ON ではない ) リセットには、MCLR ピン入力の外部リセット およびウォッチドッグ・タイマ・リセットがあります。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

#### 4.2.2.1 STATUS レジスタ

STATUS レジスタは、ALU の演算フラグ、リセット状態およびデータメモリのバンク選択ビットを含みます。

STATUS レジスタは他のレジスタと同様、命令の結果格納先になることができます。STATUS レジスタが Z、DC または C ビットに影響を与える命令の結果格納先になった場合は、これら 3 つのビットへの書き込みはできません。これらのビットはデバイスのロジックに従いセットまたはクリアされます。更に、TO と PD ビットには書き込みできません。したがって、STATUS レジスタを結果格納先とした命令の結果は、意図したものと異なる場合があります。

例えば、CLRF STATUS は、上位 3 ビットをクリアし、Z ビットをセットします。これによって STATUS レジスタは 000u uluu (u = 不変 ) のままです。

したがって、BCF、BSF、SWAPF および MOVWF の命令だけを使用して STATUS レジスタを変更することを推奨します ( 表 9-2)。これらの命令はステータスビットに影響を与えないからです。

**注意 1： IRP ビットおよび RP1 ビット (STATUS<7:6>) は、PIC16F8X では使用せず、クリアされているものとしてプログラミングされる必要があります。これらのビットを汎用 R/W ビットとして使用することは、将来の製品との互換性に影響するおそれがあるため、推奨できません。**

**注意 2： C ビットおよび DC ビットは、それぞれ減算で borrow および digit borrow out ビットとして動作します。使用例については、SUBLW 命令および SUBWF 命令を参照してください。**

**注意 3： STATUS レジスタが Z ビット、DC ビット、C ビットに影響を与える命令の結果格納先である場合、この 3 つのビットへの書き込みはできません。指定されたビットは、デバイスの論理に従って更新されます。**

**図 4-1: STATUS レジスタ (ADDRESS 03h、83h)**

| R/W-0 | R/W-0 | R/W-0 | R-1 | R-1 | R/W-x | R/W-x | R/W-x |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| IRP | RP1 | RP0 | $\overline{TO}$ | $\overline{PD}$ | Z | DC | C |
| bit7 | | | | | | | bit0 |

R = リード可能ビット
W = ライト可能ビット
U = 使用しないビット、「0」としてリードされる
- n = POR リセット時の値

bit 7: IRP: レジスタバンク選択ビット ( 間接アドレス指定に使用 )
0 = Bank 0, 1 (00h - FFh)
1 = Bank 2, 3 (100h - IFFh)
IRP ビットは、PICI 6F8X では使用されません。IRP は常にクリアにしておいてください。

bit 6-5: RPI :RPO: レジスタ・バンク選択ビット ( 直接アドレス指定に使用 )
00 = バンク 0 (00h - 7Fh)
01 * バンク 1 (80h - FFh)
10 = バンク 2 (100h - 17Fh)
11 = バンク 3 (180h - 1FFh)
各バンクは 128 バイトです。ビット RP0 だけが PICI 6F8X で使用されます。RPI は常にクリアにしておいてください。

bit 4: $\overline{TO}$: タイムアウトビット
1 = 電源 ON 後、CLRWT 命令または SLEEP 命令の実行後
0 = WDT タイムアウト発生

bit 3: $\overline{PD}$: パワーダウンビット
1 = 電源 ON 後または CLRWDT 命令による
0 = SLEEP 命令の実行による

bit 2: Z: ゼロビット
1 = 計算またはロジック演算の結果がゼロ
0 = 計算またはロジック演算の結果がゼロでない

bit 1: DC: デジットキャリー／$\overline{ボロー}$ビット (ADDWF および ADDLW 命令用 ) ( $\overline{ボロー}$の場合は極性が逆になります )
1 = 結果により下位 4 ビット目からキャリーが発生した
0 = 結果により下位 4 ビット目からキャリーが発生しなかった

bit 0: C: キャリー／$\overline{ボロー}$ビット (ADDWF および ADDLW 命令用 )
1 = 結果により最上位ビットからキャリーが発生した
0 = 結果により最上位ビットからキャリーが発生しなかった
注: ボローの場合は極性が逆になります。2 番目のオペランドの 2 の補数を加算することにより減算が実行されます。
注 : ローテート (RRF、RLF) 命令の場合は、このキャリービットはソースレジスタのビットを共にシフトされます。

© 1998 Microchip Technology Inc.


この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

#### 4.2.2.2 OPTION_REG レジスタ

OPTION_REG レジスタは、PORTB に TMR0/WDT プリスケーラ、外部 INT 割り込み、TMR0、弱プルアップを設定するための各種コントロールビットを含む、リード / ライト可能なレジスタです。

注 : プリスケーラが WDT (PSA = '1') に割り当てられている場合、TMR0 は 1:1 のプリスケーラ割り当てになります。

**図 4-1 : OPTION レジスタ (ADDRESS 81H)**

| R/W-1 | R/W-1 | R/W-1 | R/W-1 | R/W-1 | R/W-1 | R/W-1 | R/W-1 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| $\overline{\text{RBPU}}$ | INTEDG | T0CS | T0SE | PSA | PS2 | PS1 | PS0 |
| bit7 | | | | | | | bit0 |

**R = リード可能ビット**
**W = ライト可能ビット**
**U = 使用しないビット、「0」としてリードされる**
**- n = POR リセットによる値**

bit 7: $\overline{\text{RBPU}}$: PORTB プルアップイネーブルビット
1 = PORTB プルアップを使用しない
0 = PORTB プルアップを使用する

bit 6: INTEDG: 割り込みエッジ選択ビット
1 = RB0/INT ピンの立ち上がりエッジにより割り込み
0 = RB0/INT ピンの立ち下がりエッジにより割り込み

bit 5: TOCS: TMR0 クロックソース選択ビット
1 = RA4/T0CKI ピンの入力
0 = 内部命令サイクルクロック (CLKOUT)

bit 4: TOSE: TMR0 ソースエッジ選択ビット
1 = RA4/T0CKI ピンの入力が High から Low でインクリメント
0 = RA4/T0CKI ピンの入力が Low から High でインクリメント

bit 3: PSA: プリスケーラ割り当てビット
1 = プリスケーラは WDT へ割り当て
0 = プリスケーラは TMR0 へ割り当て

bit 2-0: PS2:PS0: プリスケーラレート選択ビット

| ビット値 | TMR0 レート | WDT レート |
|---|---|---|
| 000 | 1 : 2 | 1 : 1 |
| 001 | 1 : 4 | 1 : 2 |
| 010 | 1 : 8 | 1 : 4 |
| 011 | 1 : 16 | 1 : 8 |
| 100 | 1 : 32 | 1 : 16 |
| 101 | 1 : 64 | 1 : 32 |
| 110 | 1 : 128 | 1 : 64 |
| 111 | 1 : 256 | 1 : 128 |


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

#### 4.2.2.3 INTCON レジスタ

INTCON レジスタは、すべての割り込みソースのイネーブルビットを含む、リード / ライト可能なレジスタです。

注 : 割り込みフラグビットは割り込み条件が発生した場合に対応するイネーブルビットまたはグローバル割り込みイネーブルビット GIE (INTCON<7>) の状態に関係なくセットされます。

**図 4-1: INTCON レジスタ (ADDRESS 0Bh, 8Bh)**

| R/W-0 | R/W-0 | R/W-0 | R/W-0 | R/W-0 | R/W-0 | R/W-0 | R/W-x |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| GIE | EEIE | T0IE | INTE | RBIE | T0IF | INTF | RBIF |
| bit7 | | | | | | | bit0 |

R = リード可能ビット
W = ライト可能ビット
U = 使用しないビット、「0」としてリードされる
- n = POR リセットによる値

bit 7: GIE: グローバル割り込みイネーブルビット
1 = すべてのマスクされていない割り込み発生を許可する
0 = 全ての割り込み発生を禁止する
注 : 割り込みの動作については、8.5 項を参照。

bit 6: EEIE: EE ライト完了割り込みイネーブルビット
1 = EE ライト完了割り込み発生を許可する
0 = EE ライト完了割り込み発生を禁止する

bit 5: T0IE: TMR0 オーバーフロー割り込みイネーブルビット
1 = TMR0 割り込み発生を許可する
0 = TMR0 割り込み発生を禁止する

bit 4: INTE: RB0/INT 割り込みイネーブルビット
1 = RB0/INT 割り込み発生を許可する
0 = RB0/INT 割り込み発生を禁止する

bit 3: RBIE: RB ポート変化割り込みイネーブルビット
1 = RB ポート変化割り込み発生を許可する
0 = RB ポート変化割り込み発生を禁止する

bit 2: T0IF: TMR0 オーバーフロー割り込みフラグビット
1 = TMR0 がオーバーフローした ( ソフトウェアでクリア要 )
0 = TMR0 がオーバーフローしていない

bit 1: INTF: RB0/INT 割り込みフラグビット
1 = RB0/INT 割り込みが発生した ( ソフトウェアでクリア要 )
0 = RB0/INT 割り込みが発生していない

bit 0: RBIF: RB ポート変更割り込みフラグビット
1 = 少なくとも 1 つ以上の RB7:RB4 ピンの状態が変化した ( ソフトウェアでクリア要 )
0 = 状態が変化した RB7:RB4 ピンはない

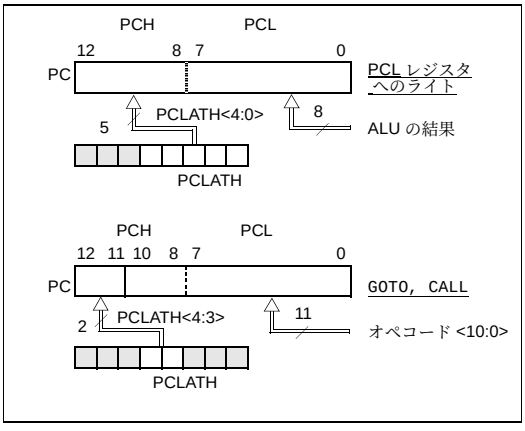
© 1998 Microchip Technology Inc.


この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

## 4.3 プログラムカウンタ：PCL と PCLATH

プログラムカウンタ (PC) は 13 ビット幅です。下位バイトは PCL レジスタで、リード / ライト可能なレジスタです。PC (PC<12:8>) の上位バイトは、直接リード / ライトを行うことができず、PCLATH レジスタを使用します。PCLATH (PC latch high) レジスタは、PC<12:8> 用のレジスタです。PC に新しい値がロードされる時 (CALL、GOTO または PCL へのライトの時 )、PCLATH の内容がプログラムカウンタの上位バイトに転送されます。PC の上位ビットは、図 4-1 に示す PCLATH からロードされます。

**図 4-1: 各状態での PC のロード方法**




### 4.3.1 計算 GOTO

計算 GOTO は、プログラムカウンタにオフセットを加算することによって実行されます (ADDWF PCL)。計算 GOTO を使用してテーブルリードを実行する時、テーブルのプログラムメモリ番地が PCL メモリの境界 (256 ワードごとの境界 ) を越える場合、注意が必要です。アプリケーションノート「Implementing a Table Read」(AN556) を参照してください。

### 4.3.2 プログラムメモリページング

PIC16F83 および PIC16CR83 には 512 ワードのプログラムメモリがあります。PIC16F84 および PIC16CR84 には 1K ワードのプログラムメモリがあります。CALL 命令および GOTO 命令には 11 ビットのアドレス指定ができます。この 11 ビットのアドレス範囲によって、2Kのプログラムメモリのページサイズ内でのプログラム分岐ができます。将来の PIC16F8X プログラムメモリ拡張用にプログラムメモリページ指定用に 2 ビットがあります。そのページングビットは、PCLATH<4:3> ビットです。( 図 4-1)。CALL 命令または GOTO 命令を実行する場合、ユーザはこれらのページビット (PCLATH<4:3>) が分岐先のプログラムメモリページになっていることを確認する必要があります。CALL 命令 ( または割り込み ) が実行される場合、13 ビットの PC 全体がスタックに ' プッシュ ' されます ( 次の項を参照 )。これによって、リターン命令 ( スタックから PC を " ポップ " する ) には PCLATH<4:3> の操作は不要です。

注 : PIC16F8X は、プログラムメモリページ 1、2 および 3 (0800h - 1FFFh) に使用される PCLATN<4:3> ビットを無視します。PCLATH<4:3> を汎用 R/W ビットとして使用することは、将来の製品との互換性に影響する可能性があるため、推奨できません。

## 4.4 スタック

PIC16FXX には 8 レベル、13 ビット幅のハードウェア・スタックがあります ( 図 4-1 )。スタック領域はプログラム領域やデータ領域の一部ではありません。スタック・ポインタはリード / ライトできません。

CALL 命令が実行された時や割り込みが発生した時、13 ビット PC 全体が スタックに " プッシュ " されます。スタックは、RETURN、RETLW または RETFIE 命令の実行により " ポップ " されます。PCLATH はプッシュまたはポップの影響を受けません。

注 : プッシュまたはポップと呼ばれる命令のニーモニックはありません。これらは CALL、RETURN、RETLW、RETFIE などの命令の実行、または割り込み発生のときの動作**です。**

スタックは循環バッファとして動作します。すなわち、スタックが 8 回プッシュされると、9 回目のプッシュでは 1 回目のプッシュで格納された値が上書きされます。10 回目のプッシュでは 2 回目のプッシュが上書きされます ( 以下同様に続きます )。スタックが有効に 9 回ポップされると、PC 値は 1 回目のポップと同じになります。

注 : スタック・オーバーフローやスタック・アンダースローを報告するステータスビットはありません。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

## 4.5 間接データアドレッシング： INDF および FSR レジスタ

INDF は物理的には存在しないレジスタです。INDF へのアクセスは、実際には FSR レジスタ (FSR はポインタ ) の内容のアドレスのレジスタをアクセスします。これが間接アドレッシングです。

**例 4-1: 間接アドレッシング**

- レジスタ番地 05 には値 10h が入っています
- レジスタ番地 06 には値 0Ah が入っています
- 値 05 を FSR レジスタにロードします。
- INDF をリードすると 10h がリードされます。
- FSR の値を インクリメントします (FSR = 06)
- INDF をリードすると 0Ah がリードされます。

INDF 自体を間接的にリードすると (FSR = 0)、00h がリードされます。INDF レジスタへ間接的に書き込むと、ノーオペレーションになります。( ただし、STATUS ビットは影響を受けることがあります。)

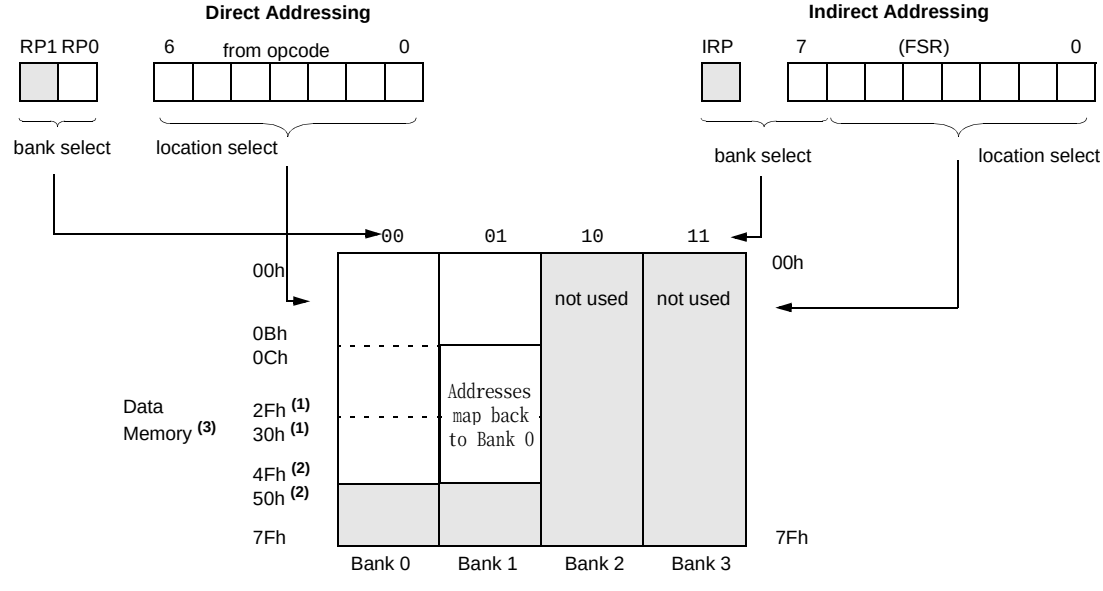
間接アドレッシングを使用して RAM 番地 20h-2Fh を初期化する簡単なプログラムを例 4-2 に示します。

**例 4-2: 間接アドレッシングを使用した RAM の初期化**

```
          movlw  0x20  ;initialize pointer
          movwf  FSR   ;  to RAM
NEXT      clrf   INDF  ;clear INDF register
          incf   FSR   ;inc pointer
          btfss  FSR,4 ;all done?
          goto   NEXT  ;NO, clear next
CONTINUE
          :            ;YES, continue
```

有効な 9 ビットアドレスは、図 4-1 に示すように、8 ビットの FSR レジスタと IRP ビット (STATUS<7>) を連結することによって取得できます。しかし、IRP は PIC16F8X では使用されません。

**図 4-1: 直接／間接アドレッシング**




注 1: PIC16F83 および PIC16CR83 デバイス。
2: PIC16F84 および PIC16CR84 デバイス。
3: メモリマップの詳細に関しては、図 4-1 を参照のこと。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

**NOTES:**


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 5.0 I/O ポート

PIC16F8X には PORTA と PORTB の 2 つのポートがあります。ポートピンの一部は複数の機能とマルチプレクスされています。

### 5.1 PORTA と TRISA レジスタ

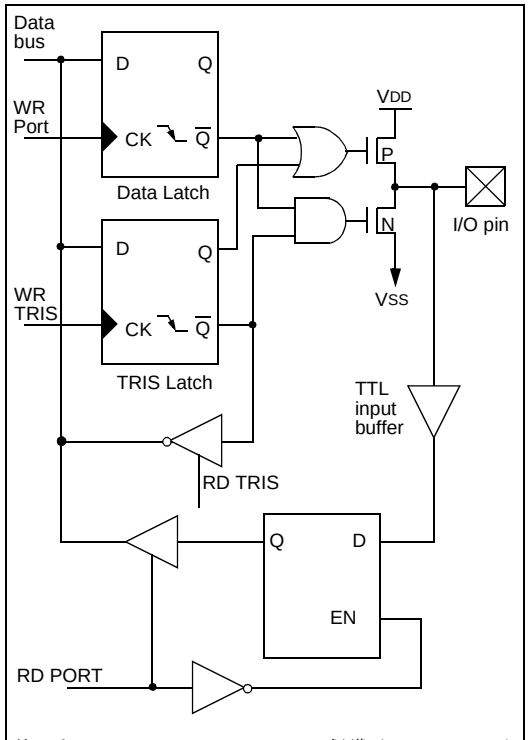
PORTA は 5 ビット幅のラッチです。RA4 はシュミットトリガ入力およびオープンドレイン出力です。他のすべての RA ポートピンは TTL レベル入力および CMOS 出力ドライバを備えています。すべてのピンは入出力設定ビット (TRIS レジスタ ) を備えています。

TRISA ビットがセット (=1) されると、そのビットに対応する PORTA ピンが入力となり、出力ドライバがハイインピーダンスモードになります。TRISA ビットをクリア (=0) されると、そのビットに対応する PORTA ピンが出力となり、出力ラッチの内容がピンに出力されます。

PORTA レジスタをリードするとピンの状態がリードされ、PORTA レジスタへのライトはポートラッチへのライトになります。すべてのライトはリード・モディファイ・ライトです。つまり、ポートへのライトは、最初にポートピンがリードされ、次にこの値が変更され、ポートデータラッチにライトされることを意味します。

RA4 ピンは TMR0 クロック入力にも使用できます。

**図 5-1 : ピン RA3:RA0 のブロック図**

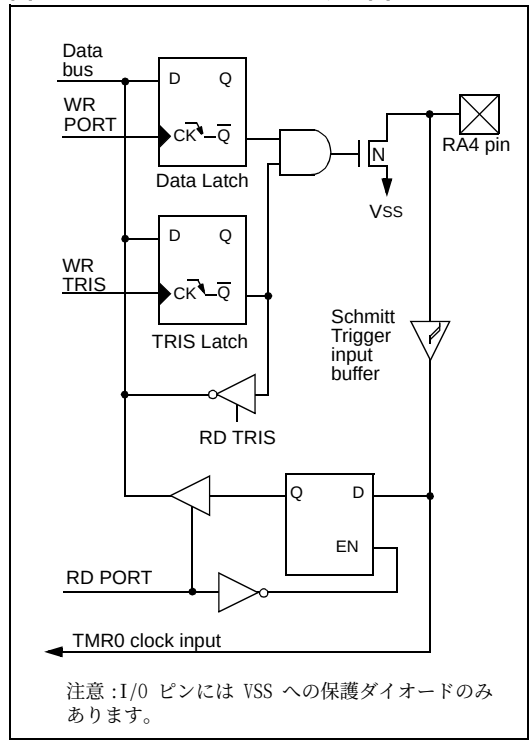



注 : I/O ピンには VDD と VSS への保護ダイオードがあります。

**例 5-1: PORTA の初期化**

```
CLRF    PORTA       ; 出力データラッチへライトして
                      PORTA を初期化する
BSF     STATUS, RP0 ; Bank 1 を選択する
MOVLW   0X0F        ; データ方向の初期化に使用する
                      値
MOVWF   TRISA       ; RA<3:0> を入力、RA4 を出力と
                      して設定。TRISA<7:5> は常に
                      '0' とリードされる
```

**図 5-2 ピン RA4 のブロック図**




注意 :I/O ピンには VSS への保護ダイオードのみあります。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

**表 5-1　PORTA の機能**

| Name | Bit0 | バッファタイプ | 機能 |
|---|---|---|---|
| RA0 | bit0 | TTL | 入出力 |
| RA1 | bit1 | TTL | 入出力 |
| RA2 | bit2 | TTL | 入出力 |
| RA3 | bit3 | TTL | 入出力 |
| RA4/T0CKI | bit4 | ST | 入出力または TMR0 用外部クロック入力。<br>出力はオープンドレインタイプ |

汎用：TTL = TTL 入力、ST = シュミットトリガ入力

**表 5-2　PORTA に関連するレジスタの概要**

| Address | Name | Bit 7 | Bit 6 | Bit 5 | Bit 4 | Bit 3 | Bit 2 | Bit 1 | Bit 0 | パワー・オン・リセットでの値 | 他のすべてのリセットでの値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 05h | PORTA | — | — | — | RA4/T0CKI | RA3 | RA2 | RA1 | RA0 | ---x xxxx | ---u uuuu |
| 85h | TRISA | — | — | — | TRISA4 | TRISA3 | TRISA2 | TRISA1 | TRISA0 | ---1 1111 | ---1 1111 |

汎用：x = 不定、 u = 不変、- = なし、'0' とリードされる。網掛部分はビットがありません。'0' とリードされます。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

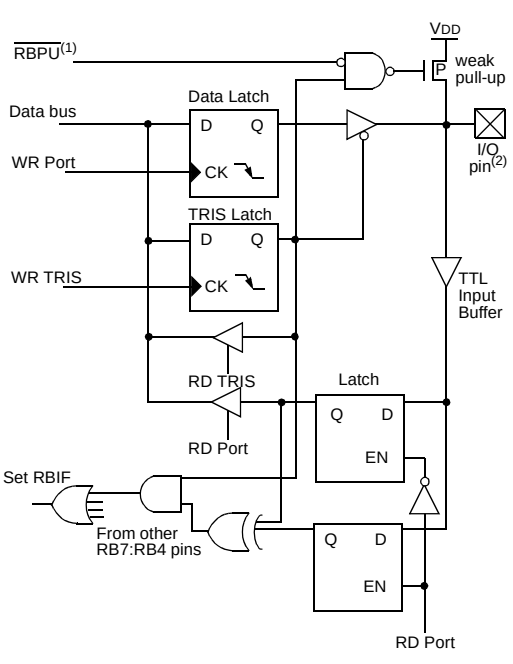
## 5.2 PORTB と TRISB レジスタ

PORTB は 8 ビット幅の双方向ポートです。対応するデータ方向レジスタは TRISB です。TRISB レジスタのビットが '1' の場合、そのビットに対応する出力ドライバがハイインピーダンスモードになります。TRISB レジスタのビットが '0' の場合、選択されたピンに対し、出力ラッチの内容を出力します。

PORTB の各ピンには内部で弱プルアップの設定を行うことができます。1ビットのコントロールビットによって、すべてのプルアップをオンにすることができます。これは、RBPU (OPTION_REG<7>) ビットをクリアすると実行できます。ポートピンが出力に設定されている時は、弱プルアップが自動的にオフになります。プルアップはパワーオン・リセットによりオフになります。

PORTB の 4 ポート、RB7 から RB4 は変化による割り込み機能を持っています。入力として設定されているピンだけが割り込みの対象となります。( すなわち、出力設定の RB7:RB4 はピン変化割り込みの比較対象ではありません )。入力ピンの値は、最後にリードされたときの値と比較されます。各ピンの " ミスマッチ " 出力のORによりRB ポート変化割り込みが生成されます。

**図 5-3： ピン RB7：RB4 のブロック図**




注意 1：TRISB = '1' の場合、弱プルアップがイネーブルです (OPTION_REG レジスタで RBPU = '0'の場合)。
2：I/O ピンには VDD と VSS への保護ダイオードがあります。

この割り込みによって、デバイスを SLEEP から起動することができます。割り込みルーチンでは、以下の方法で割り込みをクリアします。

a) PORTB をリード ( またはライト ) する。これによってミスマッチでない状態になります。
b) フラグビット RBIF をクリアします。

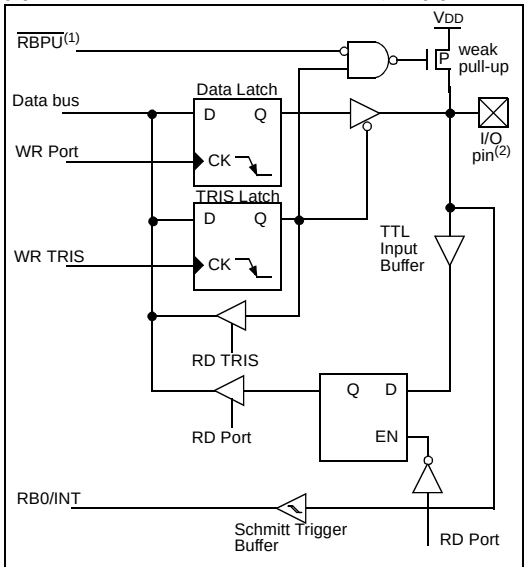
ミスマッチ状態は RBIF ビットをセットし続けます。PORTB のリードによってミスマッチでない状態となり、RBIF ビットをクリアできるようになります。

このミスマッチ割込みとプルアップを設定可能な 4 ピンを使用してキーパットのインタフェースを簡単につくれます。また、キーを押したときに SLEEP から起動させることができます (Embedded Control Handbook の AN552 参照 )。

注意 1：I/O ピン変化の検出には、TCY (4/fOSC) 以上のパルス幅が必要です。

このピン変化による割り込みはキーを押したときの SLEEP からの起動に使用することを推奨します。その時、PORTB はピン変化による割り込みのみに使用することを推奨します。ピン変化による割り込みを使用している間は PORTB のポーリングは推奨できません。

**図 5-4： ピン RB3：RB0 のブロック図**




注意 1：TRISB = '1' の場合、弱プルアップがイネーブルです (OPTION_REG レジスタで RBPU = '0' の場合 )。
2：I/O ピンには VDD と VSS への保護ダイオードがあります。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

**例 5-1： PORTB の初期化**

```
CLRF    PORTB       ; 出力データラッチへライトして
                      PORTB を初期化する
BSF     STATUS、RP0 ; Bank 1 を選択する
MOVLW   0xCF        ; データ方向の初期化に使用する
                      値
MOVWF   TRISB       ; RB<3:0> を入力、RB<5:4> を出
                      力、RB<7:6> を入力に設定する
```

**表 5-3： PORTB の機能**

| Name | Bit | Buffer Type | バッファのタイプ I/O の整合性機能 |
|---|---|---|---|
| RB0/INT | bit0 | TTL/ST(1) | 入出力ピンまたは外部割込み入力。内部ソフトウェア・プログラマブル弱プルアップ。 |
| RB1 | bit1 | TTL | 入出力ピン。内部ソフトウェア・プログラマブル弱プルアップ。 |
| RB2 | bit2 | TTL | 入出力ピン。内部ソフトウェア・プログラマブル弱プルアップ。 |
| RB3 | bit3 | TTL | 入出力ピン。内部ソフトウェア・プログラマブル弱プルアップ。 |
| RB4 | bit4 | TTL | 入出力ピン（変化による割り込みあり）。内部ソフトウェア・プログラマブル弱プルアップ。 |
| RB5 | bit5 | TTL | 入出力ピン（変化による割り込みあり）。内部ソフトウェア・プログラマブル弱プルアップ。 |
| RB6 | bit6 | TTL/ST(2) | 入出力ピン（変化による割り込みあり）。内部ソフトウェア・プログラマブル弱プルアップ。シリアルプログラミングクロック。 |
| RB7 | bit7 | TTL/ST(2) | 入出力ピン（変化による割り込みあり）。内部ソフトウェア・プログラマブル弱プルアップ。シリアルプログラミングデータ。 |

凡例： TTL = TTL 入力、ST = シュミットトリガ。
注意 1：このバッファは外部割り込みに使用される場合、シュミットトリガ入力になります。
2：このバッファはシリアルプログラミングで使用される場合、シュミットトリガ入力になります。

**表 5-4： PORTB に関連するレジスタの概要**

| Address | Name | Bit 7 | Bit 6 | Bit 5 | Bit 4 | Bit 3 | Bit 2 | Bit 1 | Bit 0 | パワーオン・リセットでの値 | 他の全てのリセットでの値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 06h | PORTB | RB7 | RB6 | RB5 | RB4 | RB3 | RB2 | RB1 | RB0/INT | xxxx xxxx | uuuu uuuu |
| 86h | TRISB | TRISB7 | TRISB6 | TRISB5 | TRISB4 | TRISB3 | TRISB2 | TRISB1 | TRISB0 | 1111 1111 | 1111 1111 |
| 81h | OPTION_REG | $\overline{\text{RBPU}}$ | INTEDG | T0CS | T0SE | PSA | PS2 | PS1 | PS0 | 1111 1111 | 1111 1111 |

凡例：x = 不定、u = 不変。網掛部分は PORTB では使用しません。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 5.3 I/O プログラミングの注意点

### 5.3.1 双方向 I/O ポート

ライトを実行する命令はすべて、内部でリード後、ライトを実行します。例えば、BCF および BSF 命令は、レジスタを CPU にリードして、ビット操作を実行後、その結果を再びライトします。このような命令が、入力と出力の両方を設定されているポートに対して実行されるときには注意が必要です。例えば、PORTB のビット 5 の BSF は PORTB の 全 8 ビットが CPU にリードされます。そして、BSF がビット 5 に実行され、PORTB の出力ラッチにライトされます。PORTB の別のビットが双方向の I/O ピン ( 仮にビット 0) として使用されていて、その時入力として使用されている場合、そのピンの入力信号が CPU にリードされ、このピンのデータラッチに再度ライトして、元の内容を上書きすることになります。そのピンが入力のままの場合は問題は起こりません。しかし、ビット 0 がその後出力に切り替えられた場合、データラッチの内容 ( 出力 ) は不定です。

ポートレジスタのリードによって、ポートピンの値がリードされます。ポートレジスタのライトによってポートラッチの値がライトされます。ポートでリード・モディファイ・ライト命令 (BCF、BSF など ) を使用すると、ポートピンの値がリードされ、この値に対して操作が実行された後、この値がポートラッチにライトされます。

ハイまたはローを出力しているピンにはピンのレベル変更のためのドライブを外部デバイスから行わないでください。("wired-or"、"wired-and")。高出力電流によってチップが損傷を受ける場合があります。

### 5.3.2 I/O ポートの連続動作

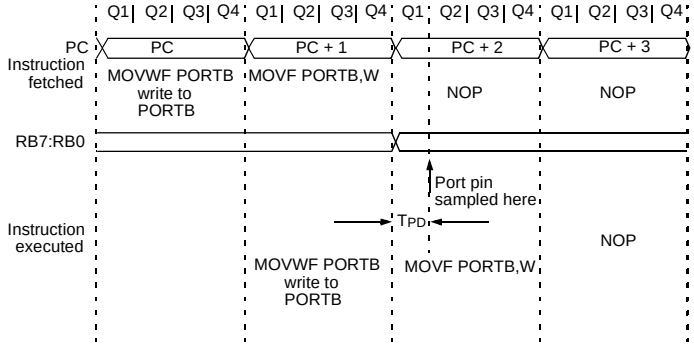
I/O ポートへライトは命令サイクルの最後に起こりますが、リードはデータは命令サイクルの最初で有効でなければいけません ( 図 5-5)。そのためにライトに続くリードが同じポートに対して実行された場合には注意が必要です。その次の命令で CPU へのリードが実行される前に、ピン電圧が安定する ( 外部負荷による ) シーケンスで命令を実行する必要があります。そうでないと、そのピンの新しい状態でなく前の状態が CPU にリードされてしまうことがあります。不確かな場合は、 NOP またはこの I/O ポートをアクセスしない他の命令を使用して、その命令を離してください。

例 5-1 は I/O ポートで連続したリード・モディファイ・ライト命令 (BCF、BSF など ) による影響 を示します。

**例 5-1 I/O ポートでのリード・モディファイ・ライト命令**

```
;Initial PORT settings: PORTB<7:4> Inputs
;                       PORTB<3:0> Outputs
;PORTB<7:6> have external pull-ups and are
;not connected to other circuitry
;
;                     PORT latch  PORT pins
;                     ----------  ---------
  BCF PORTB, 7      ; 01pp ppp    11pp ppp
  BCF PORTB, 6      ; 10pp ppp    11pp ppp
  BSF STATUS, RP0   ;
  BCF TRISB, 7      ; 10pp ppp    11pp ppp
  BCF TRISB, 6      ; 10pp ppp    10pp ppp
;
;Note that the user may have expected the
;pin values to be 00pp ppp. The 2nd BCF
;caused RB7 to be latched as the pin value
;(high).
```

**図 5-5 I/O の連続動作**




注意 :

この例では PORTB へのライトに続く PORTB のリードを示しています。

データセットアップタイム = (0.25TCY - TPD)

TCY = 命令サイクル

TPD = 伝播遅延

クロック周波数が高い場合、ライトに続くリードは問題が発生する場合があります。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

**NOTES:**


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 6.0 TIMER0 モジュールおよび TMR0 レジスタ

TIMER0 モジュールのタイマ／カウンタには次の機能があります。

- 8 ビットタイマ／カウンタ
- リードおよびライト可能
- ソフトウェア・プログラマブル 8 ビットプリスケーラ
- 内部または外部クロック選択
- FFh から 00h オーバフロー割込み
- 外部クロック用エッジ選択

T0CS ビット (OPTION_REG<5>) が 0 のとき、タイマーモードになります。タイマモードではタイマ 0 モジュール ( 図 6-1) は ( プリスケーラなしの場合 ) 命令サイクルごとにインクリメントされます。TMR0 レジスタがライトされた場合、インクリメントはそれに続く 2 サイクルはインクリメントしません ( 図 6-2、6-3)。その分の値を TMR0 レジスタにライトすることにより、調整することができます。

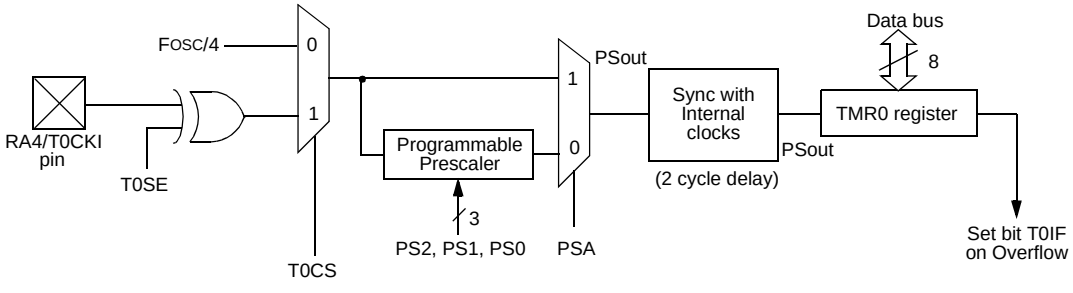
T0CS ビット (OPTION_REG<5>) が 1 のとき、カウンタモードになります。このモードにおいてタイマ 0 は RA4/T0CKI ピンの立ち上がり、または、立ち下がりエッジごとにインクリメントします。T0 ソースエッジ選択ビット、T0SE (OPTION_REG<4>) によりインクリメントするエッジを選択します。T0SE ビットが 0 のとき、立ち上がりエッジが選択されます。外部クロック入力の規定については、第 6.2 項で詳しく説明します。

プリスケーラはタイマ 0 モジュールまたはウォッチドッグタイマのどちらかでのみ使用できます。プリスケーラの割り当てはソフトウエアでコントロールビット PSA (OPTION_REG<3>) により選択します。 PSA ビットが 0 のとき、プリスケーラはタイマ 0 モジュールに割り当てられます。プリスケーラはリードもライトもできません。プリスケーラ ( 第 6.3 項 ) がタイマ 0 モジュールに割り当てられたとき、プリスケーラ値 (1：2、1：4、から 1：256 まで ) はソフトウェアにより選択できます。

### 6.1 タイマ 0 割り込み

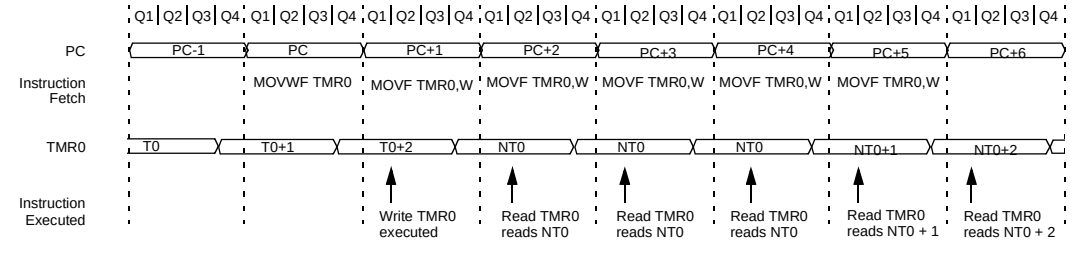
TMR0 レジスタが FFh から 00h にオーバーフローしたとき、TMR0 割り込みが発生します。このオーバーフローにより T0IF ビット (INTCON<2>) がセットされます。T0IE (INTCON<5>) イネーブルビットを 0 にすることにより割り込みをマスクできます。この割り込みを再度イネーブルにする前に、タイマ 0 モジュール割り込みサービスルーチンでソフトウェアにより T0IF ビットを 0 にしなければいけません。SLEEP の間はタイマが停止しているため、TMR0 割り込み ( 図 6-4) ではプロセッサを SLEEP から起動することはできません。

**図 6-1： タイマ 0 ブロック図**




注意 1： T0CS、T0SE、PS2、PSI、PS0 および PSA は OPTION_REG レジスタにあります。
2： プリスケーラはウォッチドッグタイマと共有しています ( 図 6-6)。

**図 6-2： タイマ 0 のタイミング：内部クロック／プリスケールなし**




© 1998 Microchip Technology Inc.


この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

**図 6-3： タイマ 0 のタイミング：内部クロック／プリスケール 1：2**

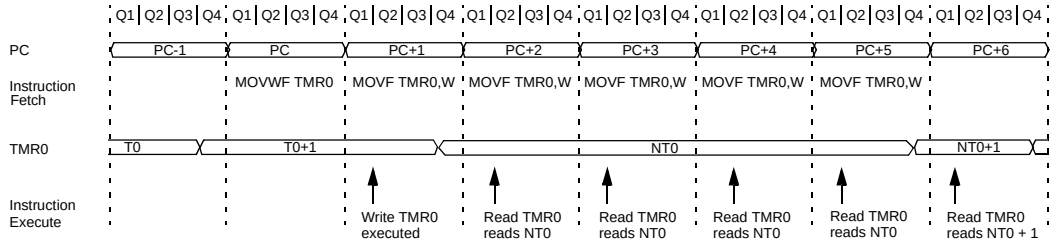
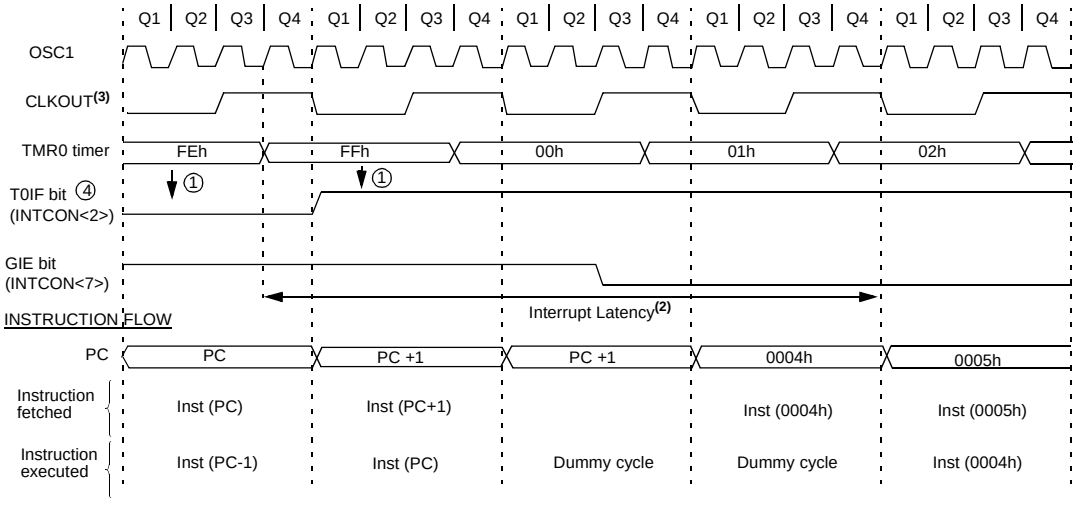



**図 6-4： タイマ 0 割り込みのタイミング**




注意 1： T0IF 割り込みフラグは Q1 ごとにサンプリングされます。
2： 割り込み遅延 = 3.25Tcy、Tcy = 命令サイクル時間。
3： CLKOUT は RC オシレータモードでのみ出力。
4： FFh から 00h までタイマをインクリメントするタイマクロック（同期化回路後）は、すぐに T0IF ビットをセットします。TMR0 レジスタは その 3 Tosc サイクル後にロールオーバーします。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 6.2 外部クロックによるタイマ 0 使用方法

外部クロックがタイマ 0 に入力されるときは、必要条件を満たさなければなりません。その条件とは内部位相クロック (Tosc) との同期によるものです。また同期後、タイマ 0 の実際のインクリメントまで少しの遅れがあります。

### 6.2.1 外部クロック同期

プリスケーラを使用しない時、外部クロック入力はプリスケーラ出力と同じです。RA4/T0CKI と内部位相クロックとの同期はプリスケーラ出力を内部位相クロックの Q2 と Q4 サイクルでサンプリングすることにより行います ( 図 6-5)。したがって、T0CKI は最低 2TOSC の間ハイ (と少しのRC 遅延時間) と最低 2TOSC の間ロー ( と少しの RC 遅延時間 ) になっている必要があります。電気的仕様の章を参照してください。

プリスケーラを使用する時、そのプリスケーラ出力が対称となるように、外部クロック入力は非同期リップルカウンタ型プリスケーラにより分割されます。外部クロックがサンプリングの必要条件を満たすためには、リップルカウンタに注意しなければなりません。T0CKI は最低 4TOSC ( と少しの RC 遅延時間 ) をプリスケーラ値で割った周期でなければいけません。かつ、T0CKI のハイタイムとロータイムの最低パルス幅は 10ns 以上です。電気的仕様についてはパラメータ 40、41 および 42 を参照してください。

### 6.2.2 タイマ 0 のインクリメントの遅延時間

プリスケーラ出力は内部クロックと同期がとられているので、外部クロックのエッジが発生した時からタイマ 0 モジュールが実際にインクリメントする時まで少しの遅れがあります。図 6-5 に外部クロックのエッジからタイマがインクリメントするまでの遅れを示します。

## 6.3 プリスケーラ

8 ビットカウンタは、タイマ 0 モジュール用のプリスケーラとして、または、ウォッチドッグタイマ用のポストスケーラとして使用できます ( 図 6-6)。まぎらわしいのでこのデータシートでは、このカウンタを「プリスケーラ」と言います。プリスケーラはタイマ 0 モジュールと WDT のどちらかに使用できますが、両方に使用することはできないので注意してください。したがって、プリスケーラがタイマ 0 モジュールに使用されているときは、WDT はプリスケーラは使用できません。また、この逆も言えます。

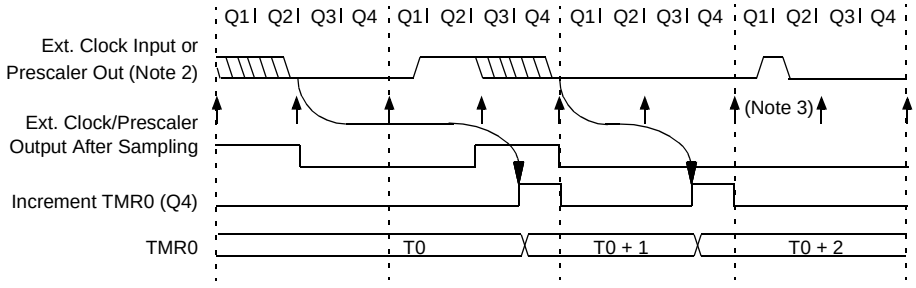
PSA および PS2:PS0 ビット (OPTION_REG<3:0>) がプリスケーラ割り当てとプリスケール比を決定します。

タイマ 0 モジュールに割り当てられているときは、タイマ 0 モジュールへのライトはすべて ( 例えば、CLRF 1、MOVWF 1、BSF 1、x など ) によりプリスケーラがクリアされます。WDT に割り当てられているときは、CLRWDT 命令によりプリスケーラと WDT がクリアされます。プリスケーラはリードもライトもできません。

© 1998 Microchip Technology Inc.

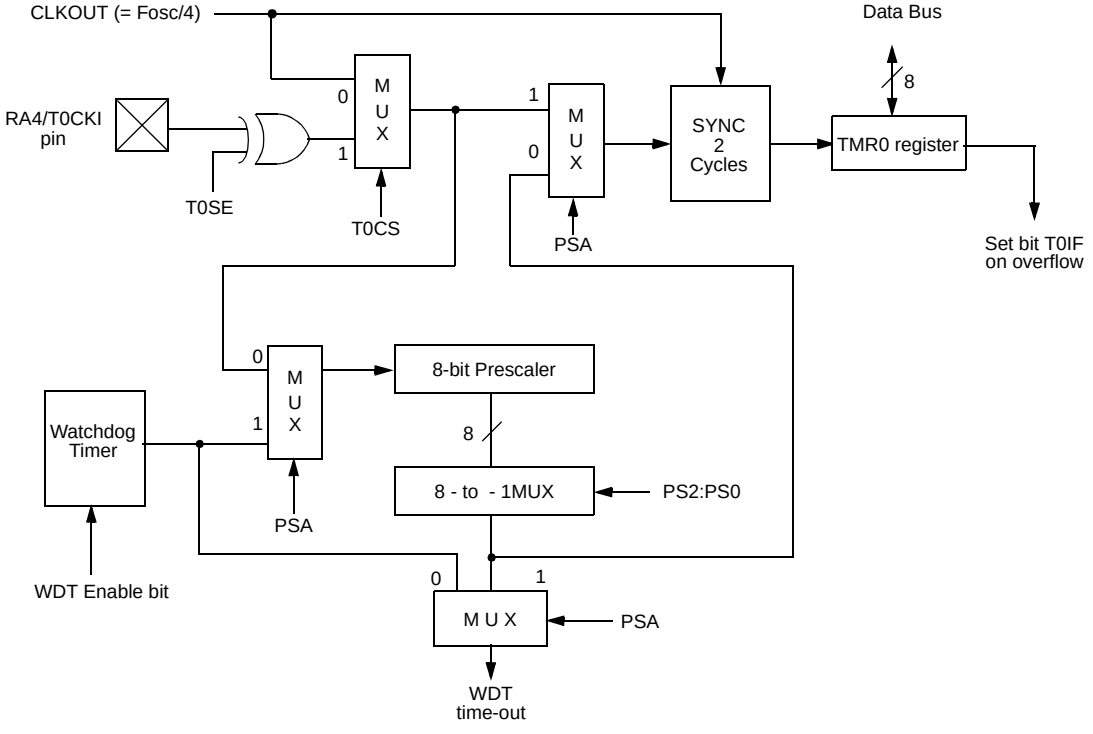

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**図 6-5： 外部クロックによるタイマ 0 のタイミング**




注意 1： クロック入力変化からタイマ 0 へのインクリメントまでの遅延は 3TOSC から 7TOSC (Q の時間 = TOSC)。したがって、タイマ 0 への入力の 2 つのエッジ間の間隔の測定誤差は最大± 4TOSC。
2： プリスケーラが選択されていない場合の外部クロック。それ以外ではプリスケーラ出力。
3： 矢印はサンプリングが行われるポイントを示します。小さなクロックパルスはサンプリングされない場合があります。

**図 6-6： タイマ／WDT プリスケーラのブロック図**




注意:T0CS、T0SE、PSA、PS2:PS0 は OPTION_REG レジスタのビットです。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

### 6.3.1 プリスケーラ割り当ての切り替え

プリスケーラの割り当てはソフトウェアにより制御します ( プログラム実行中に変更できます )。

注意： 不必要なデバイスリセットを避けるために、プリスケーラの割り当てをタイマ 0 から WDT に変更するときは、次のような順序で命令 ( 例 6-1) を実行する必要があります。このシーケンスは WDT がディスエーブルになっている場合でも実行しなくてはなりません。プリスケーラを WDT からタイマ 0 モジュール に変更するには、例 6-2 に示すシーケンスを使用してください。

**例 6-1： プリスケーラの変更 ( タイマ 0→ WDT)**

```
BCF     STATUS, RP0  ;Bank 0
CLRF    TMR0         ;Clear TMR0
                     ; and Prescaler
BSF     STATUS, RP0  ;Bank 1
CLRWDT               ;Clears WDT
MOVLW   b'xxxx1xxx'  ;Select new
MOVWF   OPTION_REG       ; prescale value
BCF     STATUS, RP0  ;Bank 0
```

**例 6-2： プリスケーラの変更 (WDT →タイマ 0)**

```
CLRWDT               ;Clear WDT and
                     ; prescaler
BSF     STATUS, RP0  ;Bank 1
MOVLW   b'xxxx0xxx'  ;Select TMR0, new
                     ; prescale value
                     ' and clock source
MOVWF   OPTION_REG       ;
BCF     STATUS, RP0  ;Bank 0
```

**表 6-1 タイマ 0 に関連するレジスタ**

| アドレス | 名称 | Bit 7 | Bit 6 | Bit 5 | Bit 4 | Bit 3 | Bit 2 | Bit 1 | Bit 0 | パワーオンリセットでの値 | 他のすべてのリセットでの値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 01h | TMR0 | タイマ 0 モジュールのレジスタ | | | | | | | | xxxx xxxx | uuuu uuuu |
| 0Bh | INTCON | GIE | EEIE | T0IE | INTE | RBIE | T0IF | INTF | RBIF | 0000 000x | 0000 0000 |
| 81h | OPTION_REG | $\overline{\text{RBPU}}$ | INTEDG | T0CS | T0SE | PSA | PS2 | PS1 | PS0 | 1111 1111 | 1111 1111 |
| 85h | TRISA | — | — | — | TRISA4 | TRISA3 | TRISA2 | TRISA1 | TRISA0 | ---1 1111 | ---1 1111 |

凡例： x = 不定、u = 不変、- = 網掛部分はタイマ 0 では使用しません。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

**NOTES:**


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 7.0 データ EEPROM メモリ

EEPROM データメモリは、通常動作 (VDD 動作電圧範囲 ) でリードおよびライトが可能です。このメモリはレジスタファイル空間に直接マッピングされていません。特殊機能レジスタを通して間接的にアドレス指定されます。このメモリのリードおよびライトには 4 つの SFR が使用されます。そのレジスタは以下の通りです。

- EECON1
- EECON2
- EEDATA
- EEADR

EEDATA はリード／ライトするための 8 ビットデータを保持して、EEADR はアクセスされる EEPROM 番地のアドレスを保持します。PIC16F8X デバイスには 0h から 3Fh までのアドレス範囲の 64 バイトのデータ EEPROM があります。

EEPROM データメモリはバイトリードおよびライトができます。バイトライトは自動的にその番地を消去して、新しいデータをライトします ( ライトする前に消去 )。EEPROM データメモリは消去 / ライトサイクルが高速です。ライト時間はオンチップタイマによって制御されます。ライト時間は チップのばらつき、および、電圧や温度によって変化します。詳細は、AC 仕様を参照してください。

デバイスがコードプロテクトされているときでも、CPU はデータ EEPROM メモリをリードおよびライトできます。プログラムライターは、このメモリにアクセスできなくなります。

### 7.1 EEADR

EEADR レジスタは最大 256 バイトのデータ EEPROM をアドレス指定できます。最初の 64 バイトのデータ EEPROM だけが物理的に存在します。

上位 2 ビットもアドレスとしてデコードされます。アドレスが必ず 64 バイトのメモリ空間にあるように、上位 2 ビットを常に '0' にしておく必要があります。

**図 7-1： EECON1 レジスタ ( アドレス 88h)**

| U | U | U | R/W-0 | R/W-x | R/W-0 | R/S-0 | R/S-x |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| — | — | — | EEIF | WRERR | WREN | WR | RD |
| bit7 | | | | | | | bit0 |

R = リード可能なビット
W = ライト可能なビット
S = セット可能なビット
U = 使用しないビット、'0' としてリード
- n = POR リセットでの値

bit7:5 使用しない：'0' としてリードされます

bit4 EEIF：EEPROM ライト割込みフラグビット
1 = ライト完了 ( ソフトウェアでクリアする必要があります )
0 = ライトが完了していないか、開始していない

bit 3 WRERR：EEPROM エラーフラグビット
1 = ライトが異常終了した
( 通常動作中の MCLR リセットまたは WDT リセット )
0 = ライトが完了した

bit 2 WREN：EEPROM ライトイネーブルビット
1 = ライトサイクルを許可します
0 = データ EEPROM のライトを許可しません。

bit 1 WR：ライトコントロールビット
1 = ライトサイクルを開始します ( ライトが完了したら、ハードウェアによってビットがクリアされます )。WR ビットはソフトウエアではセットだけができます ( クリアはできません )。
0 = データ EEPROM へのライトサイクルが完了しました

bit 0 RD：リードコントロールビット
1 = EEPROM リードを開始します ( リードには 1 サイクルかかります。RD はハードウェアでクリアされます。RD ビットはソフトウェアではセットだけが可能です ( クリアはできません ))。
0 = EEPROM リードを開始しません

© 1998 Microchip Technology Inc.


この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

## 7.2 EECON1 および EECON2 のレジスタ

EECON1 は、下位 5 ビットのみ物理的に存在するコントロールレジスタです。上位 3 ビットは存在しません。'0' としてリードされます。

コントロールビット RD および WR はリードとライトをそれぞれ開始します。これらのビットはソフトウェアではクリアできず、セットできるだけです。これらは、リードまたはライトが完了したときにハードウェアでクリアされます。ソフトウェアで WR ビットをクリアできないことにより、ライトの予期しない、異常終了を防ぐことができます。

WREN ビットがセットされると、ライトが可能になります。電源 ON のとき、 WREN ビットはクリアされます。ライトが正常に動作しているときに MCLR リセットまたは WDT のタイムアウトリセットによって中断された場合、WRERR ビットがセットされます。そのようなとき、リセットの後に WRERR ビットをチェックし、その番地を再度ライトできます。 EEDATA および EEADR レジスタの中のデータおよびアドレスはリセットされません。

ライトが完了すると、割込みフラグビット EEIF がセットされます。このビットはソフトウェアでクリアする必要があります。

EECON2 は物理的に存在するレジスタではありません。EECON2 のリードは、すべて '0' としてリードされます。 EECON2 レジスタはデータ EEPROM ライトシーケンスで使用されます。

## 7.3 EEPROM データメモリのリード

EEPROM データメモリのある番地をリードするには、EEADR レジスタにアドレスをライトして、コントロールビット RD (EECON1 <0>) をセットします。次のサイクルにはEEDATA レジスタにデータが入力されるので、次の命令でリードできます。この値は、その後にリードまたはライトが行われるまで、EEDATA で保持されます。

**例 7-1： データ EEPROM のリード**

```
BCF     STATUS, RP0  ; Bank 0
MOVLW   CONFIG_ADDR  ;
MOVWF   EEADR        ; Address to read
BSF     STATUS, RP0  ; Bank 1
BSF     EECON1, RD   ; EE Read
BCF     STATUS, RP0  ; Bank 0
MOVF    EEDATA, W    ; W = EEDATA
```

## 7.4 EEPROM データメモリへのライト

EEPROM データメモリのある番地をライトするには、まず、EEADR レジスタにアドレスをライトし、 EEDATA レジスタにデータをライトします。次に、下記の特別なシーケンスを行います。このシーケンスはライトを 1 バイト実行するごとに必要です。

**例 7-1： データ EEPROM のライト**

```
        BSF     STATUS, RP0  ; Bank 1
        BCF     INTCON, GIE  ; Disable INTs.
        BSF     EECON1, WREN ; Enable Write
Required
Sequence
        MOVLW   55h          ;
        MOVWF   EECON2       ; Write 55h
        MOVLW   AAh          ;
        MOVWF   EECON2       ; Write AAh
        BSF     EECON1,WR    ; Set WR bit
                             ;   begin write
        BSF     INTCON, GIE  ; Enable INTs.
```

1 バイトごとに、上記のシーケンスが正確に実行されない場合は (EECON2 へ 55h をライトして EECON2 へ AAh をライトし、WR ビットをセット )、ライトは開始されません。このシーケンスを実行するルーチンは割込みをディセーブルにすることを推奨します。

さらに、EECON1 の WREN ビットをセットして、ライトをイネーブルにしておきます。このメカニズムによって、予期しないコード実行によるデータ EEPROM へのライトを防ぐのに役立ちます。EEPROM を更新するとき以外は、WREN ビットを常にクリアしておく必要があります。WREN ビットはハードウェアではクリアされません。

ライトシーケンスが開始された後は、WREN ビットをクリアしてもこのライトサイクルには影響ありません。WREN ビットが 0 のとき、WR ビットはセットできません。

ライトサイクルが完了したとき、ハードウェアは WR ビットをクリアして、EE ライト完了割込みフラグビット (EEIF) をセットします。この割り込みをイネーブルにすることも、または、このビットのポーリングすることもできます。 EEIF はソフトウェアでクリアします。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 7.5 ライトのベリファイ

ライトしたデータ EEPROM がライトした値になっていることをベリファイすることを推奨します。( 例 7-1) EEPROM が規格値付近まで使用される場合にこのベリファイを実行することを推奨します。そのレベルを決定するには Total Endurance ディスクが役立ちます。

通常、EEPROM のライト失敗は、'1' とライトされたビットが ( ビットのリークにより ) '0' とリードされます。

**例 7-1： ライトのベリファイ**

```
    BCF   STATUS, RP0 ; Bank 0
    :                 ; Any code can go here
    :                 ;
    MOVF  EEDATA, W   ; Must be in Bank 0
    BSF   STATUS, RP0 ; Bank 1
READ
    BSF   EECON1, RD  ; YES, Read the
                      ;   value written
    BCF   STATUS, RP0 ; Bank 0
;
; Is the value written (in W reg) and
;   read (in EEDATA) the same?
;
    SUBWF EEDATA, W   ;
    BTFSS STATUS, Z   ; Is difference 0?
    GOTO  WRITE_ERR   ; NO, Write error
    :                 ; YES, Good write
    :                 ; Continue program
```

## 7.6 不必要なライトからの保護

データ EEPROM メモリをライトさせたくない状態があります。不必要な EEPROM ライトから保護するために、いくつかのメカニズムが組み込まれています。電源 ON のとき、WREN はクリアされます。また、パワーアップタイマ (72 ms 期間 ) が EEPROM ライトを防ぎます。

ライト開始シーケンスと WREN ビットは、電源電圧低下、電源瞬断、ソフトウェアの誤動作などが発生したときの予期しないライトを防ぐのに役立ちます。

## 7.7 コードプロテクトしているときのデータ EEPROM

デバイスがコードプロテクトされていても、CPU はスクランブルされていないデータをデータ EEPROM へリードおよびライトできます。

ROM デバイスの場合は、2 つのコードプロテクトビットがあります ( 第 8.1 項 )。1 つは ROM プログラムメモリ用で、もう 1 つはデータ EEPROM メモリ用です。

**表 7-1 EEPROM に関連するレジスタ／ビット**

| Address | Name | Bit 7 | Bit 6 | Bit 5 | Bit 4 | Bit 3 | Bit 2 | Bit 1 | Bit 0 | パワーオンリセットによる値 | 他のすべてのリセットによる値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 08h | EEDATA | EEPROM データレジスタ | | | | | | | | xxxx xxxx | uuuu uuuu |
| 09h | EEADR | EEPROM アドレス レジスタ | | | | | | | | xxxx xxxx | uuuu uuuu |
| 88h | EECON1 | — | — | — | EEIF | WRERR | WREN | WR | RD | ---0 x000 | ---0 q000 |
| 89h | EECON2 | EEPROM コントロール レジスタ 2 | | | | | | | | ---- ---- | ---- ---- |

凡例： x = 不定、u = 不変、- = 使用しない、'0' としてリードされる、q = 条件によって異なる値。網掛部分はデータ EEPROM では使用しません。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

**NOTES:**


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 8.0 CPU の特殊機能

マイクロコントローラはリアルタイムアプリケーションに適した特殊回路を搭載しています。PIC16F8X は下記のようなシステムの信頼性を最大限に高めたり、外付け部品の削減によりコストを最小限にしたり、低消費電力モードを備えたり、コードを保護するための機能を搭載しています。

- オシレータ選択
- リセット
  - パワーオンリセット (POR)
  - パワーアップタイマ (PWRT)
  - オシレータスタートアップタイマ (OST)
- 割り込み
- ウォッチドッグタイマ (WDT)
- SLEEP
- コードプロテクト
- ID ロケーション
- インサーキットシリアルプログラミング

PIC16F8X にはコンフィグレーションビットでのみ停止できるウォッチドッグタイマがあります。ウォッチドッグタイマは信頼性を上げるために、専用の RC オシレータで動作します。電源 ON 時に必要な遅延時間を作るために 2 つのタイマがあります。1 つはオシレータスタートアップタイマ (OST) で、水晶発振子が安定するまでデバイスをリセット状態にしておくために役立ちます。もう 1 つはパワーアップタイマ (PWRT) で、電源 ON 時にのみ 72 ms ( 通常 ) の固定遅延時間を発生ます。、電源が安定するまでデバイスをリセット状態にしておくために役立ちます。チップに内蔵された 2 つのタイマにより、多くアプリケーションで外部リセット回路が不要となります。

SLEEP モードは非常に低消費電力が小さいモードです。外部リセット、ウォッチドッグタイマのタイムアウト、割り込みにより SLEEP から起動できます。複数のオシレータオプションが選択できます。RC オシレータオプションは低コストです。LP 水晶オプションは低消費電力です。コンフィグレーションビットの組み合わせでいろいろなオプションを選択できます。

### 8.1 コンフィグレーションビット

複数のデバイスの設定を選択するために、これらのコンフィグレーションビットをプログラム書き込みした状態 ('0' としてリード ) またはプログラム書き込みしないままの状態 ('1' としてリード ) にできます。これらのビットはプログラムメモリ番地 2007h に配置されています。

2007h 番地はユーザープログラムメモリの範囲外です。実際には、特殊テスト／コンフィグレーションメモリ範囲 (2000h - 3FFFh) に入っており、プログラム書き込み中にのみアクセスできます。

PIC16F84 のプログラム書き込み方法については、『PIC16F8X EEPROM Memory Programming Specification (DS30262)』を参照してください。

© 1998 Microchip Technology Inc.


この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

**図 8-1： コンフィグレーションワード - PIC16CR83 および PIC16CR84**

| R-u | R-u | R-u | R-u | R-u | R-u | R/P-u | R-u | R-u | R-u | R-u | R-u | R-u | R-u |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| CP | CP | CP | CP | CP | CP | DP | CP | CP | CP | $\overline{\text{PWRTE}}$ | WDTE | FOSC1 | FOSC0 |
| bit13 | | | | | | | | | | | | | bit0 |

R = リード可能ビット
P = プログラム可能ビット
- n= POR リセットによる値
u = 不変

bit13:8 CP: プログラム メモリ コードプロテクションビット
1 = コードプロテクションされていない
0 = プログラム メモリがコードプロテクションされている

bit7 DP: データ メモリ コードプロテクションビット
1 = コードプロテクションされていない
0 = データ メモリがコードプロテクションされている

bit6:4 CP: プログラム メモリ コードプロテクションビット
1 = コードプロテクションされていない
0 = プログラム メモリがコードプロテクションされている

bit 3 $\overline{\text{PWRTE}}$: パワーアップタイマイネーブルビット
1 = パワーアップタイマを動作させない
0 = パワーアップタイマを動作させる

bit 2 WDTE: ウォッチドッグタイマイネーブルビット
1 = WDT を動作させる
0 = WDT を動作させない

bit1:0 FOSC1:FOSC0: オシレータ選択ビット
11 = RC オシレータ
10 = HS オシレータ
01 = XT オシレータ
00 = LP オシレータ

**図 8-2： コンフィグレーションワード - PIC16CR83 および PIC16CR84**

| R/P-u | R/P-u | R/P-u | R/P-u | R/P-u | R/P-u | R/P-u | R/P-u | R/P-u | R/P-u | R/P-u | R/P-u | R/P-u | R/P-u |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| CP | CP | CP | CP | CP | CP | CP | CP | CP | CP | $\overline{\text{PWRTE}}$ | WDTE | FOSC1 | FOSC0 |
| bit13 | | | | | | | | | | | | | bit0 |

R = リード可能ビット
P = プログラム可能ビット
- n = POR リセットによる値
u = 不変

bit13:4 CP: コードプロテクションビット
1 ＝ コードプロテクションしない
0 = 全メモリをコードプロテクションする

bit3 $\overline{\text{PWRTE}}$: パワーアップタイマイネーブルビット
1 = パワーアップタイマを動作させない
0 = パワーアップタイマを動作させる

bit2 WDTE: ウォッチドッグタイマイネーブルビット
1 = WDT を動作させる
0 = WDT を動作させない

bit 1:0 FOSC1:FOSC0: オシレータ選択ビット
11 = RC オシレータ
10 = HS オシレータ
01 = XT オシレータ
00 = LP オシレータ


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 8.2 オシレータの構成

### 8.2.1 オシレータの種類

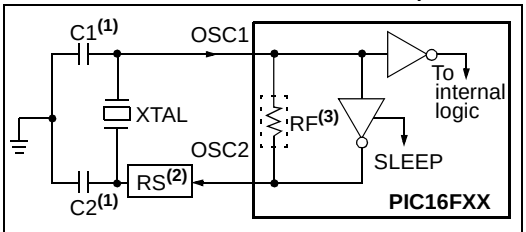
PIC16F8X は 4 つのオシレータモードで動作できます。2 ビットのコンフィグレーションビット (FOSC1 および FOSC0) をプログラムして、以下の 4 種類のモードから 1 つを選択することができます。

- LP 低消費電力水晶
- XT 水晶／レゾネータ
- HS 高速水晶／レゾネータ
- RC 抵抗／コンデンサ

### 8.2.2 水晶オシレータ／セラミックレゾネータ

XT、LP または HS モードでは、クリスタルまたはセラミックリゾネータを OSC1/CLKIN および OSC2/CLKOUT ピンに接続して発振させます ( 図 8-3)。

**図 8-3： 水晶／セラミックレゾネータ (HS、XT または LP の OSC 構成 )**




注意 1: C1 および C2 の推奨値については、コンデンサ選択表を参照してください。
2: AT ストリップカットクリスタルには直列抵抗 (RS) が必要な場合があります。
3: RF 値は選択したクリスタルにより変化します。

PIC16F8X のオシレータの設計にはパラレルカット水晶を使用する必要があります。シリーズカット水晶を使用すると、周波数が水晶メーカーの規格外になる場合があります。XT、LP または HS のモードでは OSC1/CLKIN ピンへ外部クロックを入力することができます。 ( 図 8-4)。

**図 8-4： 外部クロック入力 (HS、XT または LP の OSC 構成 )**

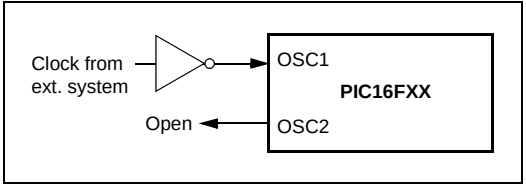



**表 8-1 セラミックレゾネータ用コンデンサ選択表**

| テストした範囲： | | | |
|---|---|---|---|
| **Mode** | **Freq** | **OSC1/C1** | **OSC2/C2** |
| XT | 455 kHz<br>2.0 MHz<br>4.0 MHz | 47 - 100 pF<br>15 - 33 pF<br>15 - 33 pF | 47 - 100 pF<br>15 - 33 pF<br>15 - 33 pF |
| HS | 8.0 MHz<br>10.0 MHz | 15 - 33 pF<br>15 - 33 pF | 15 - 33 pF<br>15 - 33 pF |
| 注意： C1 と C2 の推奨値は表の範囲と同じです。容量が大きいと発振の安定性は高くなりますが、スタートアップ時間も長くなります。これらの値は参考値です。それぞれのレゾネータにはそれぞれの特性がありますので、外付け部品の適当な定数についてはレゾネータのメーカーにお問い合わせください。 | | | |
| **使用レゾネータ：** | | | |
| 455 kHz | Panasonic EFO-A455K04B | ± 0.3% | |
| 2.0 MHz | Murata Erie CSA2.00MG | ± 0.5% | |
| 4.0 MHz | Murata Erie CSA4.00MG | ± 0.5% | |
| 8.0 MHz | Murata Erie CSA8.00MT | ± 0.5% | |
| 10.0 MHz | Murata Erie CSA10.00MTZ | ± 0.5% | |
| コンデンサ内蔵タイプはテストしておりません。 | | | |

**表 8-2 水晶用コンデンサ選択表**

| Mode | Freq | OSC1/C1 | OSC2/C2 |
|---|---|---|---|
| LP | 32 kHz<br>200 kHz | 68 - 100 pF<br>15 - 33 pF | 68 - 100 pF<br>15 - 33 pF |
| XT | 100 kHz<br>2 MHz<br>4 MHz | 100 - 150 pF<br>15 - 33 pF<br>15 - 33 pF | 100 - 150 pF<br>15 - 33 pF<br>15 - 33 pF |
| HS | 4 MHz<br>10 MHz | 15 - 33 pF<br>15 - 33 pF | 15 - 33 pF<br>15 - 33 pF |
| 注意： C1 と C2 の推奨値は表の範囲と同じです。容量が大きいと発振の安定性は高くなりますが、スタートアップ時間も長くなります。これらの値は参考値です。HS、XT モードでは、低駆動レベル規格の水晶のオーバードライブを防ぐため、Rs が必要な場合があります。それぞれの水晶にはそれぞれの特性がありますので、外付け部品の適当な定数については水晶のメーカーにお問い合わせください。VDD > 4.5V のとき、C1 = C2 = 30 pF が推奨です。 | | | |
| **使用水晶：** | | | |
| 32.768 kHz | Epson C-001R32.768K-A | ± 20 PPM | |
| 100 kHz | Epson C-2 100.00 KC-P | ± 20 PPM | |
| 200 kHz | STD XTL 200.000 KHz | ± 20 PPM | |
| 1.0 MHz | ECS ECS-10-13-2 | ± 50 PPM | |
| 2.0 MHz | ECS ECS-20-S-2 | ± 50 PPM | |
| 4.0 MHz | ECS ECS-40-S-4 | ± 50 PPM | |
| 10.0 MHz | ECS ECS-100-S-4 | ± 50 PPM | |



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

### 8.2.3 外部水晶オシレータ回路

オシレータモジュールを使用する、または、TTL ゲートを使用した簡単なオシレータ回路を組み立てて使用することもできます。オシレータモジュールは広い動作範囲と優れた安定性を持っています。良い設計の水晶は TTL ゲートと組み合わせてよい性能を出します。2 種類の水晶オシレータ回路は、直列共振または並列共振として使用できます。

図 8-5 に並列共振オシレータ回路の構成を示します。この回路はクリスタルの基本周波数を使用するために設計されています。74AS04 インバータは並列オシレータに必要な 180 度の位相シフトを行います。4.7 kΩ の抵抗は安定用のネガティブフィードバックのためです。10 kΩ の ポテンショメータは 74AS04 を線形領域で使用するためのバイアス用です。この回路は外部オシレータの設計に使用することができます。

**図 8-5 外部並列共振水晶オシレータ回路**

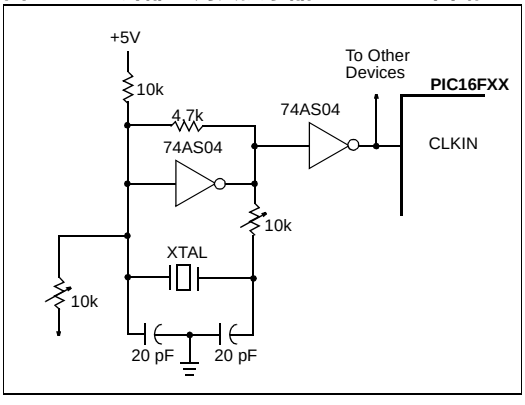
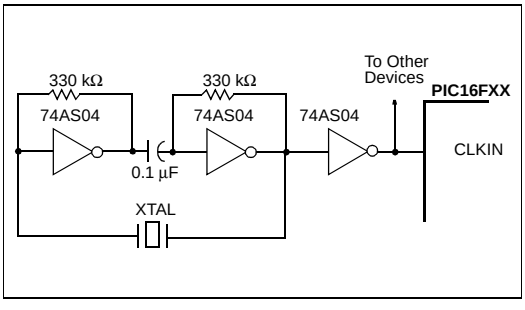



図 8-6 に直列共振オシレータ回路を示します。この回路もクリスタルの基本周波数を使用するために設計されています。インバータは直列共振オシレータ回路での 180 度の位相シフトを行います。330 kΩ の抵抗はインバータを線形領域にバイアスするためにネガティブフィードバックを行います。

**図 8-6： 外部直列共振水晶オシレータ回路**




### 8.2.4 RC オシレータ

それほどタイミングについて精度を必要としないアプリケーションでは、RC デバイスオプションを使用して低コスト化できます。RC 発振周波数は供給電圧、抵抗 (Rext) やコンデンサ (Cext) の値、および動作温度により変化します。これに加え、オシレータ周波数は製造上のばらつきによりデバイスごとに異なります。さらに、パッケージの種類によるリードフレーム容量の差も、特に Cext の値が低いとき、発振周波数に影響します。外付けの R と C の誤差によるばらつきも考慮する必要があります。図 8-7 に R/C の組み合わせがどのように PIC16F8X に接続されるかを示します。Rext が 4kΩ より小さいと、発振が不安定、停止する場合があります。 Rext が非常に大きいと ( 例えば 1MΩ)、発振はノイズ、湿度、リーク電流の影響を受けやすくなります。したがって、Rext 値は 5 kΩ から 100 kΩ を推奨します。

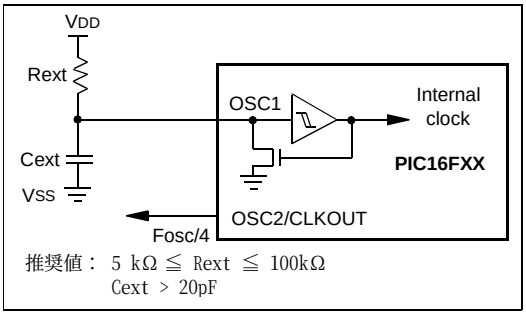
外付けコンデンサがなくても (Cext = 0pF) 発振しますが、ノイズ対策や安定のために 20pF 以上のコンデンサを推奨します。外部容量が小さいと、PCB のトレース容量やパッケージのリードフレーム容量などの外部容量の変化で、発振周波数が大きくばらつくことがあります。

製造上のばらつきによるデバイスごとの RC 周波数のばらつきに関しては、電気的特性の項をご覧ください。R が大きければ大きいほど ( リーク電流のばらつきは R が大きいほど RC 周波数に影響するため )、C が小さければ小さいほど ( 入力容量が RC 周波数に影響するため )、ばらつきが大きくなります。

Rext/Cext の値と VDD による発振周波数の変化と、動作温度による周波数の変化に関しては、電気的特性の項を参照してください。

4 分周されたオシレータの周波数が OSC2/CLKOUT ピンに出力され、テストで使用したり、他のロジックと同期させるために使用することができます ( 波形に関しては、図 3-2 を参照してください )。

**図 8-7： RC オシレータモード**




| | |
|---|---|
| 注意： | デバイスのオシレータが RC モードの場合は、OSC1 ピンに外部クロックを入力しないでください。デバイスが損傷する可能性があります。. |


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 8.3 リセット

PIC16F8X は以下のリセットを発生できます。

- パワーオンリセット (POR)
- 通常動作中の MCLR リセット
- スリープ 中の MCLR リセット
- WDT タイムアウトリセット ( 通常動作中 )
- WDT スリープからの起動 ( スリープ 中 )

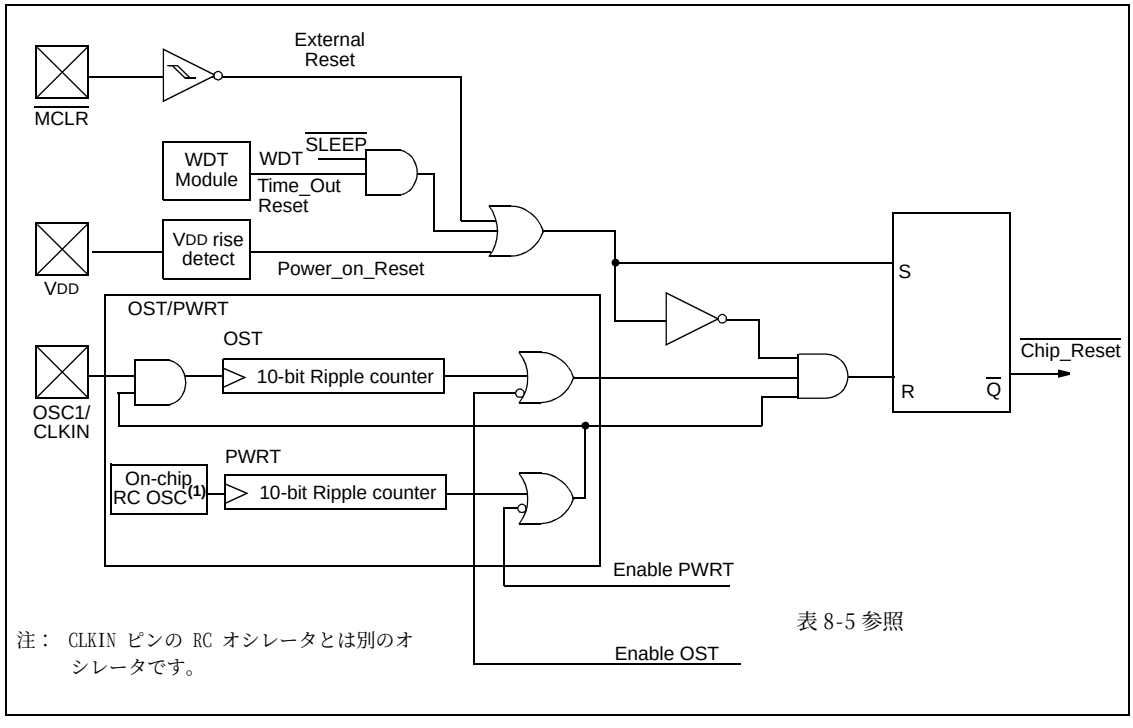
図 8-8 にオンチップのリセット回路の簡単なブロック図を示します。MCLR リセットパスには、小さなパルスを無視するためのノイズフィルタがあります。電気的特性に MCLR ピンのパルス幅の必要条件を記載します。

リセットされないレジスタがあります。リセットされないレジスタの値は POR リセット後は不定、他のリセット後は不変です。他のレジスタは、通常動作中は POR、MCLR または WDT リセット、 SLEEP 中はMCLR によりリセットされます。スリープ中の WDT リセットは通常動作の再開のように取り扱われるのでリセットされません。

表 8-3 にプログラムカウンタ (PC) および STATUS レジスタのリセット状態を示します。表 8-4 には、全レジスタのリセット状態を示します。

$\overline{TO}$ ビットと $\overline{PU}$ ビットは、発生したリセットによりセットまたはクリアされます ( 第 8.7 項 )。ソフトウエアはこのビットによって発生したリセットを識別で

**図 8-8： オンチップリセット回路のブロック図**






この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

**表 8-3　プログラムカウンタおよび STATUS レジスタのリセット状態**

| 状態 | プログラムカウンタ | STATUS レジスタ |
|---|---|---|
| パワーオンリセット | 000h | 0001 1xxx |
| 通常動作中の $\overline{\text{MCLR}}$ リセット | 000h | 000u uuuu |
| スリープ 中の $\overline{\text{MCLR}}$ リセット | 000h | 0001 0uuu |
| WDT リセット ( 通常動作中 ) | 000h | 0000 1uuu |
| WDT によるスリープからの起動 | PC + 1 | uuu0 0uuu |
| 割り込みによるスリープ からの起動 | PC + 1 (1) | uuu1 0uuu |

汎用：　u = 不定、x = 不明。
注意 1：割り込みによるスリープからの起動、かつ、GIE ビットが 1 のとき、PC には割り込みベクタ (0004h) がロードされます。

**表 8-4　レジスタのリセット状態**

| レジスタ | アドレス | パワーオン リセット | MCLR リセット：- 通常動作中 - SLEEP 中、通常動作中の WDT リセット | SLEEP からのウェークアップ： - - 割込み - WDT タイムアウト |
|---|---|---|---|---|
| W | — | xxxx xxxx | uuuu uuuu | uuuu uuuu |
| INDF | 00h | ---- ---- | ---- ---- | ---- ---- |
| TMR0 | 01h | xxxx xxxx | uuuu uuuu | uuuu uuuu |
| PCL | 02h | 0000h | 0000h | PC + 1(2) |
| STATUS | 03h | 0001 1xxx | 000q quuu(3) | uuuq quuu(3) |
| FSR | 04h | xxxx xxxx | uuuu uuuu | uuuu uuuu |
| PORTA | 05h | ---x xxxx | ---u uuuu | ---u uuuu |
| PORTB | 06h | xxxx xxxx | uuuu uuuu | uuuu uuuu |
| EEDATA | 08h | xxxx xxxx | uuuu uuuu | uuuu uuuu |
| EEADR | 09h | xxxx xxxx | uuuu uuuu | uuuu uuuu |
| PCLATH | 0Ah | ---0 0000 | ---0 0000 | ---u uuuu |
| INTCON | 0Bh | 0000 000x | 0000 000u | uuuu uuuu(1) |
| INDF | 80h | ---- ---- | ---- ---- | ---- ---- |
| OPTION_REG | 81h | 1111 1111 | 1111 1111 | uuuu uuuu |
| PCL | 82h | 0000h | 0000h | PC + 1 |
| STATUS | 83h | 0001 1xxx | 000q quuu(3) | uuuq quuu(3) |
| FSR | 84h | xxxx xxxx | uuuu uuuu | uuuu uuuu |
| TRISA | 85h | ---1 1111 | ---1 1111 | ---u uuuu |
| TRISB | 86h | 1111 1111 | 1111 1111 | uuuu uuuu |
| EECON1 | 88h | ---0 x000 | ---0 q000 | ---0 uuuu |
| EECON2 | 89h | ---- ---- | ---- ---- | ---- ---- |
| PCLATH | 8Ah | ---0 0000 | ---0 0000 | ---u uuuu |
| INTCON | 8Bh | 0000 000x | 0000 000u | uuuu uuuu(1) |

凡例：　u = 不変、x = 不定、- = 使用しない、 '0' としてリードされる、q = 状態により変化する値
注意　1： INTCON のビットに影響を受けます。 ( スリープから起動する要因となります )
2： 割り込みによるスリープからの起動、かつ、GIE ビットが 1 のとき、PC には割り込みベクタ (0004h) がロードされます。
3： 表 8-3 に各リセット条件によるリセット状態を示しています。


© 1998 Microchip Technology Inc.
この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

## 8.4 パワーオンリセット (POR)

(1.2V - 1.7V の範囲で ) VDD の立ち上がりが検出されたとき、パワーオンリセットパルスがチップ内で発生します。POR を利用するには、MCLR ピンを VDD に直接 ( または抵抗を通して ) 接続します。これにより、多くの場合、パワーオンリセットに必要とされる外付け RC が不要となります。正しくリセットするためには、VDD の立ち上がり時間の規定を満たす必要があります。詳しくは、電気的特性の章を参照してください。

デバイスが ( リセット状態から抜けて ) 通常動作を開始するとき 、デバイスが正常に動作するためには動作パラメータ ( 電圧、周波数、温度など ) は動作範囲内でなければいけません。それらが動作範囲外のとき、動作範囲内になるまでデバイスをリセット状態に保持しておく必要があります。

さらに詳しい説明は、アプリケーションノート AN607「Power-up Trouble Shooting」を参照してください。

VDD の立ち下がりのときは、POR 回路は内部リセットを発生しません。

## 8.5 パワーアップタイマ (PWRT)

パワーアップタイマ (PWRT) は、POR から固定の 72 ms ( 通常 ) のタイムアウト ($T_{PWRT}$) を発生します ( 図 8-10、図 8-11、図 8-12 および図 8-13)。パワーアップタイマは内部の RC オシレータで動作します。PWRT が動作中は、チップをリセット状態に保持します。PWRT は VDD が動作範囲内に達するまでの遅延時間を発生させるために役立ちます。( 図 8-13 に PWRT では不足な場合を示します )

コンフィグレーションビット $\overline{PWRTE}$ により、PWRT を動作させることができます。デバイスごとの $\overline{PWRTE}$ ビットの動作については、図 8-1 または図 8-2 を参照してください。

パワーアップタイマの遅延 $T_{PWRT}$ は VDD、温度、製造上のばらつきにより、チップごとにばらつきます。詳しくは、DC パラメータの章を参照してください。

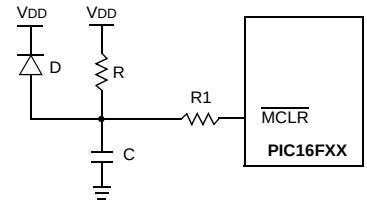
## 8.6 オシレータスタートアップタイマ (OST)

オシレータスタートアップタイマ (OST) は PWRT の遅延時間が終了後、1024 オシレータサイクル (OSC1 入力 ) の遅延時間を発生します ( 図 8-10、図 8-11、図 8-12 および 図 8-13)。これにより、水晶またはレゾネータの発振が安定するまでリセット状態にしておくために役立ちます。

OST タイムアウト ($T_{OST}$) は XT、LP および HS のモードのときのパワーオンリセットやスリープからの起動のときに起動します。

VDD の立ち上がりが非常に遅いときは、VDD が最後まで立ち上げる前に $T_{PWRT}$ タイムアウトおよび $T_{OST}$ タイムアウトが発生する場合があります。この場合 ( 図 8-13)、外部パワーオンリセット回路が必要です ( 図 8-9)。

**図 8-9： 外部パワーオンリセット回路 (VDD の立ち上がりが遅いとき用 )**




注意 1： 外部パワーオンリセット回路は、VDD 立ち上がりが遅いときに必要です。ダイオード D は、VDD がパワーダウンするときにコンデンサを高速放電するのに役立ちます。

2： R の電圧が 0.2V 以上にならないようにするため (MCLR ピンの最大リーク電流は 5μA)、R < 40 kΩ を推奨します。電圧低下が大きいと、MCLR ピンでの入力レベルが低くなります。

3： ESD または EOS による MCLR ピンの損傷を防ぐため、外部コンデンサ C から MCLR への電流を制限する R1=100Ω から 1KΩ にします。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

**図 8-10： 電源 ON 時のタイムアウトシーケンス（$\overline{MCLR}$ は VDD に接続されない）：ケース 1**

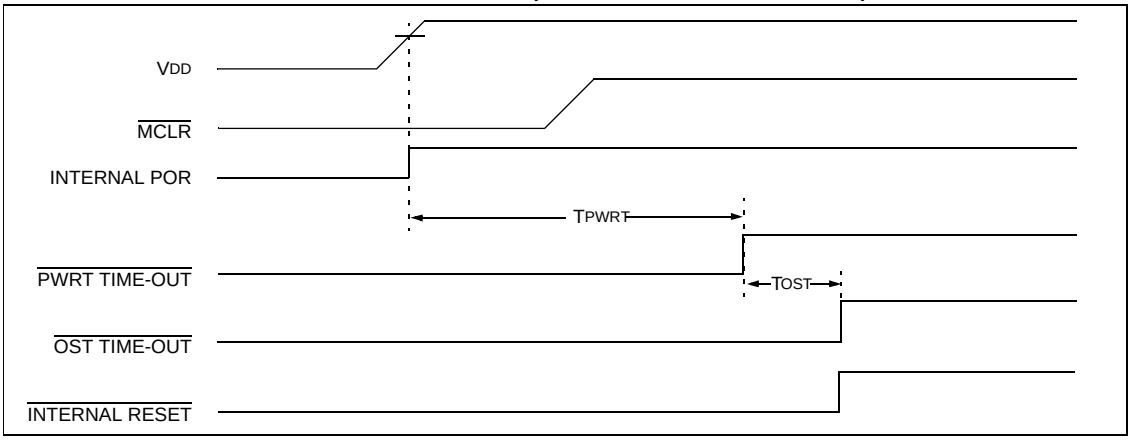
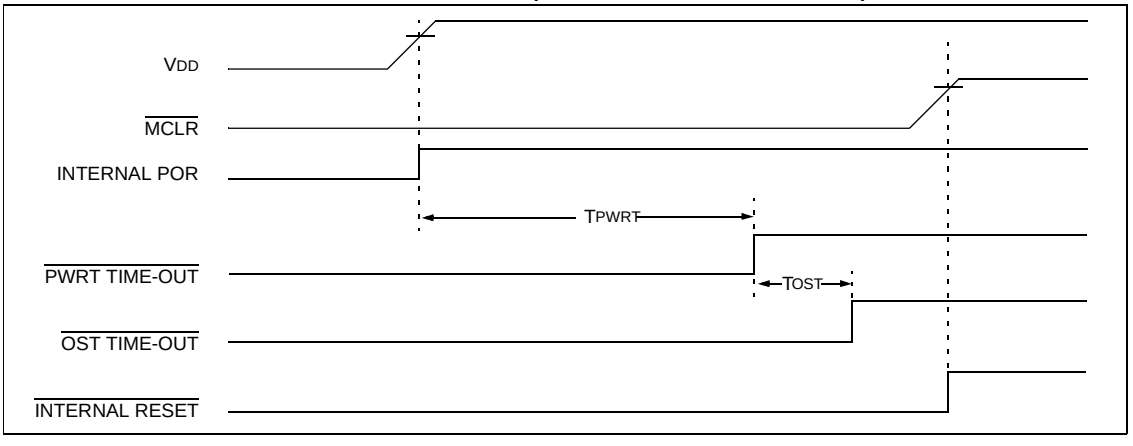



**図 8-11： 電源 ON 時のタイムアウトシーケンス（$\overline{MCLR}$ は VDD に接続されない）: ケース 2**





© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**図 8-12： 電源 ON 時のタイムアウトシーケンス（$\overline{MCLR}$ は VDD に接続）：VDD の立ち上がりがはやい**

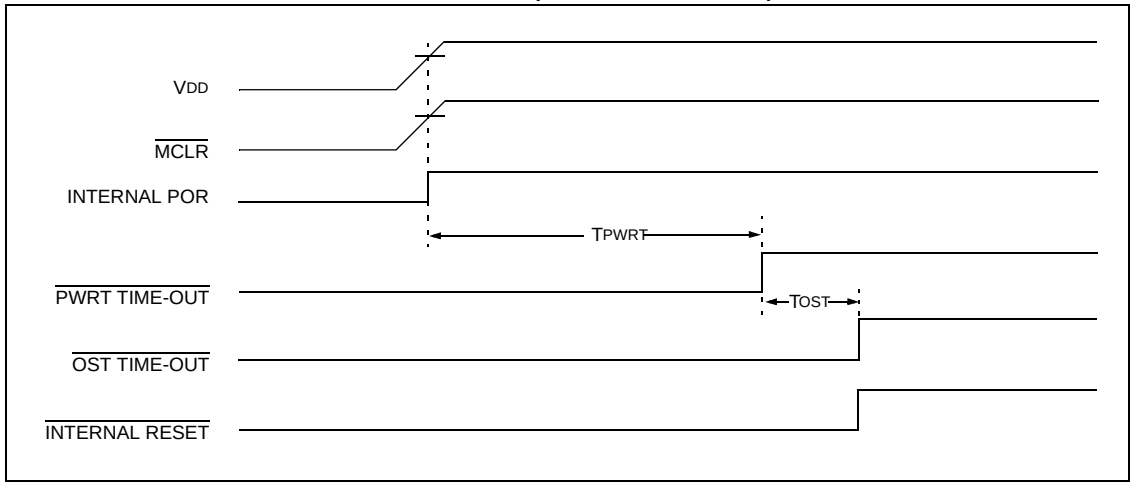
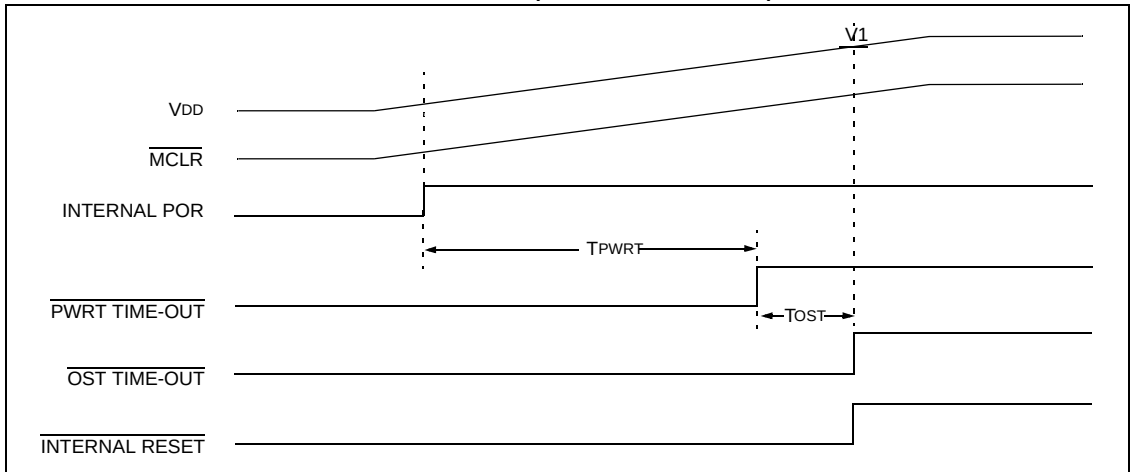



**図 8-13： 電源 ON 時のタイムアウトシーケンス（$\overline{MCLR}$ は VDD に接続）：VDD の立ち上がりが遅い**




VDD の立ち上がりが遅いとき、VDD が最後まで立ち上がる前に TPWRT タイムアウトおよび TOST タイムアウトが発生する場合があります。V1 ≧ VDD min とならない場合はチップは正しくリセットされません。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 8.7 タイムアウトシーケンスおよびパワーダウンのステータスビット (TO/PD)

電源 ON のときのタイムアウトシーケンスでは ( 図 8-10、図 8-11、図 8-12 および図 8-13 )、POR の後に PWRT タイムアウトが起動して、その後に OST が動作します。合計のタイムアウトはコンフィグレーションビットのオシレータと PWRTE の設定により変化します。例えば、RC モード、かつ、PWRT を動作させない場合は、タイムアウトはありません。

### 表 8-5 オシレータのコンフィグレーションによるタイムアウト

| Oscillator Configuration | Power-up | | Wake-up from SLEEP |
|---|---|---|---|
| | PWRT Enabled | PWRT Disabled | |
| XT, HS, LP | 72 ms + 1024TOSC | 1024TOSC | 1024TOSC |
| RC | 72 ms | — | — |

タイムアウトは POR リセットパルスから起動するので、$\overline{MCLR}$ を Low にある時間しておけば、タイムアウトは終了します。その後、$\overline{MCLR}$ を High にすると同時にプログラムの実行が開始されます。( 図 8-10)。これはテストや並列動作の複数の PIC16F8X デバイスの同期させるため役立ちます。

表 8-6 は TO ビットおよび PD ビットの意味を示します。表 8-3 はいくつかの特別なレジスタのリセット状態、表 8-4 は全レジスタのリセット状態を示します。

### 表 8-6 ステータスビットおよびその意味

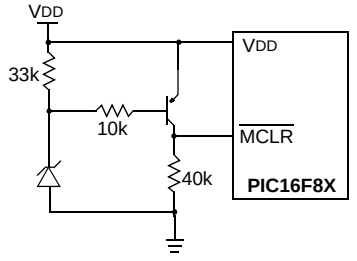
| $\overline{TO}$ | $\overline{PD}$ | 条件 |
|---|---|---|
| 1 | 1 | パワーオンリセット |
| 0 | x | 違法、POR で TO がセットされる |
| x | 0 | 違法、POR で PD がセットされる |
| 0 | 1 | WDT リセット ( 通常動作中 ) |
| 0 | 0 | WDT によるスリープからの起動 |
| 1 | 1 | 通常動作中の $\overline{MCLR}$ リセット |
| 1 | 0 | スリープ中の $\overline{MCLR}$ リセットまたは 割り込みによるスリープからの起動 |

## 8.8 ブラウンアウトによるリセット

ブラウンアウトとは、デバイスの電源電圧が VDD min より低くなり、かつ、ゼロとはならないうちに元に戻る状態です。デバイスは、ブラウンアウトが発生したときはリセットされる必要があります。

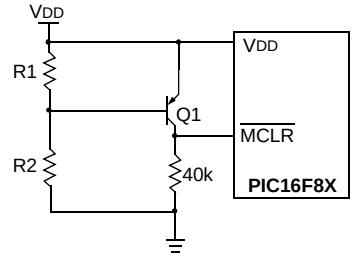
ブラウンアウトが発生したときに PIC16F8X デバイスをリセットするために、外部リセット IC や図 8-14 および図 8-15 に示すような外部ブラウンアウト保護回路が必要な場合があります。

**図 8-14： ブラウンアウト保護回路 1**




この回路は、VDD が Vz + 0.7V 未満になると、リセットとなります。(Vz = ツェナー電圧 )

**図 8-15： ブラウンアウト保護回路 2**




このブラウンアウト回路は、正確さは劣りますが、コストは安くなります。VDD が以下の一定のレベルより低いとき、トランジスタ Q1 がオフになります。

$$V_{DD} \cdot \frac{R1}{R1 + R2} = 0.7V$$


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

## 8.9 割り込み

PIC16F8X には 4 本の割り込み要因があります。

- 外部割り込み RB0/INT ピン
- TMR0 オーバフロー割り込み
- PORTB 変化割り込み ( ピン RB7:RB4)
- データ EEPROM ライト完了割り込み

割り込みコントロールレジスタ (INTCON) は、個別の割り込み要求フラグビットを記憶します。また、このレジスタは、個別／グローバルの割り込みイネーブルビットもあります。

グローバル割り込みイネーブルビット、GIE (INTCON<7>) は、マスクされていないすべての割り込みを発生許可するか (1 のとき )、またはすべての割り込みを発生禁止します (0 のとき )。個別の割り込みは、INTCON レジスタの対応するビットで発生禁止することができます。GIE ビットはリセットによりクリアされます。

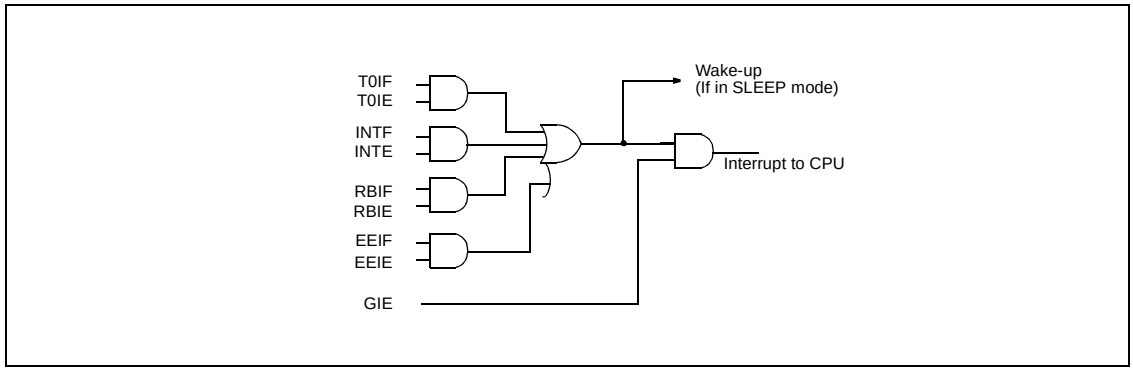
"return from interrupt" 命令、RETFIE は、割り込みルーチンからのリターンと割り込みを発生許可するため GIE ビットを 1 にします。

RB0/INT ピン割り込み、RB ポート変化割り込みおよび TMR0 オーバフロー割り込みフラグは、INTCON レジスタにあります。

割り込みが実行されると、GIE ビットが 0 になり、それ以上の割り込みが発生禁止となり、リターンアドレスがスタックにプッシュされて、PC に 0004h がロードされます。RB0/INT ピンまたは PORTB 変化割り込みなどの外部割り込みのときは、割り込み遅延時間は 3 から 4 命令サイクルです。正確な遅延時間は、割り込みが発生したタイミングによります ( 図 8-17)。遅延は、1 サイクル命令でも 2 サイクル命令でも同じです。割り込み処理ルーチンで割り込みフラグビットをポーリングすることにより発生した割り込み要因がわかります。割り込みを再度発生許可する前に、割り込みフラグをソフトウエアでクリアする必要があります。そうしないと割込み要求の無限ループが発生します。

注意 1：個別の割り込みフラグビットは、それに対応するイネーブルビットや GIE ビットが 0 でもセットされます。

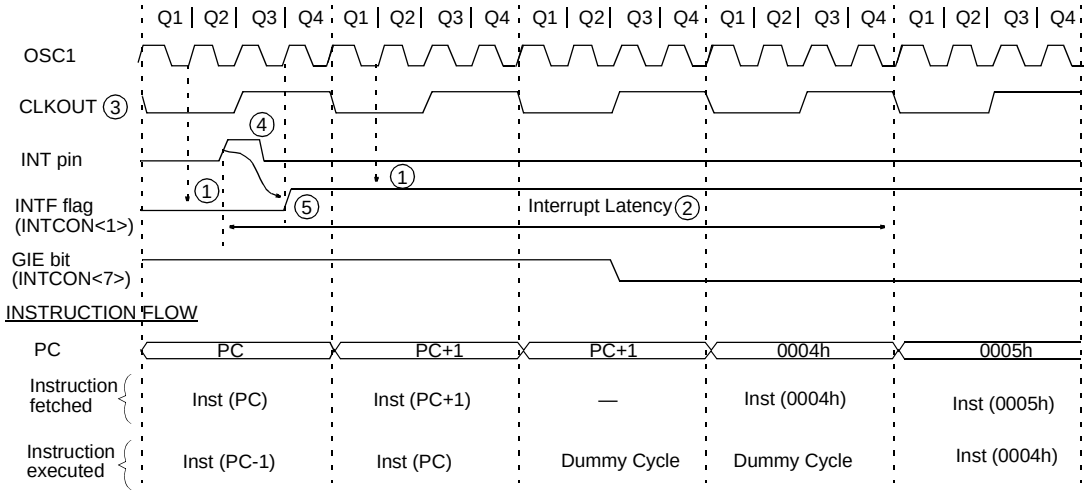
**図 8-16： 割り込みロジック**






この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

**図 8-17： INT ピンの割り込みタイミング**




注意 1：INTF フラグは Q1 ごとにサンプリングされます。
2：割り込み遅延時間 = 3-4Tcy。Tcy = 命令サイクル時間。待ち時間は Inst (PC) が 1 サイクル命令でも、2 サイクル命令でも同じです。
3：CLKOUT は RC オシレータ モードでのみ出力されます。
4：INT パルスの最小パルス幅については、AC 仕様を参照。
5：INTF は Q4-Q1 サイクルの間のどこでもセットされます。

### 8.9.1 INT 割り込み

RB0/INT ピンの外部割り込みはエッジで発生します。INTEDG ビット (OPTION_REG<6>) が 1 のときは立ち上がりエッジ、INTEDG ビットが 0 のときは立ち下がりエッジです。RB0/INT ピンに有効なエッジが入力されたとき、INTF ビット (INTCON<1>) がセットされます。この割り込みを発生許可するには INTE (INTCON<4>) ビットを 1 にします。割り込みを再度発生許可にする前に、割り込み処理ルーチン内でフラグビット INTF をソフトウェアでクリアする必要があります。スリープモードに入る前に INTE ビットが 1 のとき、INT 割り込みはプロセッサをスリープから起動できます ( 第 8.1 2 項 )。GIE ビットが 1 のとき、スリープからの起動後、割り込みベクタにプログラム分岐します。

### 8.9.2 TMR0 割込み

TMR0 のオーバフロー (FFh ～ 00h) によってフラグビット T0IF (INTCON<2>) がセットされます。T0IE (INTCON<5>) ビットの 1/0 によって、この割り込み発生を許可 / 禁止することができます ( 第 6.0 項参照 )。

### 8.9.3 PORT RB 割込み

PORTB<7:4> の入力変化によって、フラグビット RBIF (INTCON<0>) がセットされます。RBIE (INTCON<3>) ビットの 1/0 によって、この割り込み発生を許可 / 禁止することができます ( 第 5.2 項参照 )。

注意 1：I/0 ピン の変化が認識されるには、パルス幅は TCY 以上でなくてはなりません。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

## 8.10 割り込み中のコンテキストの保存

割り込み中は､PC のリターンアドレスがスタックに保存されます。ほとんどのソフトウエアでは、割り込み中はいくつかのレジスタの値を保存する必要があります（例えば、W レジスタや STATUS レジスタ）。これはソフトウェアで行う必要があります。

例 8-1 は STATUS レジスタおよび W レジスタの値を保存、復帰します。ユーザーが定義するレジスタ、W_TEMP および STATUS_TEMP は、W レジスタおよび STATUS レジスタの割り込み中の保存場所です。

例 8-1 は以下を実行します。

a) W レジスタを保存する。
b) STATUS レジスタを STATUS_TEMP に保存する。
c) 割り込み処理ルーチンを実行する。
d) STATUS（およびバンク選択ビット）レジスタを元に戻す。
e) W レジスタを元に戻す。

**例 8-1 STATUS レジスタおよび W レジスタの RAM への保存**

```
PUSH    MOVWF   W_TEMP          ; Copy W to TEMP register,
        SWAPF   STATUS, W       ; Swap status to be saved into W
        MOVWF   STATUS_TEMP     ; Save status to STATUS_TEMP register
ISR     :                       :
        :                       ; Interrupt Service Routine
        :                       ;  should configure Bank as required
        :                       ;
POP     SWAPF   STATUS_TEMP, W  ; Swap nibbles in STATUS_TEMP register
                                ; and place result into W
        MOVWF   STATUS          ; Move W into STATUS register
                                ;   (sets bank to original state)
        SWAPF   W_TEMP, F       ; Swap nibbles in W_TEMP and place result in W_TEMP
        SWAPF   W_TEMP, W       ; Swap nibbles in W_TEMP and place result into W
```

注意： Z フラグが影響しないように SWAPF 命令を使用します。

FSR レジスタ、PCLATCH レジスタなども保存が必要な場合があります。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 8.11 ウォッチドッグタイマ (WDT)

ウォッチドッグタイマは外付け部品不要のフリーランのオンチップ RC オシレータです。この RC オシレータは OSC1/CLKIN ピンの RC オシレータとは別のものです。例えば、SLEEP 命令の実行によりデバイスの OSC1/CLKIN ピンおよび OSC2/CLKOUT ピンのクロックが停止しているときでも WDT は動作します。通常動作中は、WDT タイムアウトはデバイスリセットを発生します。スリープ中は、WDT タイムアウトによるスリープからの起動は通常動作の継続です。ウォッチドッグタイマは、コンフィグレーションワード の WDTE を 0 にすることにより停止できます ( 第 8.1 項 )。

### 8.11.1 ウォッチドッグタイマの周期

ウォッチドッグタイマのタイムアウト周期は通常 18 ms です ( プリスケーラなしのとき )。タイムアウト周期は温度、VDD および製造上のばらつきによりデバイスごとにばらつきます (DC 仕様参照 )。長いタイムアウト周期が必要な場合は、ソフトウエアによる OPTION_REG レジスタの設定で最大 1:128 のプリスケーラをウォッチドッグタイマに割り当てることができます。これによって、タイムアウト周期を最大 2.3 秒にできます。

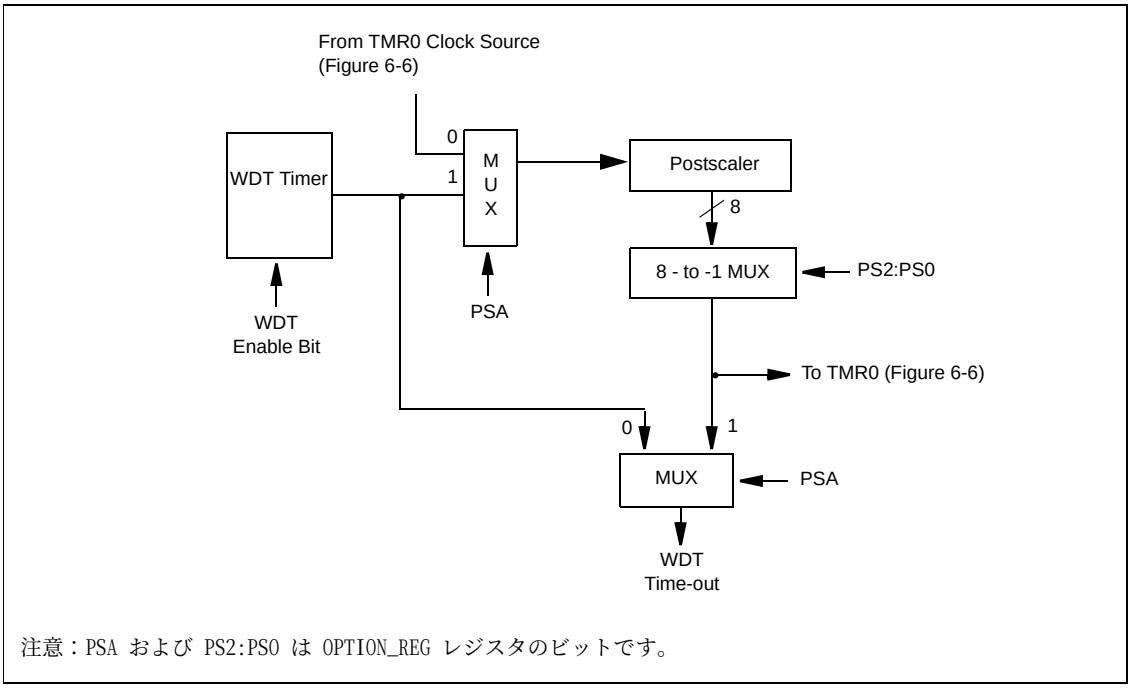
CLRWDT 命令および SLEEP 命令はウォッチドッグタイマとポストスケーラ ( ウォッチドッグタイマに割り当てられている場合 ) をクリアしてタイムアウトさせないことでデバイスリセットの発生を遠ざけます。

WDT タイムアウトによって、STATUS レジスタ内の $\overline{TO}$ ビットが 0 になります。

### 8.11.2 WDT プログラミングの注意点

ワースト条件 (VDD = 最小、温度 = 最大、最大 WDT プリスケーラ ) では、WDT のタイムアウトが発生するまでに数秒かかる場合があることを考慮しておく必要があります。

**図 8-18： ウォッチドッグタイマのブロック図**




注意：PSA および PS2:PS0 は OPTION_REG レジスタのビットです。

**表 8-7 ウォッチドッグタイマに関連したレジスタの概要**

| アドレス | 名称 | Bit 7 | Bit 6 | Bit 5 | Bit 4 | Bit 3 | Bit 2 | Bit 1 | Bit 0 | パワーオンリセットによる値 | 他のすべてのリセットによる値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2007h | Config. bits | (2) | (2) | (2) | (2) | $\overline{PWRTE}$(1) | WDTE | FOSC1 | FOSC0 | (2) | |
| 81h | OPTION_REG | $\overline{RBPU}$ | INTEDG | T0CS | T0SE | PSA | PS2 | PS1 | PS0 | 1111 1111 | 1111 1111 |

凡例：x = 不定。網掛部分は ウォッチドッグタイマでは使用しません。
注意 1： PWRTE ビットでの動作については、図 8-1 および図 8-2 を参照。
_ 2： コードおよびコードとデータプロテクトビットの動作については、図 8-1、図 8-2 および第 8.13 項を参照。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

## 8.12 パワーダウンモード（スリープ）

デバイスはパワーダウン（スリープ）させて、後にパワーアップ（スリープからの起動）させることができます。

### 8.12.1 スリープ

SLEEP 命令を実行すると、デバイスはパワーダウンモードに入ります。

ウォッチドッグタイマを動作させている場合はウォッチドッグタイマはクリアされ（動作は継続）、$\overline{PD}$ ビット（STATUS<3>）は 0、$\overline{TO}$ ビット（STATUS<4>）は 1、オシレータドライバは発振を停止します。I/O ポートは、SLEEP 命令を実行する前の状態を維持します（High または Low を出力、またはハイインピーダンス）。

スリープモードで消費電力を最も小さくするためには、外部クロックを停止、I/O ピンから外部回路へ電流は流れないようにして、すべての I/O ピンを VDD または VSS に固定します。ハイインピーダンス入力の I/O ピンは、フローティング入力によるスイッチング電流を防ぐため、外部でプルアップまたはプルダウンします。また、TOCKI 入力も VDD または VSS に固定してください。PORTB のオンチッププルアップも考慮する必要があります。

$\overline{MCLR}$ ピンは論理 High レベル（VIHMC）にしておく必要があります。

WDT タイムアウトによるリセットは、$\overline{MCLR}$ ピンを Low レベルに駆動しません。

### 8.12.2 SLEEP からの起動

以下のイベントによって、デバイスは SLEEP から起動します。

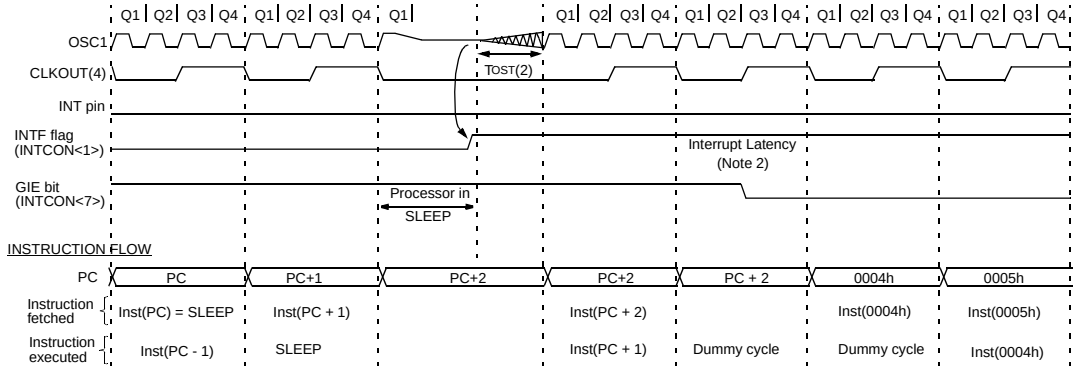
1. $\overline{MCLR}$ ピンへの外部リセット入力
2. WDT タイムアウト（WDT が動作しているとき）
3. 割り込み（RB0/1NT ピン、RB ポート変化、データ EEPROM ライト完了）

オンチップ Q クロックがないため、スリープ中は周辺機能は割り込みを発生できません。

最初のイベント（$\overline{MCLR}$ リセット）は、デバイスリセットを発生させます。次の 2 つのイベントはプログラム実行を継続します。$\overline{TO}$ ビットおよび $\overline{PD}$ ビットによって、デバイスリセットの原因を知ることができます。電源 ON のときに 1 になる $\overline{PD}$ ビットは、SLEEP 命令の実行により 0 になります。WDT タイムアウトが発生する（スリープから起動する）と、$\overline{TO}$ ビットが 0 になります。

SLEEP 命令を実行しているとき、次の命令（PC + 1）がフェッチされています。割り込みイベントによってスリープからの起動させるには、対応する割り込みイネーブルビットを 1 にする（割り込みを発生許可する）必要があります。スリープからの起動は GIE ビットに関係なく発生します。GIE ビットが 0（発生禁止）のとき、デバイスは SLEEP 命令の次の命令を実行します。GIE ビットが 1（発生許可）のとき、デバイスは SLEEP 命令の次の命令を実行して、 割り込みベクタ（0004h）へプログラム分岐します。SLEEP 命令の次の命令を実行したくないときは、SLEEP 命令の次に NOP を置く必要があります。

**図 8-19： 割り込みによるスリープからの起動**




注意 1： XT、HS、または LP のオシレータモードの場合です。
2： TOST = 1024TOSC（図の時間軸は省略）。この遅延は RC オシレータモードでは発生しません。
3： GIE = '1' の場合、スリープから起動後、割り込みルーチンにジャンプします。GIE = '0' の場合は、プログラム実行が継続されます。
4： CLKOUT はこのモードでは出力しませんが、この図ではタイミングの参考のために示します。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

### 8.12.3 割り込みによるスリープからの起動

グローバル割り込みが発生禁止（GIE が 0）、かつ、割り込みイネーブルビットと割り込みフラグビットの両方が 1 となっている割り込み要因があるとき、以下のいずれかが発生します。

- SLEEP 命令の実行前に割込みが発生した場合は、SLEEP 命令が NOP として完了します。これにより、WDT および WDT ポストスケーラはクリアされず、TO ビットはセットされず、PD ビットはクリアされません。
- SLEEP 命令の実行中または実行後に割込みが発生した場合は、デバイスがすぐにスリープから起動します。スリープからの起動前に SLEEP 命令が実行されます。WDT および WDT ポストスケーラはクリアされ、TO ビットがセットされ、PD ビットがクリアされます。

SLEEP 命令実行前に割り込みフラグビットをチェックしても、SLEEP 命令が実行前に割り込みフラグビットがセットされる可能性はあります。SLEEP 命令が実行されたかどうかを判断するには、PD ビットをチェックします。SLEEP 命令は NOP として実行された場合は PD ビットが 1 です。

WDT を確実にクリアするには、SLEEP 命令の前に CLRWDT 命令を実行させる必要があります。

## 8.13 プログラムベリファイ／コードプロテクト

コードプロテクトが OFF のときは、オンチップのプログラムメモリをリードしてプログラムのベリファイを行えます。

| 注意： | 窓付きデバイスはコードプロテクトを OFF で使用することを推奨します。 |
|---|---|

## 8.14 ID ロケーション

4 つの番地（2000h - 2003h）が ID ロケーションとして、チェックサムまたは他のプログラム識別番号を格納できるようになっています。この番地は通常のプログラム実行中はアクセスできませんが、プログラム／ベリファイ中にリードとライトができます。ID ロケーションは下位 4 ビットのみが使用できます。

ROM デバイスの場合は、この値は ROM コードを指定します。

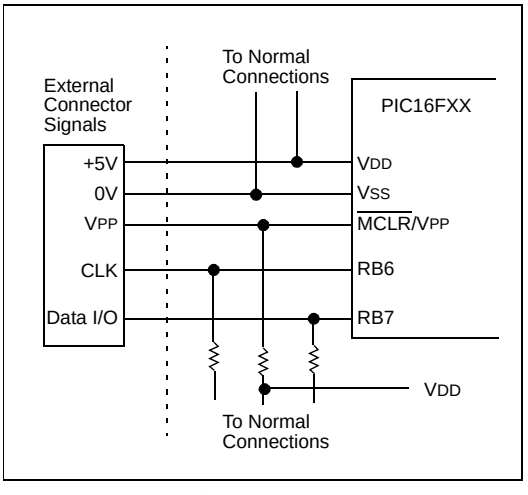
## 8.15 インサーキットシリアルプログラミング

PIC16F8X マイクロコントローラは、アプリケーション回路上でシリアルプログラミングすることができます。これは、クロックとデータの 2 本と電源、グランド、プログラミング電圧の 3 本を使用することで簡単に行えます。プログラム書き込みされていないデバイスを使用してボードを生産して、製品の出荷直前にマイクロコントローラへプログラム書き込みすることができます。最新のファームウェアや特別仕様のファームウェアをプログラム書き込みすることができます。

MCLR ピンが VIL から VIHH に立ち上がるとき、RB6 ピンと RB7 ピンをローにしておくことで、デバイスのプログラム／ベリファイモードに入ります（プログラミング仕様を参照）。RB6 はプログラミングクロックになり、RB7 はプログラミングデータになります。RB6 と RB7 は、このモードではシュミットトリガ入力です。

リセット後、デバイスはプログラミング／ベリファイモードになり、プログラムカウンタ（PC）は 00h 番地をさします。6 ビットのコマンドをデバイスに入力して、ロードまたはリードの命令を使用して 14 ビットのプログラムデータをデバイスへ入力、またはデバイスから出力されます。シリアルプログラミングの詳細については、PIC16F8X EEPROM Memory Programming Specification を参照してください（DS30262）。

**図 8-20 標準的なインターサーキットシリアルプログラミングの接続例**




ROM デバイスの場合、プログラムメモリとデータ EEPROM メモリの両方をリードできますが、プログラムできるのは データ EEPROM メモリだけです。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 9.0 命令セット

PIC16CXX の命令はすべて 14 ビットワードで、命令のタイプを表すオペコード部とその他の命令の動作を表す 1 つ以上のオペランド部からできています。表 9-2 では PIC16CXX の命令セットを、バイト対応、ビット対応、リテラルおよびコントロールに分類しています。表 9-1 には OPECODE のフィールドを説明します。

バイト対応命令では、'f' をファイル レジスタ指名子、'd' を結果格納先指名子として使用します。ファイルレジスタ指名子では、命令で使用するファイルレジスタのアドレスを指定します。

結果格納先指名子では、命令の実行結果を格納する場所を指定します。'd' が 0 の場合、結果は W レジスタに格納されます。'd' が 1 の場合、結果は命令で指定されたファイルレジスタに格納されます。

ビット対応命令では、ビット番号指名子 'b' を使って、この命令実行によって影響を受けるビットの番号を選択します。また、ファイルレジスタ指名子 'f' を使って、そのビットが置かれているファイルレジスタのアドレスを指定します。

リテラルおよびコントロール命令では、'k' を使って 8 ビットまたは 11 ビットの定数やリテラルを指定します。

**表 9-1： OPCODE フィールドの説明**

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| f | ファイルレジスタのアドレス (0x00 ～ 0x7F) |
| W | ワーキング レジスタ ( アキュムレータ ) |
| b | 8 ビットファイルレジスタ内のビットアドレス |
| k | リテラル、定数データまたはラベル |
| x | 無効 (= 0 または 1)<br>アセンブラは x = 0 としてコードを生成。すべてのソフトウェアツールとの互換性を確保するために x = 0 を推奨します。 |
| d | 結果格納先指名子 ;<br>d = 0 ( 結果は W に格納 )<br>d = 1 ( 結果はファイルレジスタ 'f' に格納 )<br>デフォルトは d = 1 |
| label | ラベル名 |
| TOS | スタックの最上位 |
| PC | プログラムカウンタ |
| PCLATH | プログラムカウンタのハイラッチ |
| GIE | グローバル割り込みイネーブルビット |
| WDT | ウォッチドッグタイマ／カウンタ |
| $\overline{TO}$ | タイムアウトビット |
| $\overline{PD}$ | パワーダウンビット |
| dest | 結果格納先 (W レジスタまたは指定されているレジスタファイルのロケーション ) |
| [ ] | オプション |
| ( ) | 内容 |
| → | 割り当て先 |
| < > | レジスタビットフィールド |
| ∈ | セットを表す |
| *イタリック* | ユーザー定義 |

命令セットは高い直交性を持っていて、次の 3 つの基本カテゴリーに分類されます。

- バイト対応の命令
- ビット対応の命令
- リテラルおよびコントロール命令

すべての命令は 1 命令サイクルで実行されますが、命令を実行した結果、条件付きテストの結果が真となったり、プログラムカウンタを変更すると、その命令の実行に 2 サイクルかかります。この場合、2 番目のサイクルは NOP として実行されます。1 命令サイクルは、4 オシレータ周期です。したがって、オシレータ周波数が 4 MHz の場合、命令実行時間は 1 µs になります。命令を実行した結果、条件付きテストが真になったり、プログラムカウンタを変更した場合は、命令実行時間は 2 µs になります。

表 9-2 は、MPASM アセンブラの命令のリストです。

図 9-1 に、命令の一般的なフォーマットを示します。

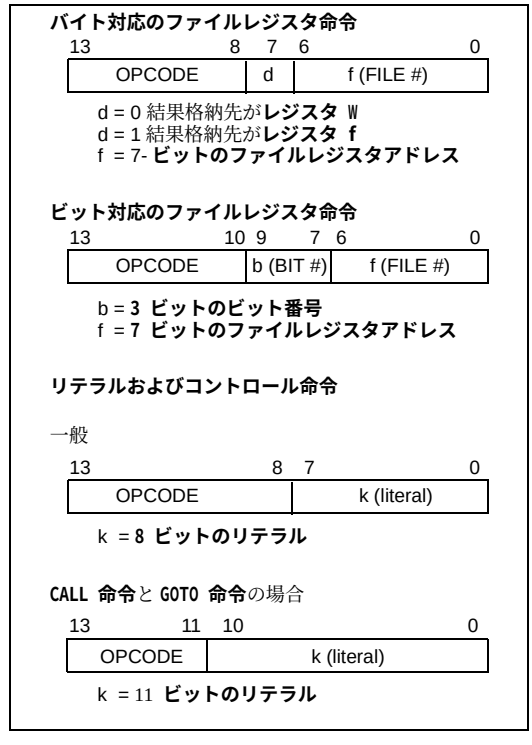
| 注意： | 将来の PIC16CXX 製品との上位互換性を維持するために、OPTION 命令と TRIS 命令は使用しないでください。 |
|---|---|

例では、次のフォーマットで 16 進数を表します。

0xhh

上記の "h" は 16 進数を表します。

**図 9-1： 命令の一般的なフォーマット**






この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

**表 9-2　PIC16FXX の命令セット**

| ニーモニック オペランド | | 説明 | サイクル数 | 14 ビットオペコード MSb LSb | 影響されるステータス | 注意 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| **バイト対応のファイルレジスタ命令** | | | | | | |
| **ADDWF** | **f, d** | Add W and f | 1 | 00 0111 dfff ffff | C,DC,Z | 1,2 |
| **ANDWF** | **f, d** | AND W with f | 1 | 00 0101 dfff ffff | Z | 1,2 |
| **CLRF** | **f** | Clear f | 1 | 00 0001 lfff ffff | Z | 2 |
| **CLRW** | **-** | Clear W | 1 | 00 0001 0xxx xxxx | Z | |
| **COMF** | **f, d** | Complement f | 1 | 00 1001 dfff ffff | Z | 1,2 |
| **DECF** | **f, d** | Decrement f | 1 | 00 0011 dfff ffff | Z | 1,2 |
| **DECFSZ** | **f, d** | Decrement f, Skip if 0 | 1(2) | 00 1011 dfff ffff | | 1,2,3 |
| **INCF** | **f, d** | Increment f | 1 | 00 1010 dfff ffff | Z | 1,2 |
| **INCFSZ** | **f, d** | Increment f, Skip if 0 | 1(2) | 00 1111 dfff ffff | | 1,2,3 |
| **IORWF** | **f, d** | Inclusive OR W with f | 1 | 00 0100 dfff ffff | Z | 1,2 |
| **MOVF** | **f, d** | Move f | 1 | 00 1000 dfff ffff | Z | 1,2 |
| **MOVWF** | **f** | Move W to f | 1 | 00 0000 lfff ffff | | |
| **NOP** | **-** | No Operation | 1 | 00 0000 0xx0 0000 | | |
| **RLF** | **f, d** | Rotate Left f through Carry | 1 | 00 1101 dfff ffff | C | 1,2 |
| **RRF** | **f, d** | Rotate Right f through Carry | 1 | 00 1100 dfff ffff | C | 1,2 |
| **SUBWF** | **f, d** | Subtract W from f | 1 | 00 0010 dfff ffff | C,DC,Z | 1,2 |
| **SWAPF** | **f, d** | Swap nibbles in f | 1 | 00 1110 dfff ffff | | 1,2 |
| **XORWF** | **f, d** | Exclusive OR W with f | 1 | 00 0110 dfff ffff | Z | 1,2 |
| **ビット対応のファイルレジスタ命令** | | | | | | |
| **BCF** | **f, b** | Bit Clear f | 1 | 01 00bb bfff ffff | | 1,2 |
| **BSF** | **f, b** | Bit Set f | 1 | 01 01bb bfff ffff | | 1,2 |
| **BTFSC** | **f, b** | Bit Test f, Skip if Clear | 1 (2) | 01 10bb bfff ffff | | 3 |
| **BTFSS** | **f, b** | Bit Test f, Skip if Set | 1 (2) | 01 11bb bfff ffff | | 3 |
| **リテラルおよびコントロール命令** | | | | | | |
| **ADDLW** | **k** | Add literal and W | 1 | 11 111x kkkk kkkk | C,DC,Z | |
| **ANDLW** | **k** | AND literal with W | 1 | 11 1001 kkkk kkkk | Z | |
| **CALL** | **k** | Call subroutine | 2 | 10 0kkk kkkk kkkk | | |
| **CLRWDT** | **-** | Clear Watchdog Timer | 1 | 00 0000 0110 0100 | $\overline{TO}$,$\overline{PD}$ | |
| **GOTO** | **k** | Go to address | 2 | 10 1kkk kkkk kkkk | | |
| **IORLW** | **k** | Inclusive OR literal with W | 1 | 11 1000 kkkk kkkk | Z | |
| **MOVLW** | **k** | Move literal to W | 1 | 11 00xx kkkk kkkk | | |
| **RETFIE** | **-** | Return from interrupt | 2 | 00 0000 0000 1001 | | |
| **RETLW** | **k** | Return with literal in W | 2 | 11 01xx kkkk kkkk | | |
| **RETURN** | **-** | Return from Subroutine | 2 | 00 0000 0000 1000 | | |
| **SLEEP** | **-** | Go into standby mode | 1 | 00 0000 0110 0011 | $\overline{TO}$,$\overline{PD}$ | |
| **SUBLW** | **k** | Subtract W from literal | 1 | 11 110x kkkk kkkk | C,DC,Z | |
| **XORLW** | **k** | Exclusive OR literal with W | 1 | 11 1010 kkkk kkkk | Z | |

注意 1：I/O レジスタがその同じ I/O レジスタにより変更する場合、 (MOVF、PORTB、1 など )、ピンの入力レベルが使用されます。たとえば、入力ピンのデータラッチが "1"、そのピンが外部デバイスにより Low レベルとなっているとき、データラッチには "0" がライトされます。

2：この命令を TMR0 レジスタに対して実行すると ( かつ、結果格納先 d の指定が可能な場合には d=1 が指定されていると )、TMR0 モジュールに割り当てられているプリスケーラがクリアされます ( プリスケーラが TMR0 に割り当てられているときのみ )。

3：プログラムカウンタ (PC) を変更したり、条件付きテストの結果が真になると、命令実行は 2 サイクルかかります。2 番目のサイクルは NOP として実行されます。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

## 9.1 命令の説明

**ADDLW** **Add Literal and W**

Syntax: [*label*] ADDLW k

Operands: 0 ≤ k ≤ 255

Operation: (W) + k → (W)

Status Affected: C, DC, Z

Encoding:

| 11 | 111x | kkkk | kkkk |
|---|---|---|---|

Description: W レジスタの内容を 8 ビットのリテラル "k" に加え、この結果を W レジスタにライトします。

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read literal 'k' | Process data | Write to W |

Example:

```
ADDLW   0x15
```

命令実行前
W = 0x10
命令実行後
W = 0x25

**ANDLW** **AND Literal with W**

Syntax: [*label*] ANDLW k

Operands: 0 ≤ k ≤ 255

Operation: (W) .AND. (k) → (W)

Status Affected: Z

Encoding:

| 11 | 1001 | kkkk | kkkk |
|---|---|---|---|

Description: W レジスタの内容と 8 ビットのリテラル "k" の AND を行います。この結果を d=0 であれば W レジスタに、d=1 であればレジスタ "f" にライトします。

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read literal "k" | Process data | Write to W |

Example

```
ANDLW   0x5F
```

命令実行前
W = 0xA3
命令実行後
W = 0x03

**ADDWF** **Add W and f**

Syntax: [*label*] ADDWF f,d

Operands: 0 ≤ f ≤ 127
d ∈ [0,1]

Operation: (W) + (f) → (destination)

Status Affected: C, DC, Z

Encoding:

| 00 | 0111 | dfff | ffff |
|---|---|---|---|

Description: W レジスタの内容をレジスタ "f" に加えます。この結果を d=0 であれば W レジスタに、d=1 であればレジスタ "f" にライトします。

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read register 'f' | Process data | Write to destination |

Example

```
ADDWF   FSR, 0
```

命令実行前
W = 0x17
FSR = 0xC2
命令実行後
W = 0xD9
FSR = 0xC2

**ANDWF** **AND W with f**

Syntax: [*label*] ANDWF f,d

Operands: 0 ≤ f ≤ 127
d ∈ [0,1]

Operation: (W) .AND. (f) → (destination)

Status Affected: Z

Encoding:

| 00 | 0101 | dfff | ffff |
|---|---|---|---|

Description: W レジスタとレジスタ "f" の AND を行います。この結果を d=0 であれば W レジスタに、d=1 であればレジスタ "f" にライトします。

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read register 'f' | Process data | Write to destination |

Example

```
ANDWF   FSR, 1
```

命令実行前
W = 0x17
FSR = 0xC2
命令実行後
W = 0x17
FSR = 0x02

© 1998 Microchip Technology Inc.


この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**BCF** **Bit Clear f**

Syntax: [*label*] BCF f,b

Operands: 0 ≤ f ≤ 127
0 ≤ b ≤ 7

Operation: 0 → (f<b>)

Status Affected: None

Encoding:

| 01 | 00bb | bfff | ffff |
|---|---|---|---|

Description: **レジスタ "f" のビット "b" をクリアします。**

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read register 'f' | Process data | Write register 'f' |

Example

```
BCF     FLAG_REG, 7
```

**命令実行前**
FLAG_REG = 0xC7
**命令実行後**
FLAG_REG = 0x47

**BSF** **Bit Set f**

Syntax: [*label*] BSF f,b

Operands: 0 ≤ f ≤ 127
0 ≤ b ≤ 7

Operation: 1 → (f<b>)

Status Affected: None

Encoding:

| 01 | 01bb | bfff | ffff |
|---|---|---|---|

Description: **レジスタ "f" のビット "b" が**セットし**ます。**

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read register 'f' | Process data | Write register 'f' |

Example

```
BSF     FLAG_REG,   7
```

**命令実行前**
FLAG_REG = 0x0A
**命令実行後**
FLAG_REG = 0x8A

**BTFSC** **Bit Test, Skip if Clear**

Syntax: [*label*] BTFSC f,b

Operands: 0 ≤ f ≤ 127
0 ≤ b ≤ 7

Operation: skip if (f<b>) = 0

Status Affected: None

Encoding:

| 01 | 10bb | bfff | ffff |
|---|---|---|---|

Description: **レジスタ "f" のビット "b" が 1 の場合、次の命令を実行します。**
**ビット "b" が 0 の場合は、次の命令を破棄して、かわりに NOP を実行します。**
**2 サイクル命令になります。**

Words: 1

Cycles: 1(2)

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read register 'f' | Process data | No-Operation |

If Skip: (2nd Cycle)

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| No-Operation | No-Operation | No-Operation | No-Operation |

Example

```
HERE    BTFSC   FLAG,1
FALSE   GOTO    PROCESS_CODE
TRUE    •
        •
        •
```

**命令実行前**
PC = address HERE
**命令実行後**
if FLAG<1> = 0,
PC = address TRUE
if FLAG<1>=1,
PC = address FALSE


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**BTFSS** **Bit Test f, Skip if Set**

Syntax: [*label*] BTFSS f,b

Operands: 0 ≤ f ≤ 127
0 ≤ b < 7

Operation: skip if (f<b>) = 1

Status Affected: None

Encoding:

| 01 | 11bb | bfff | ffff |
|---|---|---|---|

Description: **W レジスタ "f" のビット "b" が 0 の場合、次の命令を実行します。"b" が 1 の場合は、次の命令を破棄して、かわりに NOP を実行します。2 サイクル命令になります。**

Words: 1

Cycles: 1(2)

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read register 'f' | Process data | No-Operation |

If Skip: (2nd Cycle)

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| No-Operation | No-Operation | No-Operation | No-Operation |

Example

```
HERE    BTFSC   FLAG,1
FALSE   GOTO    PROCESS_CODE
TRUE    •
        •
        •
```

**命令実行前**
PC = address HERE
**命令実行後**
if FLAG<1> = 0,
PC = address FALSE
if FLAG<1> = 1,
PC = address TRUE

**CALL** **Call Subroutine**

Syntax: [ *label* ] CALL k

Operands: 0 ≤ k ≤ 2047

Operation: (PC)+ 1→ TOS,
k → PC<10:0>,
(PCLATH<4:3>) → PC<12:11>

Status Affected: None

Encoding:

| 10 | 0kkk | kkkk | kkkk |
|---|---|---|---|

Description: **サブルーチンをコールします。まず、リターンアドレス (PC+1) をスタックにプッシュして、11 ビットのリテラルアドレスを PC のビット <10:0> にロードします。PC の上位ビットは PCLATH からロードします。CALL は 2 サイクルの命令です。**

Words: 1

Cycles: 2

Q Cycle Activity:

| | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|---|
| 1st Cycle | Decode | Read literal 'k', Push PC to Stack | Process data | Write to PC |
| 2nd Cycle | No-Operation | No-Operation | No-Operation | No-Operation |

Example

```
HERE    CALL    THERE
```

**命令実行前**
PC = Address HERE
**命令実行後**
PC = Address THERE
TOS = Address HERE+1



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**CLRF** **Clear f**

Syntax: [*label*] CLRF f

Operands: 0 ≤ f ≤ 127

Operation: 00h → (f)
1 → Z

Status Affected: Z

Encoding:

| 00 | 0001 | 1fff | ffff |
|---|---|---|---|

Description: **レジスタ "f" の内容をクリアして、Z ビットをセットします。**

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read register 'f' | Process data | Write register 'f' |

Example

```
CLRF    FLAG_REG
```

**命令実行前**
FLAG_REG = 0x5A
**命令実行後**
FLAG_REG = 0x00
Z = 1

**CLRW** **Clear W**

Syntax: [ *label* ] CLRW

Operands: None

Operation: 00h → (W)
1 → Z

Status Affected: Z

Encoding:

| 00 | 0001 | 0xxx | xxxx |
|---|---|---|---|

Description: **W レジスタをクリアして、Z ビットをセットします。**

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | No-Operation | Process data | Write to W |

Example

```
CLRW
```

**命令実行前**
W = 0x5A
**命令実行後**
W = 0x00
Z = 1

**CLRWDT** **Clear Watchdog Timer**

Syntax: [ *label* ] CLRWDT

Operands: None

Operation: 00h → WDT
0 → WDT prescaler,
1 → $\overline{TO}$
1 → $\overline{PD}$

Status Affected: $\overline{TO}$, $\overline{PD}$

Encoding:

| 00 | 0000 | 0110 | 0100 |
|---|---|---|---|

Description: **CLRWDT 命令は WDT をリセットします。また、WDT のプリスケーラもリセットします。ステータス ビット TO および PD をセットします。**

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | No-Operation | Process data | Clear WDT Counter |

Example

```
CLRWDT
```

**命令実行前**
WDT counter = ?
**命令実行後**
WDT counter = 0x00
WDT prescaler = 0
$\overline{TO}$ = 1
$\overline{PD}$ = 1


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**COMF** **Complement f**

Syntax: [ *label* ] COMF f,d

Operands: 0 ≤ f ≤ 127
d ∈ [0,1]

Operation: ($\bar{f}$) → (destination)

Status Affected: Z

Encoding:

| 00 | 1001 | dfff | ffff |
|---|---|---|---|

Description: **レジスタ "f" の内容の補数をとります。この結果を d=0 であれば W レジスタに、d=1 であればレジスタ "f" にライトします。**

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read register 'f' | Process data | Write to destination |

Example

```
COMF    REG1,0
```

**命令実行前**
REG1 = 0x13
**命令実行後**
REG1 = 0x13
W = 0xEC

**DECF** **Decrement f**

Syntax: [*label*] DECF f,d

Operands: 0 ≤ f ≤ 127
d ∈ [0,1]

Operation: (f) - 1 → (destination)

Status Affected: Z

Encoding:

| 00 | 0011 | dfff | ffff |
|---|---|---|---|

Description: **レジスタ "f" をデクリメントします。この結果を d=0 であれば W レジスタに、d=1 であればレジスタ "f" にライトします。**

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read register 'f' | Process data | Write to destination |

Example

```
DECF    CNT, 1
```

**命令実行前**
CNT = 0x01
Z = 0
**命令実行後**
CNT = 0x00
Z = 1

**DECFSZ** **Decrement f, Skip if 0**

Syntax: [ *label* ] DECFSZ f,d

Operands: 0 ≤ f ≤ 127
d ∈ [0,1]

Operation: (f) - 1 → (destination); skip if result = 0

Status Affected: None

Encoding:

| 00 | 1011 | dfff | ffff |
|---|---|---|---|

Description: **レジスタ "f" をデクリメントします。この結果を d=0 であれば W レジスタに、d=1 であればレジスタ "f" にライトします。結果が 1 の場合は、次の命令を実行します。結果が 0 の場合は、次の命令を破棄、かわりに NOP を実行して、2 サイクル命令になります。**

Words: 1

Cycles: 1(2)

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read register 'f' | Process data | Write to destination |

If Skip: (2nd Cycle)

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| No-Operation | No-Operation | No-Operation | No-Operation |

Example

```
HERE    DECFSZ  CNT, 1
        GOTO    LOOP
CONTINUE •
         •
         •
```

**命令実行前**
PC = address HERE
**命令実行後**
CNT = CNT - 1
if CNT = 0,
PC = address CONTINUE
if CNT ≠ 0,
PC = address HERE+1



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**GOTO** **Unconditional Branch**

Syntax: [ *label* ] GOTO k

Operands: 0 ≤ k ≤ 2047

Operation: k → PC<10:0>
PCLATH<4:3> → PC<12:11>

Status Affected: None

Encoding:

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10 | 1kkk | kkkk | kkkk |

Description: GOTO は無条件の分岐命令です。11 ビットのリテラルアドレスを PC のビット <10:0> にロードします。PC の上位ビットへは PCLATH <4:3> をロードします。GOTO は 2 サイクルの命令です。

Words: 1

Cycles: 2

Q Cycle Activity:

| | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|---|
| 1st Cycle | Decode | Read literal 'k' | Process data | Write to PC |
| 2nd Cycle | No-Operation | No-Operation | No-Operation | No-Operation |

Example GOTO THERE

**命令実行後**

PC = Address THERE

**INCF** **Increment f**

Syntax: [ *label* ] INCF f,d

Operands: 0 ≤ f ≤ 127
d ∈ [0,1]

Operation: (f) + 1 → (destination)

Status Affected: Z

Encoding:

| | | | |
|---|---|---|---|
| 00 | 1010 | dfff | ffff |

Description: レジスタ "f" の内容をインクリメントします。この結果を、d=0 であれば W レジスタに、d=1 であればレジスタ "f" にライトします。

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read register 'f' | Process data | Write to destination |

Example INCF CNT, 1

**命令実行前**

CNT = 0xFF
Z = 0

**命令実行後**

CNT = 0x00
Z = 1


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**INCFSZ** **Increment f, Skip if 0**

Syntax: [ *label* ] INCFSZ f,d

Operands: 0 ≤ f ≤ 127
d ∈ [0,1]

Operation: (f) + 1 → (destination),
skip if result = 0

Status Affected: None

Encoding:

| | | | |
|---|---|---|---|
| 00 | 1111 | dfff | ffff |

Description: **レジスタ "f" の内容をインクリメントします。この結果を、d=0 であれば W レジスタに、d=1 であればレジスタ "f" にライトします。結果が 1 の場合は、次の命令を実行します。結果が 0 の場合は、次の命令を破棄、かわりに NOP を実行して、2 サイクル命令になります。**

Words: 1

Cycles: 1(2)

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read register 'f' | Process data | Write to destination |

If Skip: (2nd Cycle)

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| No-Operation | No-Operation | No-Operation | No-Operation |

Example

```
HERE     INCFSZ     CNT, 1
         GOTO       LOOP
CONTINUE •
         •
         •
```

**命令実行前**
PC = address HERE
**命令実行後**
CNT = CNT + 1
if CNT= 0,
PC = address CONTINUE
if CNT≠ 0,
PC = address HERE +1

**IORLW** **Inclusive OR Literal with W**

Syntax: [ *label* ] IORLW k

Operands: 0 ≤ k ≤ 255

Operation: (W) .OR. k → (W)

Status Affected: Z

Encoding:

| | | | |
|---|---|---|---|
| 11 | 1000 | kkkk | kkkk |

Description: **W レジスタの内容と 8 ビットのリテラル 'k' の OR を行います。この結果を W レジスタにライトします。**

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read literal 'k' | Process data | Write to W |

Example

```
IORLW   0x35
```

**命令実行前**
W = 0x9A
**命令実行後**
W = 0xBF
Z = 1



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**IORWF** **Inclusive OR W with f**

Syntax: [ *label* ] IORWF f,d

Operands: $0 \le f \le 127$
$d \in [0,1]$

Operation: (W) .OR. (f) → (destination)

Status Affected: $\overline{Z}$

Encoding:

| 00 | 0100 | dfff | ffff |
|---|---|---|---|

Description: **W レジスタとレジスタ "f" の OR を行います。この結果を、d=0 であれば W レジスタに、d=1 であればレジスタ "f" にライトします。**

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read register 'f' | Process data | Write to destination |

Example
```
IORWF          RESULT, 0
```
**命令実行前**
RESULT = 0x13
W = 0x91
**命令実行後**
RESULT = 0x13
W = 0x93
Z = 1

**MOVF** **Move f**

Syntax: [ *label* ] MOVF f,d

Operands: $0 \le f \le 127$
$d \in [0,1]$

Operation: (f) → (destination)

Status Affected: Z

Encoding:

| 00 | 1000 | dfff | ffff |
|---|---|---|---|

Description: **レジスタ "f" の内容を結果格納先 "d" に移動します。d=0 であれば結果格納先は W レジスタです。d=1 であれば結果格納先は同じファイルレジスタ "f" です。d=1 は、ステータスフラグ Z が影響するので、ファイル レジスタのテストに便利です。**

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read register 'f' | Process data | Write to destination |

Example
```
MOVF     FSR, 0
```
**命令実行後**
W = value in FSR register
Z = 1

**MOVLW** **Move Literal to W**

Syntax: [ *label* ] MOVLW k

Operands: $0 \le k \le 255$

Operation: k → (W)

Status Affected: None

Encoding:

| 11 | 00xx | kkkk | kkkk |
|---|---|---|---|

Description: **8 ビットのリテラル 'k' を W レジスタにロードします。"xx" は "00" とアセンブルされます。**

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read literal 'k' | Process data | Write to W |

Example
```
MOVLW    0x5A
```
**命令実行後**
W = 0x5A

**MOVWF** **Move W to f**

Syntax: [ *label* ] MOVWF f

Operands: $0 \le f \le 127$

Operation: (W) → (f)

Status Affected: None

Encoding:

| 00 | 0000 | 1fff | ffff |
|---|---|---|---|

Description: **W レジスタからレジスタ "f" にデータを移動します。**

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read register 'f' | Process data | Write register 'f' |

Example
```
MOVWF    OPTION_REG
```
**命令実行前**
OPTION = 0xFF
W = 0x4F
**命令実行後**
OPTION = 0x4F
W = 0x4F


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**NOP** **No Operation**

Syntax: [ *label* ] NOP

Operands: None

Operation: No operation

Status Affected: None

Encoding:

| | | | |
|---|---|---|---|
| 00 | 0000 | 0xx0 | 0000 |

Description: **何も行いません。**

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | No-Operation | No-Operation | No-Operation |

Example

```
NOP
```

**OPTION** **Load Option Register**

Syntax: [ *label* ] OPTION

Operands: None

Operation: (W) → OPTION

Status Affected: None

Encoding:

| | | | |
|---|---|---|---|
| 00 | 0000 | 0110 | 0010 |

Description: **W レジスタの内容を OPTION レジスタにロードします。これは、PIC16C5X 製品との互換性を保つための命令です。OPTION レジスタ はリード、ライト可能なので直接アドレス指定できます。**

Words: 1

Cycles: 1

Example

**将来の PIC16CXX 製品との上位互換性を維持するため、この命令は使用しないでください。**

**RETFIE** **Return from Interrupt**

Syntax: [ *label* ] RETFIE

Operands: None

Operation: TOS → PC,
1 → GIE

Status Affected: None

Encoding:

| | | | |
|---|---|---|---|
| 00 | 0000 | 0000 | 1001 |

Description: **割り込みからの復帰。スタックをポップして、スタックの最上位（TOS）を PC にロードします。GIE（グローバル割り込みイネーブル）ビットをセットして割り込みをイネーブルにします (INTCON<7>)。 2 サイクル命令です。**

Words: 1

Cycles: 2

Q Cycle Activity:

| | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|---|
| 1st Cycle | Decode | No-Operation | Set the GIE bit | Pop from the Stack |
| 2nd Cycle | No-Operation | No-Operation | No-Operation | No-Operation |

Example

```
RETFIE
```

**命令実行後**

PC = TOS
GIE = 1



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**RETLW** **Return with Literal in W**

Syntax: [ *label* ] RETLW k

Operands: 0 ≤ k ≤ 255

Operation: k → (W);
TOS → PC

Status Affected: None

Encoding:

| | | | |
|---|---|---|---|
| 11 | 01xx | kkkk | kkkk |

Description: **8 ビットのリテラル 'k' を W レジスタにロードして、スタックの最上位（リターンアドレス）をプログラムカウンタへロードします。 2 サイクル命令です。**

Words: 1

Cycles: 2

Q Cycle Activity:

| | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|---|
| 1st Cycle | Decode | Read literal 'k' | No-Operation | Write to W, Pop from the Stack |
| 2nd Cycle | No-Operation | No-Operation | No-Operation | No-Operation |

Example

```
CALL TABLE  ;W contains table
            ;offset value
•            ;W now has table value
•
•
TABLE
ADDWF PC   ;W = offset
RETLW k1   ;Begin table
RETLW k2   ;
•
•
•
RETLW kn   ; End of table
```

**命令実行前**
W = 0x07
**命令実行後**
W = value of k8

**RETURN** **Return from Subroutine**

Syntax: [ *label* ] RETURN

Operands: None

Operation: TOS → PC

Status Affected: None

Encoding:

| | | | |
|---|---|---|---|
| 00 | 0000 | 0000 | 1000 |

Description: **サブルーチンからの復帰。スタックをポップして、次にスタックの最上位 (TOS) をプログラムカウンタにロードします。 2 サイクルの命令です。**

Words: 1

Cycles: 2

Q Cycle Activity:

| | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|---|
| 1st Cycle | Decode | No-Operation | No-Operation | Pop from the Stack |
| 2nd Cycle | No-Operation | No-Operation | No-Operation | No-Operation |

Example

```
RETURN
```

**命令実行後**
PC = TOS


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**RLF** **Rotate Left f through Carry**

Syntax: [ *label* ] RLF f,d

Operands: $0 \le f \le 127$
$d \in [0,1]$

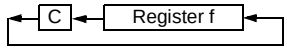
Operation: See description below

Status Affected: C

Encoding:

| 00 | 1101 | dfff | ffff |
|---|---|---|---|

Description: **レジスタ "f" の内容をキャリーフラグを通して 1 ビット左に回転します。この結果を、d=0 であれば W レジスタに、d=1 であればレジスタ "f" にライトします。**




Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read register 'f' | Process data | Write to destination |

Example

```
RLF     REG1,0
```

**命令実行前**

```
REG1  =  1110 0110
C     =  0
```

**命令実行後**

```
REG1  =  1110 0110
W     =  1100 1100
C     =  1
```

**RRF** **Rotate Right f through Carry**

Syntax: [ *label* ] RRF f,d

Operands: $0 \le f \le 127$
$d \in [0,1]$

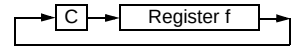
Operation: See description below

Status Affected: C

Encoding:

| 00 | 1100 | dfff | ffff |
|---|---|---|---|

Description: **レジスタ "f" の内容をキャリーフラグを通して 1 ビット右に回転します。この結果を、d=0 であれば W レジスタに、d=1 であればレジスタ "f" にライトします。**




Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read register 'f' | Process data | Write to destination |

Example

```
RRF     REG1,0
```

**命令実行前**

```
REG1  =  1110 0110
C     =  0
```

**命令実行後**

```
REG1  =  1110 0110
W     =  0111 0011
C     =  0
```

© 1998 Microchip Technology Inc.


この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**SLEEP**

Syntax: [ *label* ] SLEEP

Operands: None

Operation: 00h → WDT,
0 → WDT prescaler,
1 → $\overline{TO}$,
0 → $\overline{PD}$

Status Affected: $\overline{TO}$, $\overline{PD}$

| Encoding: | 00 | 0000 | 0110 | 0011 |
|---|---|---|---|---|

Description: **パワーダウンステータスビット ($\overline{PD}$) をクリア、タイムアウトステータスビット ($\overline{TO}$) をセット、ウォッチドッグタイマとそのプリスケーラをクリアします。
プロセッサは SLEEP モードに入ります。オシレータは停止します。詳細は、14.8 項を参照。**

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | No-Operation | No-Operation | Go to Sleep |

Example: SLEEP

**SUBLW Subtract W from Literal**

Syntax: [ *label* ] SUBLW k

Operands: 0 ≤ k ≤ 255

Operation: k - (W) → (W)

Status Affected: C, DC, Z

| Encoding: | 11 | 110x | kkkk | kkkk |
|---|---|---|---|---|

Description: **8 ビットのリテラル "k" から W レジスタの内容を引きます (2 の補数法 )。この結果を W レジスタにライトします。**

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read literal 'k' | Process data | Write to W |

Example 1: SUBLW 0x02

**命令実行前**

W = 1
C = ?
Z = ?

**命令実行後**

W = 1
C = 1; result is positive
Z = 0

Example 2: **命令実行前**

W = 2
C = ?
Z = ?

**命令実行後**

W = 0
C = 1; result is zero
Z = 1

Example 3: **命令実行前**

W = 3
C = ?
Z = ?

**命令実行後**

W = 0xFF
C = 0; result is negative
Z = 0


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

**SUBWF** **Subtract W from f**

Syntax: [ *label* ] SUBWF f,d

Operands: 0 ≤ f ≤ 127
d ∈ [0,1]

Operation: (f) - (W) → (destination)

Status Affected: C, DC, Z

Encoding:

| 00 | 0010 | dfff | ffff |
|---|---|---|---|

Description: **レジスタ "f" から W レジスタの内容を引きます (2 の補数法 )。この結果を、d=0 であれば W レジスタに、d=1 であればレジスタ "f" にライトします。**

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read register 'f' | Process data | Write to destination |

Example 1:

```
SUBWF          REG1,1
```

**命令実行前**

```
REG1    =   3
W       =   2
C       =   ?
Z       =   ?
```

**命令実行後**

```
REG1    =   1
W       =   2
C       =   1; result is positive
Z       =   0
```

Example 2: **命令実行前**

```
REG1    =   2
W       =   2
C       =   ?
Z       =   ?
```

**命令実行後**

```
REG1    =   0
W       =   2
C       =   1; result is zero
Z       =   1
```

Example 3: **命令実行前**

```
REG1    =   1
W       =   2
C       =   ?
Z       =   ?
```

**命令実行後**

```
REG1    =   0xFF
W       =   2
C       =   0; result is negative
Z       =   0
```

**SWAPF** **Swap Nibbles in f**

Syntax: [ *label* ] SWAPF f,d

Operands: 0 ≤ f ≤ 127
d ∈ [0,1]

Operation: (f<3:0>) → (destination<7:4>),
(f<7:4>) → (destination<3:0>)

Status Affected: None

Encoding:

| 00 | 1110 | dfff | ffff |
|---|---|---|---|

Description: **レジスタ "f" の上位ニブルと下位ニブルを入れ替えます。この結果を、d=0 であれば W レジスタに、d=1 であればレジスタ "f" にライトします。**

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read register 'f' | Process data | Write to destination |

Example

```
SWAPF  REG,    0
```

**命令実行前**

```
REG1    =   0xA5
```

**命令実行後**

```
REG1    =   0xA5
W       =   0x5A
```

**TRIS** **Load TRIS Register**

Syntax: [*label*] TRIS f

Operands: 5 ≤ f ≤ 7

Operation: (W) → TRIS register f;

Status Affected: None

Encoding:

| 00 | 0000 | 0110 | 0fff |
|---|---|---|---|

Description: **これは、PIC16C5X 製品とのコード互換性を保つための命令です。TRIS レジスタはリード、ライト可能なので直接アドレス指定できます。**

Words: 1

Cycles: 1

Example

**将来の PIC16CXX 製品との上位互換性を維持するために、この命令は使用しないでください。**



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

**XORLW** **Exclusive OR Literal with W**

Syntax: [*label*] XORLW k

Operands: 0 ≤ k ≤ 255

Operation: (W) .XOR. k → (W)

Status Affected: Z

Encoding:

| | | | |
|---|---|---|---|
| 11 | 1010 | kkkk | kkkk |

Description: **W レジスタの内容と 8 ビットのリテラル "k" との XOR をとり、その結果を W レジスタにライトします。**

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read literal 'k' | Process data | Write to W |

Example: XORLW 0xAF

**命令実行前**

W = 0xB5

**命令実行後**

W = 0x1A

**XORWF** **Exclusive OR W with f**

Syntax: [*label*] XORWF f,d

Operands: 0 ≤ f ≤ 127
d ∈ [0,1]

Operation: (W) .XOR. (f) → (destination)

Status Affected: Z

Encoding:

| | | | |
|---|---|---|---|
| 00 | 0110 | dfff | ffff |

Description: **W レジスタの内容とレジスタ "f" との XOR をとります。この結果を、d=0 であれば W レジスタに、d=1 であればレジスタ "f" にライトします。**

Words: 1

Cycles: 1

Q Cycle Activity:

| Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
|---|---|---|---|
| Decode | Read register 'f' | Process data | Write to destination |

Example XORWF REG 1

**命令実行前**

REG = 0xAF
W = 0xB5

**命令実行後**

REG = 0x1A
W = 0xB5


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

# 10.0 開発サポート

## 10.1 開発ツール

PICmicro™ マイクロコントローラは、以下のハードウェアおよびソフトウェアの開発ツールによりサポートされています。

- PICMASTERR/PICMASTER CE リアルタイムインサーキットエミュレータ
- ICEPIC™ PIC16C5X・PIC16CXXX 用低価格インサーキットエミュレータ
- PRO MATE_ IIユニバーサルプログラマ
- PICSTART_ Plus入門者向けプロトタイププログラマ
- PICDEM-1低価格デモンストレーションボード
- PICDEM-2低価格デモンストレーションボード
- PICDEM-3低価格デモンストレーションボード
- MPASM アセンブラ
- MPLAB™ SIMソフトウェアシミュレータ
- MPLAB-C17(C コンパイラ)
- ファジーロジック開発システム(*fuzzy*TECH_-MP)

## 10.2 PICMASTER： MPLAB IDE と高性能ユニバーサルインサーキットエミュレータ*

PICMASTER ユニバーサルインサーキットエミュレータは、PIC14C000、PIC12CXXX、PIC16C5X、PIC16CXXX および PIC17CXX ファミリーのマイクロコントローラをサポートします。PICMASTER は MPLAB™ 統合開発環境(lDE) 上でサポートされるので、編集、アセンブル／コンパイルとダウンロード、ソースデバッグが同一環境上で可能となります。

ターゲットプローブが交換可能なので、エミュレーションするプロセッサが変更となったときでもシステムを簡単に再構成することができます。PICMASTER のユニバーサルなアーキテクチャにより、すべての Microchip 社のマイクロコントローラの新製品をサポートすることができるようにつくられています。

PICMASTER エミュレータシステムは、一般的にはもっと高価な開発ツールに装備される最新の機能を備えたリアルタイムのエミュレーションシステムです。PC と互換性のある 386 (以上の) DOS/V マシンプラットフォームおよび Microsoft 社の Windows 3.1/95 で動作します。

PICMASTER には CE 準拠バージョンがあり、EU 諸国でも使用できます。

* PICMASTER にかわる新しい PICmicro 用エミュレータ MPLAB-ICE がリリースされます。

## 10.3 ICEPIC： 低価格 PICmicro™ - インサーキットエミュレータ*

ICEPIC は PIC12CXXX、PIC16C5X および PIC16CXXX ファミリーの 8 ビット OTP マイクロコントローラ用の低価格インサーキットエミュレータです。

ICEPIC は、286-AT_ マシンから Pentium™ 搭載のマシンまで Windows 3.x 環境の PC に互換性のあるマシンで操作できるよう設計されています。

* ICEPIC にかわる新しい PICmicro 用エミュレータ MPLAB-ICE がリリースされます。

## 10.4 PRO MATE II： ユニバーサルプログラマ

PRO MATE II ユニバーサルプログラマは、PC ホストモードと、スタンドアロンモードで動作するプログラムライターです。

PRO MATE II は CE に準拠しています。PRO MATE II にはプログラム可能な $V_{DD}$ と $V_{PP}$ の電源があり、信頼性を最大にするために、$V_{DD}$ min と $V_{DD}$ max で、プログラムされたメモリをベリファイすることができます。また、エラーメッセージを表示する LCD ディスプレイ、コマンドを入力するキーが装備され、いろいろなパッケージタイプをサポートためにソケットモジュールが交換可能になっています。スタンドアロンモードでは、PRO MATE II は、PIC12CXXX、PIC14C000、PIC16C5X、PIC16CXXX および PIC17CXX デバイスをリード、ベリファイ、プログラムすることができます。さらに、このモードでコードプロテクトのビットを設定できます。

## 10.5 PICSTART Plus 入門者向け開発システム

PICSTART プログラマは使いやすく低価格のプロトタイププログラムライターで、COM (RS-232) ポート経由で PC に接続します。MPLAB 統合開発環境ソフトウェアにより、簡単かつ効率的に使用できます。PICSTART Plus は量産時のプログラム書き込みには推奨していません。

PICSTART Plus は 40 ピン以下の PIC12CXXX、PIC14C000、PIC16C5X、PIC16CXXX、および PIC17CXX のすべてのデバイスをサポートします(DIPパッケージのみ)。PIC16C923、PIC16C924 および PIC17C756 などのピン数の多いデバイスには、アダプタソケットで対応ができます (LCC パッケージのみ)。PICSTART Plus は CE に準拠しています。

© 1998 Microchip Technology Inc.


この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

### 10.6 PICDEM-1 低価格 PICmicro デモンストレーションボード

PICDEM-1 は、Microchip 社のマイクロコントローラのいくつかの機能をデモする簡単なボードです。サポートしているマイクロコントローラは、PIC16C5X (PIC16C54、PIC16C58A)、PIC16C61、PIC16C62X、PIC16C71、PIC16C8X、PIC17C42、PIC17C43 および PIC17C44 です。基本デモプログラムを動かすために必要なハードウェアとソフトウェアが付属しています。PRO MATE II または PICSTART Plus プログラマを使用して、PICDEM-1 付属のサンプルマイクロコントローラをプログラムすることができ、簡単にファームウェアをテストできます。また、PICDEM-1 ボードを PICMASTER エミュレータに接続して、ファームウェアをダウンロードをしてテストすることもできます。さらに、プロトタイプエリアがあるので、いくつかハードウェアを追加したり、マイクロコントローラソケットに接続することができます。 RS-232 インターフェース、アナログ入力をテストするためのポテンショメータ、プッシュボタンスイッチ、PORTB に接続された 8 個の LED などが実装されています。

### 10.7 PICDEM-2 低価格 PIC16CXX デモンストレーションボード

PICDEM-2 は、PIC16C62、PIC16C64、PIC16C65、PIC16C73 および PIC16C74 のマイクロコントローラに対応する簡単なデモンストレーションボードです。基本的なデモンストレーションプログラムを動かすために必要なハードウェアとソフトウェアが付属しています。PRO MATE II プログラマまたは PICSTART-Plus を使用して PICDEM-2 付属のサンプルマイクロコントローラをプログラムすることができ、簡単にファームウェアをテストできます。また、PICMASTER エミュレータを PICDEM-2 ボードに接続してファームウェアをテストすることができます。さらに、プロトタイプエリアがあるので、ハードウェアを追加して、マイクロコントローラソケットに接続することができます。RS-232 インターフェース、プッシュボタンスイッチ、アナログ入力をテストするためのポテンショメータ、12C バスをテストするためのシリアル EEPROM、LCD モジュールとキーパッドを別々に接続するためのヘッダが実装されています。

### 10.8 PICDEM-3 低価格 PIC16CXXX デモンストレーションボード

PICDEM-3 は、PLCC パッケージの PIC16C923 と PIC16C924 に対応する簡単なデモボードです。また、将来の LCD モジュール付き 44 ピン PLCC パッケージのマイクロコントローラにも対応する予定です。基本的なデモンストレーションプログラムを動かすために必要なハードウェアとソフトウェアは付属しています。PRO MATE II プログラマまたはアダプタソケットと PICSTART Plus を使用して、PICDEM-3 付属のサンプルマイクロコントローラをプログラムすることができ、簡単にファームウェアをテストすることができます。また、PICMASTER エミュレータを PICDEM-3 ボードと接続してファームウェアをテストすることができます。さらに、プロトタイプエリアがあるので、ハードウェアを追加して、マイクロコントローラソケットに接続することができます。RS-232 インターフェース、プッシュボタンスイッチ、アナログ入力をテストするためのポテンショメータ、サーミスタ、外部 LCD モジュールとキーパッドを分けて接続するためのヘッダが実装されています。また、PICDEM-3 ボード上には 4 コモン、12 セグメントの LCD パネルが備えられ、時間や温度や曜日を表示することができます。PICDEM-3 には追加の RS-232 インターフェースと、Windows 3.1 のソフトウェアがあり、PC でデマルチプレクスされた LCD 信号を見ることができます。簡単なシリアルインターフェースにより、 LCD 信号のハードウエアでのデマルチプレクスを実行させることができます。

### 10.9 MPLAB™ 統合開発環境ソフトウェア

MPLAB IDE ソフトウェアは、8 ビットマイクロコントローラ市場では今まで見られなかった使いやすい開発ソフトウェアです。MPLAB は、下記を含む Windows のアプリケーションです。

- フル機能エディタ
- 3 つの動作モード
  - エディタ
  - エミュレータ
  - シミュレータ
- プロジェクトマネージャ
- カスタマイズ可能なツールバーおよびキーマッピング
- プロジェクト情報を表示するステータスバー
- オンラインヘルプ

MPLAB は次のようなことができます。

- ソースファイルの編集 ( アセンブラまたは 'C')
- ワンタッチのアセンブル ( またはコンパイル ) および PICmicro ツールへのダウンロード ( 全プロジェクト情報を自動的に更新する )
- デバッグの使用
  - ソースファイル
  - リスティングファイル
- DDE によりダイナミックにデータを転送 ( 今後、OLE に置換予定 )
- 同一 PC 上で、4 ユニットまでのエミュレータが動作

Microchip のシミュレータが MPLAB で使用できるので、同じプラットフォーム上で、かつ、同様の操作方法で、低コストのシミュレータからフル機能を備えたエミュレータに簡単に移行することができます。

### 10.10 アセンブラ (MPASM)

MPASM ユニバーサルマクロアセンブラは、PC ホストのシンボリックアセンブラです。これは、PIC12C5XX、PIC14000、PIC16C5X、PIC16CXXX および PIC17CXX ファミリーを含むすべてのマイクロコントローラシリーズをサポートしています。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

MPASM は、フル機能を備えたマクロ機能、条件付きアセンブリ、いくつかのソースとリストのフォーマットを提供します。サードパーティプログラムをサポートするために、いろいろなオブジェクトコードフォーマットを生成します。

MPASM によって、Microchip ユニバーサルエミュレータシステム (PICMASTER) による完全なシンボリックデバッグが可能です。

MPASM は、アプリケーション用ソフトウェア開発を支援するために、次のような機能を有しています。

- アセンブラのソースコードをすべての PICmicro のマイクロコントローラのオブジェクトコードへ変換する。
- マクロアセンブリ可能。
- Microchip エミュレータシステムのシンボリックデバッグに必要なすべてのファイル ( オブジェクト、リスティング、シンボル、特殊 ) を生成する。
- 16 進 ( デフォルト )、10 進、8 進のソースとリストフォーマットをサポートする。

MPASM には PICmicro のプログラミングをサポートする高級な疑似命令言語があります。疑似命令により、アセンブルソースコードの開発がより短時間になり、より保持しやすくなります。

### 10.11 ソフトウェアシミュレータ (MPLAB SIM)

MPLAB-SIM ソフトウェアシミュレータにより、PC ホスト環境でのコード開発が可能になります。PICmicro シリーズのマイクロコントローラを命令レベルでシミュレートできます。どの与えられた命令でも、データ領域のリードや変更、またそのピンのどれにも疑似外部入力ができます。実行はシングルステップ、ブレーク、トレースモードなどで行えます。

MPLAB-SIM は、MPASM を使用してシンボリックデバッギングを完全にサポートします。ソフトウェアシミュレータにより、実験室でしかできなかったようなコードの開発とデバッグを低価格かつ柔軟に実行できる、優れたマルチプロジェクトの開発ツールです。

### 10.12 C コンパイラ (MPLAB-17)

MPLAB-C コード開発システムは完全な 'C' コンパイラであり、Microchip 社の PIC17CXXX ファミリーのマイクロコントローラのための統合開発環境を提供しています。そのコンパイラは強力な統合能力と他のコンパイラでは見られない簡単な使用を提供しています。

ソースレベルデバッギングをより容易にするために、そのコンパイラは MPLAB IDE メモリ表示と互換性があるシンボル情報を提供します。

### 10.13 ファジィロジック開発システム (*fuzzy*TECH-MP)

*fuzzy*TECH-MP ファジィロジック開発ツールは、2 つのバージョンを利用できます。1 つは低価格入門版、MP Explorer で、ファジィロジックシステムデザインの広範囲な作業知識を得るためのデザイナー用です。もう 1 つは完全な機能を備えたバージョン、*fuzzy*TECH-MP で、もっと複雑なシステムを実行するために作られています。

両バージョンともファジィロジックシステムを実験するため、*fuzzy*LAB™ デモボードが付属しています。

### 10.14 SEEVAL® 評価およびプログラミングシステム

SEEVAL SEEPROM デザイナーズキットは マイクロチップの 2 線および 3 線のすべてのシリアル EEPROM をサポートします。このキットには、Smart Serials™ や secure serials を含む マイクロチップの SEEPROM 製品のリード、ライト、消去、プログラムに必要なすべてが付属しています。Total Endurance™ Disk はトレードオフ分析、および演算の信頼性を補助するために付属しています。トータルキットを使用すると、製品化のための時間を大幅に削減でき、最適化システムを生み出すことができます。

### 10.15 KEELOQ® 評価およびプログラミングツール

KEELOQ 評価およびプログラミングツールは HCS セキュリティデータ製品をサポートしています。HCS 評価キットには、コードの変化を表示するための LCD ディスプレイ、送信をデコードするためのデコーダ、テストトランスミッタをプログラムするためのプログラミングインターフェースが付属しています。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

表 10-1： マイクロチップの開発ツール

| | | PIC12C5XX | PIC14000 | PIC16C5X | PIC16CXXX | PIC16C6X | PIC16C7XX | PIC16C8X | PIC16C9XX | PIC17C4X | PIC17C75X | 24CXX 25CXX 93CXX | HCS200HC S300HCS3 01 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Emulator Products | PICMASTER® / PICMASTER-CE In-Circuit Emulator | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | | |
| | ICEPIC™ Low-Cost In-Circuit Emulator | ✓ | | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | | | | |
| Software Tools | MPLAB™ Integrated Development Environment | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | | |
| | MPLAB™ C17 Compiler | | | | | | | | | ✓ | ✓ | | |
| | *fuzzy*TECH®-MP Explorer/Edition Fuzzy Logic Dev. Tool | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | | | |
| | MP-DriveWay™ Applications Code Generator | | | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | | | |
| | Total Endurance™ Software Model | | | | | | | | | | | ✓ | |
| Programmers | PICSTART®Plus Low-Cost Universal Dev. Kit | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | | |
| | PRO MATE® II Universal Programmer | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
| | KEELOQ® Programmer | | | | | | | | | | | | ✓ |
| | SEEVAL® Designers Kit | | | | | | | | | | | ✓ | |
| Demo Boards | PICDEM-1 | | | ✓ | ✓ | | | ✓ | | ✓ | | | |
| | PICDEM-2 | | | | | ✓ | ✓ | | | | | | |
| | PICDEM-3 | | | | | | | | ✓ | | | | |
| | KEELOQ® Evaluation Kit | | | | | | | | | | | | ✓ |



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.comから入手できます)

© 1998 Microchip Technology Inc.

## 11.0 電気的特性 --- PIC16F83/PIC16F84

絶対最大定格 †

バイアス下での周囲温度 .....

保存温度 .....

$V_{SS}$ に対する $V_{DD}$ の電圧 .....

$V_{SS}$ に対する MCLR ピンの電圧 .....

$V_{SS}$ に対する他のすべてのピンの電圧 .....

消費電力の合計 (1) .....

$V_{SS}$ ピンからの最大電流 .....

$V_{DD}$ ピンへの最大電流 .....

入力クランプ電流、$I_{IK}$ ($V_I < 0$ または $V_I > V_{DD}$) .....

入力クランプ電流、$I_{OK}$ ($V_O < 0$ または $V_O > V_{DD}$) .....

I/O ピンごとの最大出力シンク電流 .....

I/O ピンごとの最大出力ソース電流 .....

PORTA の最大出力シンク電流 .....

PORTA の最大出力ソース電流 .....

PORTB の最大出力シンク電流 .....

PORTB の最大出力ソース電流 .....

注意 1：消費電力は次の式で計算できます。$P_{DIS} = V_{DD} \times \{(I_{DD} - V_{OH}) \times I_{OH}\} + \Sigma (V_{OL} \times I_{OL})$

注意 2：$\overline{MCLR}$ ピンでのスパイク電圧が $V_{SS}$ 以下、電流が 80 mA 以上になると、ラッチアップが発生する原因となります。したがって、MCLR ピンを Low レベルにするときは、$V_{SS}$ に直接接続しないで、50 - 100Ω の直列抵抗を使用してください。

†注意：上記の「最大定格」を超えるストレスは、デバイスに損傷を与える恐れがあります。これは、ストレスの定格を示すためだけのもので、上記の値、または、この仕様書に記載された値を超える条件で動作することを示すものではありません。継続した期間最大定格で使用した場合、デバイスの信頼性を損なう恐れがあります。

PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**表 11-1 オシレータのコンフィグレーションおよび動作周波数のデバイス仕様クロスリファレンス（商業用デバイス）**

| オシレータ | PIC16F84-04<br>PIC16F83-04 | PIC16F84-10<br>PIC16F83-10 | PIC16LF84-04<br>PIC16LF83-04 |
|---|---|---|---|
| RC | VDD:<br>IDD:<br>IPD:<br>Freq: | VDD:<br>IDD:<br>IPD:<br>Freq: | VDD:<br>IDD:<br>IPD:<br>Freq: |
| XT | VDD:<br>IDD:<br>IPD:<br>Freq: | VDD:<br>IDD:<br>IPD:<br>Freq: | VDD:<br>IDD:<br>IPD:<br>Freq: |
| HS | VDD:<br>IDD:<br>IPD:<br>Freq: | VDD:<br>IDD:<br>IPD:<br>Freq: | |
| LP | VDD:<br>IDD:<br>IPD:<br>Freq: | | VDD:<br>IDD:<br>IPD:<br>Freq: |
| 網掛部分は機能はテストしていますが、最小 / 最大仕様のテストされません。必要な仕様が保証されているデバイスタイプを選択することを推奨します。 | | | |

PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 11.1 DC 特性： PIC16F84、PIC16F83（商業用、工業用）

| DC 特性<br>電源ピン | | | 標準動作条件（特に指定のない場合）<br>動作温度 0 ℃ ≦ $T_A$ ≦ +70 ℃（商業用）<br>-40 ℃ ≦ $T_A$ ≦ +85 ℃（工業用） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| パラメータ番号 | 記号 | 特性 | Min | Typ † | Max | 単位 | 条件 |
| D001<br>D001A | VDD | 電源電圧 | | | | | XT、RC、LP のオシレータコンフィグレーション<br>HS オシレータコンフィグレーション |
| D002 | VDR | RAM データ保持電圧 (1) | * | | | | SLEEP モードの場合 |
| D003 | VPOR | パワーオンリセットを確実にするための $V_{DD}$ のスタート電圧 | | | | | 詳細はパワーオンリセットの項をご覧ください。 |
| D004 | SVDD | パワーオンリセットを確実にするための $V_{DD}$ の立ち上がり率 | * | | | | 詳細はパワーオンリセットの項をご覧ください。 |
| D010<br>D010A<br><br>D013 | IDD | 消費電流 (2) | | | | | RC および XT オシレータコンフィグレーション (4)<br>FOSC = 4.0 MHz, VDD = 5.5V<br>FOSC = 4.0 MHz, VDD = 5.5V<br>（フラッシュプログラミング中）<br>HS オシレータコンフィグレーション (PIC16F84-10)<br>FOSC = 10 MHz, VDD = 5.5V |
| D020<br>D021<br>D021A | IPD | 待機電流 (3) | | | | | VDD = 4.0 V、WDT オン、工業用<br>VDD = 4.0 V、WDT オフ、商業用<br>VDD = 4.0 V、WDT オフ、工業用 |

* このパラメータは特性データです。テストはしていません。

† "Typ" の列のデータは、特に指定のない限り、5.0V、25 ℃でテストしています。このパラメータは設計ガイダンスのためのもので、テストはしていません。

注意 1： これは SLEEP モードで $V_{DD}$ を下げたときに RAM データを失わない最小の値です。

2： この消費電流は、主に動作電圧と周波数によって変化します。その他に I/O ピンの負荷、切り替え率、オシレータの種類、内部コード実行パターン、温度などの要素も消費電流に影響を与えます。
動作中の $I_{DD}$ のテスト条件は次のようになります。
OSC1= 外部方形波（レール・トゥ・レール）、I/O ピンは入力の設定で $V_{DD}$ にプルダウン、TOCKI = $V_{DD}$、MCLR = $V_{DD}$、WDT オン／オフは明記してある通り。

3： SLEEP モードでの待機電流はオシレータの種類には影響を受けません。待機電流は、SLEEP モードのデバイスを、I/O ピンを入力にして、$V_{DD}$ または $V_{SS}$ に接続して測定します。

4： RC オシレータのコンフィグレーションについては、Rext の電流は含みません。Rext の電流は $I_R = V_{DD}/2Rext$（mA）という式から概算することができます。（Rext の単位は kΩ）

PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 11.2 DC 特性： PIC16LF84、PIC16LF83（商業用、工業用）

| DC 特性<br>電源ピン | | | 標準動作条件（特に指定のない場合）<br>動作温度 0℃ ≦ $T_A$ ≦ +70℃（商業用）<br>-40℃ ≦ $T_A$ ≦ +85℃（工業用） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| パラメータ番号 | 記号 | 特性 | Min | Typ † | Max | 単位 | 条件 |
| D001 | VDD | 電源電圧 | | | | | XT、RC、LP のオシレータコンフィグレーション |
| D002 | VDR | RAM データ保持電圧 (1) | * | | | | SLEEP モードの場合 |
| D003 | VPOR | パワーオンリセットを確実にするための $V_{DD}$ のスタート電圧 | | | | | 詳細はパワーオンリセットの項をご覧ください。 |
| D004 | SVDD | パワーオンリセットを確実にするための $V_{DD}$ の立ち上がり率 | * | | | | 詳細はパワーオンリセットの項をご覧ください。 |
| D010<br>D010A<br><br><br>D013 | IDD | 消費電流 (2) | | | | | RC および XT オシレータコンフィグレーション (4)<br>FOSC = 2.0 MHz, VDD = 5.5V<br>FOSC = 2.0 MHz, VDD = 5.5V<br>（プラッシュプログラミング中）<br>LP オシレータコンフィグレーション<br>FOSC = 10 MHz, VDD = 5.5V、WDT オフ |
| D020<br>D021<br>D021A | IPD | 待機電流 (3) | | | | | VDD = 2.0 V、WDT オン、工業用<br>VDD = 2.0 V、WDT オフ、商業用<br>VDD = 2.0 V、WDT オフ、工業用 |

* このパラメータは特性データです。テストはしていません。

† "Typ" の列のデータは、特に指定のない限り、5.0V、25℃でテストしています。このパラメータは設計ガイダンスのためのもので、テストはしていません。

注意 1： これは SLEEP モードで $V_{DD}$ を下げたときに RAM データを失わない最小の値です。

2： この消費電流は、主に動作電圧と周波数によって変化します。その他に I/O ピンの負荷、切り替え率、オシレータの種類、内部コード実行パターン、温度などの要素も消費電流に影響を与えます。
動作中の $I_{DD}$ のテスト条件は次のようになります。
OSC1= 外部方形波（レール・トゥ・レール）、I/O ピンは入力の設定で $V_{DD}$ にプルダウン、TOCKI = $V_{DD}$、MCLR = $V_{DD}$、WDT オン／オフは明記してある通り。

3： SLEEP モードでの待機電流はオシレータの種類には影響を受けません。待機電流は、SLEEP モードのデバイスを、I/O ピンを入力にして、$V_{DD}$ または $V_{SS}$ に接続して測定します。

4： RC オシレータのコンフィグレーションについては、Rext の電流は含みません。Rext の電流は $I_R = V_{DD}/2Rext$（mA）という式から概算することができます。（Rext の単位は kΩ）

PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 11.3 DC 特性： PIC16F84、PIC16F83（商業用、工業用）、PIC16LF84、PIC16LF83（商業用、工業用）

| DC 特性<br>電源ピン以外のすべてのピン | | | 標準動作条件（特に指定のない場合）<br>動作温度 0°C ≦ $T_A$ ≦ +70°C（商業用）<br>-40°C ≦ $T_A$ ≦ +85°C（工業用）<br>動作電圧 VDD の範囲は、第 10.1 項と第 10.2 項の DC 仕様で説明されている通りです。 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| パラメータ番号 | 記号 | 特性 | Min | Typ † | Max | 単位 | 条件 |
| | | Low レベル入力電圧 | | | | | |
| | VIL | I/O ポート | | | | | |
| D030 | | TTL バッファ付き | | | | V | 4.5 V ≤ VDD ≤ 5.5V (4) |
| D030A | | | | | | | 全 $V_{DD}$ 範囲 (4) |
| D031 | | シュミットトリガバッファ付き | | | | | 全 $V_{DD}$ 範囲 |
| D032 | | $\overline{MCLR}$, RA4/T0CKI | | | | | |
| D033 | | OSC1（XT、HS、LP の各モード）(1) | | | | | |
| D034 | | OSC1（RC モード） | | | | | |
| | | High レベル入力電圧 | | | | | |
| | VIH | I/O ポート | | | | | |
| D040 | | TTL バッファ | | | | | 4.5 V ≤ VDD ≤ 5.5V (4) |
| D040A | | | | | | | 全 $V_{DD}$ 範囲 (4) |
| D041 | | シュミットトリガバッファ | | | | | 全 $V_{DD}$ 範囲 |
| D042 | | MCLR、RA4/T0CKI、OSC1（RC モード） | | | | | |
| D043 | | OSC1（XT、HS、LP の各モード）(1) | | | | | |
| D050 | VHYS | シュミットトリガ入力のヒステリシス TBD | | | | | |
| D070 | IPURB | PORTB の弱プルアップ電流 | * | * | * | | VDD = 5.0V, VPIN = VSS |
| | | 入力リーク電流 (2,3) | | | | | |
| D060 | IIL | I/O ポート | | | | | VSS ≤ VPIN ≤ VDD, ハイインピーダンスでのピン |
| D061 | | $\overline{MCLR}$, RA4/T0CKI | | | | | VSS ≤ VPIN ≤ VDD |
| D063 | | OSC1 | | | | | VSS ≤ VPIN ≤ VDD, XT, HS, LP の各オシレータコンフィグレーション |
| | | Low レベル出力電圧 | | | | | |
| D080 | VOL | I/O ポート | | | | | IOL = 8.5 mA, VDD = 4.5V |
| D083 | | OSC2/CLKOUT | | | | | IOL = 1.6 mA, VDD = 4.5V |
| | | High レベル出力電圧 | | | | | |
| D090 | VOH | I/O ポート (3) | | | | | IOH = -3.0 mA, VDD = 4.5V |
| D092 | | High レベル出力電圧 | | | | | IOH = -1.3 mA, VDD = 4.5V |

* このパラメータは特性データです。テストはしていません。

† "Typ" の列のデータは、特に指定のない限り、5.0V、25°Cでテストしています。このパラメータは設計ガイダンスのためのもので、テストはしていません。

注意 1： RC オシレータコンフィグレーションでは、OSC1 ピンはシュミットトリガ入力です。デバイスが RC モードのときは、PIC16F8X を外部クロックとともに使用しないようにしてください。チップに損傷を与える可能性があります。

2： MCLR ピンのリーク電流は、供給電圧レベルにより大きく変化します。指定したレベルは、通常の動作状態に相当します。異なる供給電圧レベルではリーク電流が高くなる場合があります。

3： 負の電流は、ピンからの出力と定義されています。

4： 2 つの仕様のうち良いほうを使用することができます。

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。

PRELIMINARY



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 11.4 DC 特性 PIC16F84、PIC16F83（商業用、工業用）、PIC16LF84、PIC16F83（商業用、工業用）

| DC 特性<br>電源ピン以外のすべてのピン | | | 標準動作条件（特に指定のない場合）<br>動作温度 0℃ ≦ $T_A$ ≦ +70℃（商業用）<br>-40℃ ≦ $T_A$ ≦ +85℃（工業用）<br>動作電圧 VDD の範囲は、第 10.1 項と第 10.2 項の DC 仕様で説明されている通りです。 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| パラメータ番号 | 記号 | 特性 | Min | Typ † | Max | 単位 | 条件 |
| | | 出力ピンでの負荷容量仕様 | | | | | |
| D100 | COSC2 | OSC2 ピン | | | | | XT、HS、LP の各モードでは、外部クロックを使用して OSC1 を駆動します。 |
| D101 | CIO | すべての I/O ピンと OSC2（RC モード） | | | | | |
| | | データ EEPROM メモリ | | | | | |
| D120 | ED | 耐久性 | | | | | 25°C at 5V |
| D121 | VDRW | リード／ライト用 $V_{DD}$ | | | | | VMIN = 中レベルの動作電圧 |
| D122 | TDEW | 消去／ライトサイクル時間 | | | * | | |
| | | プログラムフラッシュメモリ | | | | | |
| D130 | EP | 耐久性 | | | | | |
| D131 | VPR | リード用 $V_{DD}$ | | | | | VMIN = 中レベルの動作電圧 |
| D132 | VPEW | 消去／ライト用 $V_{DD}$ | | | | | |
| D133 | TPEW | 消去／ライトサイクル時間 | | | | | |

* このパラメータは特性データです。テストはしていません。

† "Typ" の列のデータは、特に指定のない限り、5.0V、25℃でテストしています。このパラメータは設計ガイダンスのためのもので、テストはしていません。

PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

### 表 11-2　タイミングパラメータの記号

タイミングパラメータの記号は、次のフォーマットで次のように作られます。

1. TppS2ppS
2. TppS

| | | | |
|---|---|---|---|
| **T** | | | |
| F | **周波数** | T | **時間** |

**小文字の記号（pp）と意味**

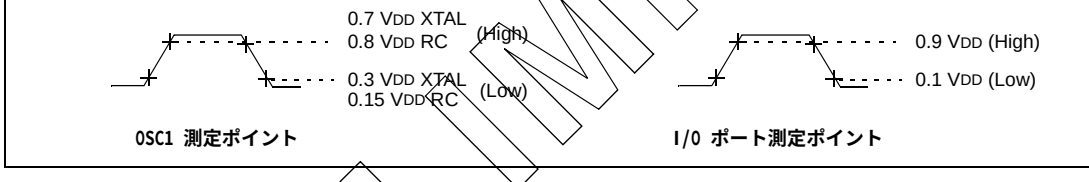
| | | | |
|---|---|---|---|
| **pp** | | | |
| 2 | to | os,osc | OSC1 |
| ck | CLKOUT | ost | **オシレータスタートアップタイマ** |
| cy | **サイクル時間** | pwrt | **パワーアップタイマ** |
| io | **I/O ポート** | rbt | **RBx ピン** |
| inp | **INT ピン** | t0 | T0CKI |
| mc | $\overline{\text{MCLR}}$ | wdt | **ウォッチドッグタイマ** |

**大文字の記号と意味**

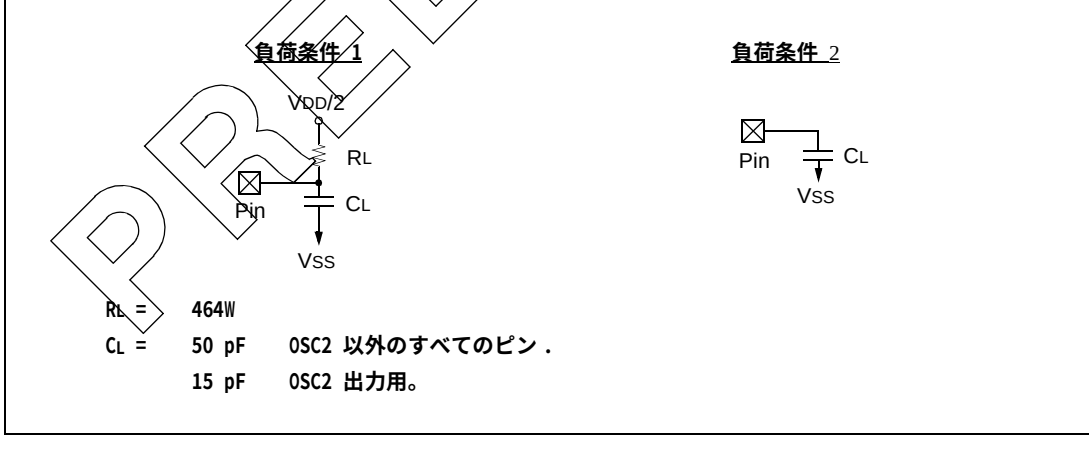
| | | | |
|---|---|---|---|
| **S** | | | |
| F | **立ち下がり** | P | **周期** |
| H | High | R | **立ち上がり** |
| I | **無効（ハイインピーダンス）** | V | **有効** |
| L | Low | Z | **ハイインピーダンス** |

### 図 11-1：　パラメータの測定情報

すべてのタイミングは、High と Low の間で測定されます。




### 図 11-2：　負荷条件




規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。

PRELIMINARY



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 11.5 タイミング図および仕様

**図 11-3： 外部クロックタイミング**

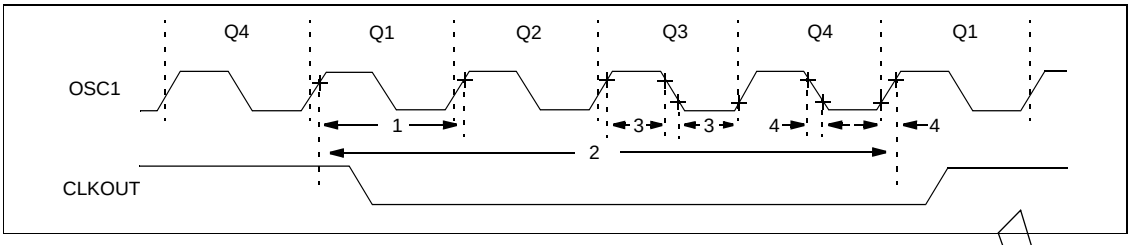



**表 11-3 外部クロックタイミング条件**

| パラメータ番号 | 記号 | 特性 | Min | Typ † | Max | 単位 | 条件 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | FOSC | **外部 CLKIN 周波数 (1)** | | | | MHz | XT, RC osc | PIC16LF8X-04 |
| | | | | | | MHz | XT, RC osc | PIC16F8X-04 |
| | | | | | | MHz | HS osc | PIC16F8X-10 |
| | | | | | | kHz | LP osc | PIC16LF8X-04 |
| | | **オシレータ周波数 (1)** | | | | MHz | RC osc | PIC16LF8X-04 |
| | | | | | | MHz | RC osc | PIC16F8X-04 |
| | | | | | | MHz | XT osc | PIC16LF8X-04 |
| | | | | | | MHz | XT osc | PIC16F8X-04 |
| | | | | | | MHz | HS osc | PIC16F8X-10 |
| | | | | | | kHz | LP osc | PIC16LF8X-04 |
| 1 | Tosc | **外部 CLKIN 周期 (1)** | | | | ns | XT, RC osc | PIC16LF8X-04 |
| | | | | | | ns | XT, RC osc | PIC16F8X-04 |
| | | | | | | ns | HS osc | PIC16F8X-10 |
| | | | | | | µs | LP osc | PIC16LF8X-04 |
| | | **オシレータ周期 (1)** | | | | ns | RC osc | PIC16LF8X-04 |
| | | | | | | ns | RC osc | PIC16F8X-04 |
| | | | | | | ns | XT osc | PIC16LF8X-04 |
| | | | | | | ns | XT osc | PIC16F8X-04 |
| | | | | | | ns | HS osc | PIC16F8X-10 |
| | | | | | | µs | LP osc | PIC16LF8X-04 |
| 2 | TCY | **命令サイクル時間 (1)** | | | | µs | | |
| 3 | TosL, TosH | **クロック・イン (OSC1) High または Low 時間** | * | | | ns | XT osc | PIC16LF8X-04 |
| | | | * | | | ns | XT osc | PIC16F8X-04 |
| | | | * | | | µs | LP osc | PIC16LF8X-04 |
| | | | * | | | ns | HS osc | PIC16F8X-10 |
| 4 | TosR, TosF | **クロック・イン (OSC1) 立ち上がりまたは立ち下がり** | * | | | ns | XT osc | PIC16F8X-04 |
| | | | * | | | ns | LP osc | PIC16LF8X-04 |
| | | | * | | | ns | HS osc | PIC16F8X-10 |

* このパラメータは特性データです。テストはしていません。

† "Typ" の列のデータは、特に指定のない限り、5.0V、25 ℃でテストしています。このパラメータは設計ガイダンスのためのもので、テストはしていません。

注意 1： 命令サイクル周期 (TcY) は入力オシレータ周期の 4 倍になります。規定されたすべての値は、コードを実行しているデバイスを使用して、標準条件下で、オシレータの種類ごとの特性データに基づき決定しました。規定範囲を超えた場合は、オシレータの動作が不安定になったり、予想消費電流を上回ることがあります。すべてのデバイスは OSC1 ピンに入力される外部クロックの「最小」値で動作をテストします。
外部クロック入力を使用するときは、「最大」サイクル時間はすべてのデバイスで "DC'（クロックなし）になります。

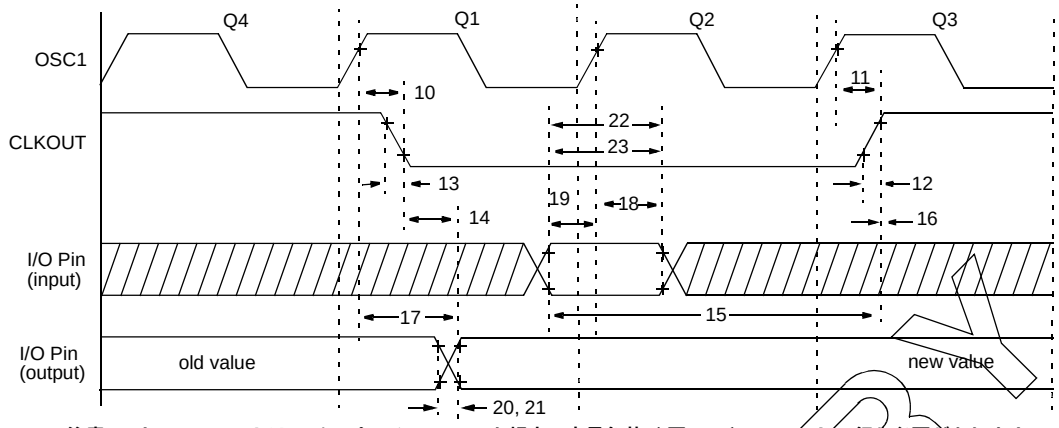
規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。

PRELIMINARY


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**図 11-4： CLKOUT および I/O のタイミング**




**注意： すべてのテストは、I/O ピン と CLKOUT を規定の容量負荷（図 11-2）50pF にして行う必要があります。**

**表 11-4： CLKOUT および I/O のタイミング条件**

| パラメータ番号 | 特性 | Characteristic | | Min | Typ † | Max | 単位 | 条件 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | TosH2ckL | OSC1↑ to CLKOUT↓ | PIC16F8X | | | * | ns | 注意 1 |
| 10A | | | PIC16LF8X | | | * | ns | 注意 1 |
| 11 | TosH2ckH | OSC1↑ to CLKOUT↑ | PIC16F8X | | | * | ns | 注意 1 |
| 11A | | | PIC16LF8X | | | * | ns | 注意 1 |
| 12 | TckR | CLKOUT 立ち上がり時間 | PIC16F8X | | | * | ns | 注意 1 |
| 12A | | | PIC16LF8X | | | * | ns | 注意 1 |
| 13 | TckF | CLKOUT 立ち下がり時間 | PIC16F8X | | | * | ns | 注意 1 |
| 13A | | | PIC16LF8X | | | * | ns | 注意 1 |
| 14 | TckL2ioV | CLKOUT ↓ポート出力有効 | | | | * | ns | 注意 1 |
| 15 | TioV2ckH | CLKOUT ↑の前にポート入力有効 | PIC16F8X | * | | | ns | 注意 1 |
| | | | PIC16LF8X | * | | | ns | 注意 1 |
| 16 | TckH2ioI | CLKOUT ↑後、ポート入力保持 | | * | | | ns | 注意 1 |
| 17 | TosH2ioV | OSC1 ↑（Q1 サイクル） | PIC16F8X | | | * | ns | |
| | | ポート出力有効 | PIC16LF8X | | | * | ns | |
| 18 | TosH2ioI | OSC1 ↑（Q2 サイクル） | PIC16F8X | * | | | ns | |
| | | ポート入力無効（I/O のホールド時間） | PIC16LF8X | * | | | ns | |
| 19 | TioV2osH | OSC1 ↑（Q2 サイクル） | PIC16F8X | * | | | ns | |
| | | ポート入力有効（I/O のセットアップ時間） | PIC16LF8X | * | | | ns | |
| 20 | TioR | ポート出力立ち上がり | PIC16F8X | | | * | ns | |
| 20A | | 時間 | PIC16LF8X | | | * | ns | |
| 21 | TioF | ポート出力立ち下がり | PIC16F8X | | | * | ns | |
| 21A | | 時間 | PIC16LF8X | | | * | ns | |
| 22 | Tinp | INT ピン、High または | PIC16F8X | * | | | ns | |
| 22A | | Low 時間 | PIC16LF8X | * | | | ns | |
| 23 | Trbp | RB7:RB4 変化割り込み | PIC16F8X | | | | ns | |
| 23A | | High または Low 時間 | PIC16LF8X | | | | ns | |

* このパラメータは特性データです。テストはしていません。

† "Typ" の列のデータは、特に指定のない限り、5.0V、25 ℃でテストしています。このパラメータは設計ガイダンスのためのもので、テストはしていません。

ξ 設計による

注意 1： CLKOUT 出力が 4 x Tosc、RC モードでの計測値です。

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。

© 1998 Microchip Technology Inc.


この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**図 11-5： リセット、ウォッチドッグタイマ、デバイスリセットタイマのタイミング**

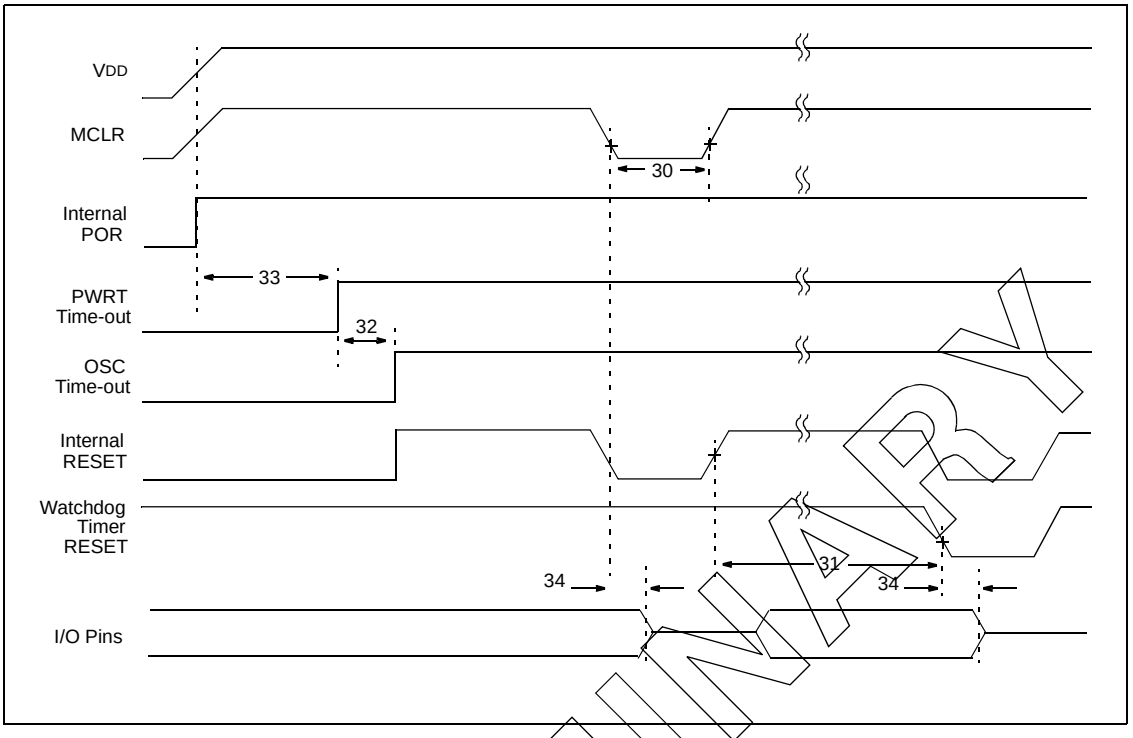



**表 11-5 リセット、ウォッチドッグタイマ、オシレータスタートアップタイマおよびパワーアップタイマの条件**

| パラメータ番号 | 特性 | Characteristic | Min | Typ † | Max | 単位 | 条件 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 30 | TmcL | $\overline{MCLR}$ パルス幅 (Low) | * | | | ns | 2.0V ≤ VDD ≤ 6.0V |
| 31 | Twdt | ウォッチドッグタイマ・タイムアウト周期（プリスケーラなし） | * | | * | ms | VDD = 5.0V |
| 32 | Tost | オシレーション・スタートアップタイマ周期 | | | | ms | TOSC = OSC1 period |
| 33 | Tpwrt | パワーアップタイマ周期 | * | | * | ms | VDD = 5.0V |
| 34 | TIOZ | $\overline{MCLR}$ Low またはリセットからの I/O ハイインピーダンス | | | * | ns | |

* このパラメータは特性データです。テストはしていません。

† "Typ" の列のデータは、特に指定のない限り、5.0V、25 ℃でテストしています。このパラメータは設計ガイダンスのためのもので、テストはしていません。

PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**図 11-6： タイマ 0 クロックのタイミング**

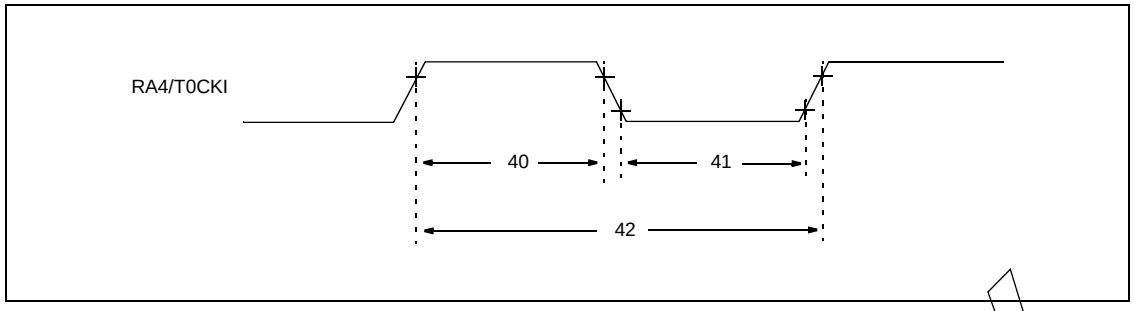



**表 11-6 タイマ 0 クロックの条件**

| パラメータ番号 | 特性 | Characteristic | | Min | Typ † | Max | 単位 | 条件 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 40 | Tt0H | **T0CKI** High **パルス幅** | **プリスケーラなし** | * | | | ns | |
| | | | **プリスケーラあり** | * | | | ns | 2.0V ≤ VDD ≤ 3.0V |
| | | | | * | | | ns | 3.0V ≤ VDD ≤ 6.0V |
| 41 | Tt0L | **T0CKI** Low **パルス幅** | **プリスケーラなし** | * | | | ns | |
| | | | **プリスケーラあり** | * | | | ns | 2.0V ≤ VDD ≤ 3.0V |
| | | | | * | | | ns | 3.0V ≤ VDD ≤ 6.0V |
| 42 | Tt0P | **T0CKI 周期** | | * | | | ns | **N = プリスケーラ値 (2、4、…、256)** |

* このパラメータは特性データです。テストはしていません。

† "Typ" の列のデータは、特に指定のない限り、5.0V、25 ℃でテストしています。このパラメータは設計ガイダンスのためのもので、テストはしていません。

PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**NOTES:**

PRELIMINARY


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 12.0 電気的特性 --- PIC16CR83/PIC16CR84

絶対最大定格 †

バイアス下での周囲温度 .....

保存温度 .....

$V_{SS}$ に対する $V_{DD}$ の電圧 .....

$V_{SS}$ に対する MCLR ピンの電圧 (2) .....

$V_{SS}$ に対する他のすべてのピンの電圧 .....

消費電力の合計 (1) .....

$V_{SS}$ ピンからの最大電流 .....

$V_{DD}$ ピンへの最大電流 .....

入力クランプ電流、$I_{IK}$ ($V_I < 0$ または $V_I > V_{DD}$) .....

入力クランプ電流、$I_{OK}$ ($V_O < 0$ または $V_O > V_{DD}$) .....

I/O ピンごとの最大出力シンク電流 .....

I/O ピンごとの最大出力ソース電流 .....

PORTA の最大出力シンク電流 .....

PORTA の最大出力ソース電流 .....

PORTB の最大出力シンク電流 .....

PORTB の最大出力ソース電流 .....

注意 1：消費電力は次の式で計算できます。$P_{DIS} = V_{DD} \times \{(I_{DD} - V_{OH}) \times I_{OH}\} + \Sigma (V_{OL} \times I_{OL})$

注意 2：$\overline{MCLR}$ ピンでのスパイク電圧が $V_{SS}$ 以下、電流が 80 mA 以上になると、ラッチアップが発生する原因となります。したがって、MCLR ピンを Low レベルにするときは、$V_{SS}$ に直接接続しないで、50 - 100Ω の直列抵抗を使用してください。

†注意： 上記の「最大定格」を超えるストレスは、デバイスに損傷を与える恐れがあります。これは、ストレスの定格を示すためだけのもので、上記の値、または、この仕様書に記載された値を超える条件で動作することを示すものではありません。継続した期間最大定格で使用した場合、デバイスの信頼性を損なう恐れがあります。

PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**表 12-1 オシレータのコンフィグレーションおよび動作周波数のデバイス仕様クロスリファレンス（商業用デバイス）**

| オシレータ | PIC16CR84-04<br>PIC16CR83-04 | PIC16CR84-10<br>PIC16CR83-10 | PIC16LCR84-04<br>PIC16LCR83-04 |
|---|---|---|---|
| RC | VDD:<br>IDD:<br>IPD:<br>Freq: | VDD:<br>IDD:<br>IPD:<br>Freq: | VDD:<br>IDD:<br>IPD:<br>Freq: |
| XT | VDD:<br>IDD:<br>IPD:<br>Freq: | VDD:<br>IDD:<br>IPD:<br>Freq: | VDD:<br>IDD:<br>IPD:<br>Freq: |
| HS | VDD:<br>IDD:<br>IPD:<br>Freq: | VDD:<br>IDD:<br>IPD:<br>Freq: | |
| LP | VDD:<br>IDD:<br>IPD:<br>Freq: | | VDD:<br>IDD:<br>IPD:<br>Freq: |

網掛部分は機能のテストに使用されるオシレータを示しています（最小／最大の仕様はテストされません）。必要な仕様が保証されているデバイスタイプを選択することをお勧めします。

PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 12.1 DC 特性： PIC16F84、PIC16F83（商業用、工業用）

| DC 特性<br>電源ピン | | | 標準動作条件（特に指定のない場合）<br>動作温度 0 ℃ ≦ $T_A$ ≦ +70 ℃（商業用）<br>-40 ℃ ≦ $T_A$ ≦ +85 ℃（工業用） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| パラメータ番号 | 記号 | 特性 | Min | Typ † | Max | 単位 | 条件 |
| D001<br>D001A | VDD | 電源電圧 | | | | | XT、RC、LP のオシレータコンフィグレーション<br>HS オシレータコンフィグレーション |
| D002 | VDR | RAM データ保持電圧 (1) | * | | | | SLEEP モードの場合 |
| D003 | VPOR | パワーオンリセットを確実にするための $V_{DD}$ のスタート電圧 | | | | | 詳細はパワーオンリセットの項をご覧ください。 |
| D004 | SVDD | パワーオンリセットを確実にするための $V_{DD}$ の立ち上がり率 | * | | | | 詳細はパワーオンリセットの項をご覧ください。 |
| D010<br>D010A<br><br>D013 | IDD | 消費電流 (2) | | | | | RC および XT オシレータコンフィグレーション (4)<br>FOSC = 4.0 MHz, VDD = 5.5V<br>FOSC = 4.0 MHz, VDD = 5.5V<br>（フラッシュプログラミング中）<br>HS オシレータコンフィグレーション (PIC16R84-10)<br>FOSC = 10 MHz, VDD = 5.5V |
| D020<br>D021<br>D021A | IPD | 待機電流 (3) | | | | | VDD = 4.0 V、WDT オン、工業用<br>VDD = 4.0 V、WDT オフ、商業用<br>VDD = 4.0 V、WDT オフ、工業用 |

* このパラメータは特性データです。テストはしていません。

† "Typ" の列のデータは、特に指定のない限り、5.0V、25 ℃でテストしています。このパラメータは設計ガイダンスのためのもので、テストはしていません。

注意 1：これは SLEEP モードで $V_{DD}$ を下げたときに RAM データを失わない最小の値です。

2：この消費電流は、主に動作電圧と周波数によって変化します。その他に I/O ピンの負荷、切り替え率、オシレータの種類、内部コード実行パターン、温度などの要素も消費電流に影響を与えます。
動作中の $I_{DD}$ のテスト条件は次のようになります。
OSC1= 外部方形波（レール・トゥ・レール）、I/O ピンは入力の設定で $V_{DD}$ にプルダウン、TOCKI = $V_{DD}$ MCLR = $V_{DD}$、WDT オン／オフは明記してある通り。

3：SLEEP モードでの待機電流はオシレータの種類には影響を受けません。待機電流は、SLEEP モードのデバイスを、I/O ピンを入力にして、$V_{DD}$ または $V_{SS}$ に接続して計測します。

4：RC オシレータのコンフィグレーションについては、Rext の電流は含みません。Rext の電流は $I_R$ = $V_{DD}$/ 2Rext (mA) という式から概算することができます。(Rext の単位は kΩ)

PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 12.2 DC 特性： PIC16LCR84、PIC16LCR83（商業用、工業用）

| DC 特性<br>電源ピン | | | 標準動作条件（特に指定のない場合）<br>動作温度 0℃ ≦ $T_A$ ≦ +70℃（商業用）<br>-40℃ ≦ $T_A$ ≦ +85℃（工業用） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| パラメータ番号 | 記号 | 特性 | Min | Typ † | Max | 単位 | 条件 |
| D001 | VDD | 電源電圧 | | | | | XT、RC、LP のオシレータコンフィグレーション |
| D002 | VDR | RAM データ保持電圧 (1) | * | | | | SLEEP モードの場合 |
| D003 | VPOR | パワーオンリセットを確実にするための $V_{DD}$ のスタート電圧 | | | | | 詳細はパワーオンリセットの項をご覧ください。 |
| D004 | SVDD | パワーオンリセットを確実にするための $V_{DD}$ の立ち上がり率 | * | | | | 詳細はパワーオンリセットの項をご覧ください。 |
| D010<br>D010A<br><br>D013 | IDD | 消費電流 (2) | | | | | RC および XT オシレータコンフィグレーション (4)<br>FOSC = 2.0 MHz, VDD = 5.5V<br>FOSC = 2.0 MHz, VDD = 5.5V（フラッシュプログラミング中）<br>LP オシレータコンフィグレーション<br>FOSC = 10 MHz, VDD = 5.5V、WDT オフ |
| D020<br>D021<br>D021A | IPD | 待機電流 (3) | | | | | VDD = 2.0 V、WDT オン、工業用<br>VDD = 2.0 V、WDT オフ、商業用<br>VDD = 2.0 V、WDT オフ、工業用 |

* このパラメータは特性データです。テストはしていません。

† "Typ" の列のデータは、特に指定のない限り、5.0V、25℃でテストしています。このパラメータは設計ガイダンスのためのもので、テストはしていません。

注意 1： これは SLEEP モードで $V_{DD}$ を下げたときに RAM データを失わない最小の値です。

2： この消費電流は、主に動作電圧と周波数によって変化します。その他に I/O ピンの負荷、切り替え率、オシレータの種類、内部コード実行パターン、温度などの要素も消費電流に影響を与えます。
動作中の $I_{DD}$ のテスト条件は次のようになります。
OSC1= 外部方形波（レール・トゥ・レール）、I/O ピンは入力の設定で $V_{DD}$ にプルダウン、TOCKI = $V_{DD}$、MCLR = $V_{DD}$、WDT オン／オフは明記してある通り。

3： SLEEP モードでの待機電流はオシレータの種類には影響を受けません。待機電流は、SLEEP モードのデバイスを、I/O ピンを入力にして、$V_{DD}$ または $V_{SS}$ に接続して計測します。

4： RC オシレータのコンフィグレーションについては、Rext の電流は含みません。Rext の電流は $I_R = V_{DD}/2Rext$（mA）という式から概算することができます。(Rext の単位は kΩ)

PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 12.3 DC 特性： PIC16CR84、PIC16CR83（商業用、工業用）、PIC16LCR84、PIC16LCR83（商業用、工業用）

| DC 特性<br>電源ピン以外のすべてのピン | | | 標準動作条件（特に指定のない場合）<br>動作温度 0 °C ≦ $T_A$ ≦ +70 °C（商業用）<br>-40 °C ≦ $T_A$ ≦ +85 °C（工業用）<br>動作電圧 VDD の範囲は、第 10.1 項と第 10.2 項の DC 仕様で説明されている通りです。 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| パラメータ番号 | 記号 | 特性 | Min | Typ † | Max | 単位 | 条件 |
| | | Low レベル入力電圧 | | | | | |
| | VIL | I/O ポート | | | | | |
| D030 | | TTL バッファ付き | | | | V | 4.5 V ≤ VDD ≤ 5.5V (4) |
| D030A | | | | | | | 全 $V_{DD}$ 範囲 (4) |
| D031 | | シュミットトリガバッファ付き | | | | | 全 $V_{DD}$ 範囲 |
| D032 | | $\overline{MCLR}$, RA4/T0CKI | | | | | |
| D033 | | OSC1（XT、HS、LP の各モード）(1) | | | | | |
| D034 | | OSC1（RC モード） | | | | | |
| | | High レベル入力電圧 | | | | | |
| | VIH | I/O ポート | | | | | |
| D040 | | TTL バッファ | | | | | 4.5 V ≤ VDD ≤ 5.5V (4) |
| D040A | | | | | | | 全 $V_{DD}$ 範囲 (4) |
| D041 | | シュミットトリガバッファ | | | | | 全 $V_{DD}$ 範囲 |
| D042 | | $\overline{MCLR}$、RA4/T0CKI、OSC1（RC モード） | | | | | |
| D043 | | OSC1（XT、HS、LP の各モード）(1) | | | | | |
| D050 | VHYS | シュミットトリガ入力のヒステリシス TBD | | | | | |
| D070 | IPURB | PORTB の弱プルアップ電流 | * | * | * | | VDD = 5.0V, VPIN = VSS |
| | | 入力リーク電流 (2,3) | | | | | |
| D060 | IIL | I/O ポート | | | | | VSS ≤ VPIN ≤ VDD, ハイインピーダンスでのピン |
| D061 | | $\overline{MCLR}$, RA4/T0CKI | | | | | VSS ≤ VPIN ≤ VDD |
| D063 | | OSC1 | | | | | VSS ≤ VPIN ≤ VDD, XT, HS, LP の各オシレータコンフィグレーション |
| | | Low レベル出力電圧 | | | | | |
| D080 | VOL | I/O ポート | | | | | IOL = 8.5 mA, VDD = 4.5V |
| D083 | | OSC2/CLKOUT | | | | | IOL = 1.6 mA, VDD = 4.5V |
| | | High レベル出力電圧 | | | | | |
| D090 | VOH | I/O ポート (3) | | | | | IOH = -3.0 mA, VDD = 4.5V |
| D092 | | High レベル出力電圧 | | | | | IOH = -1.3 mA, VDD = 4.5V |

* このパラメータは特性データです。テストはしていません。

† "Typ" の列のデータは、特に指定のない限り、5.0V、25 °Cでテストしています。このパラメータは設計ガイダンスのためのもので、テストはしていません。

注意 1： RC オシレータコンフィグレーションでは、OSC1 ピンはシュミットトリガ入力です。デバイスが RC モードのときは、PIC16F8X を外部クロックとともに使用しないようにしてください。チップに損傷を与える可能性があります。

2： MCLR ピンのリーク電流は、供給電圧レベルにより大きく変化します。指定したレベルは、通常の動作状態に相当します。リーク電流が高い場合は、異なる入力電圧で計測された可能性があります。

3： 負の電流は、ピンからの出力と定義されています。

4： 2つの仕様のうち良いほうを使用することができます。

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。

PRELIMINARY



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 12.4 DC 特性： PIC16CR84、PIC16CR83（商業用、工業用）、PIC16LCR84、PIC16LCR83（商業用、工業用）

| DC 特性<br>電源ピン以外のすべてのピン | | | 標準動作条件（特に指定のない場合）<br>動作温度 0℃ ≦ $T_A$ ≦ +70℃（商業用）<br>-40℃ ≦ $T_A$ ≦ +85℃（工業用）<br>動作電圧 VDD の範囲は、第 10.1 項と第 10.2 項の DC 仕様で説明されている通りです。 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| パラメータ番号 | 特性 | Characteristic | Min | Typ † | Max | 単位 | 条件 |
| | | **出力ピンでの負荷容量仕様** | | | | | |
| D100 | COSC2 | **OSC2 ピン** | | | | | **XT、HS、LP の各モードでは、外部クロックを使用して OSC1 を駆動します。** |
| D101 | CIO | **すべての I/O ピンと OSC2 (RC モード)** | | | | | |
| | | **データ WWPROM メモリ** | | | | | |
| D120 | ED | 耐久性 | | | | | 25°C at 5V |
| D121 | VDRW | **リード／ライト用 $V_{DD}$** | | | | | VMIN = **中レベルの動作電圧** |
| D122 | TDEW | **消去／ライトサイクル時間** | | | * | | |

* このパラメータは特性データです。テストはしていません。

† "Typ" の列のデータは、特に指定のない限り、5.0V、25℃でテストしています。このパラメータは設計ガイダンスのためのもので、テストはしていません。

PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

### 表 12-2　タイミングパラメータの記号

タイミングパラメータの記号は、次のフォーマットで次のように作られます。

1. TppS2ppS
2. TppS

| | | | |
|---|---|---|---|
| **T** | | | |
| F | **周波数** | T | **時間** |

**小文字の記号（pp）と意味**

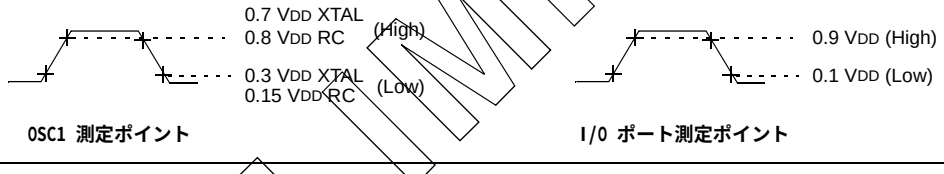
| | | | |
|---|---|---|---|
| **pp** | | | |
| 2 | to | os,osc | OSC1 |
| ck | CLKOUT | ost | **オシレータスタートアップタイマ** |
| cy | **サイクル時間** | pwrt | **パワーアップタイマ** |
| io | **I/O ポート** | rbt | **RBx ピン** |
| inp | **INT ピン** | t0 | T0CKI |
| mc | $\overline{\text{MCLR}}$ | wdt | **ウォッチドッグタイマ** |

**大文字の記号と意味**

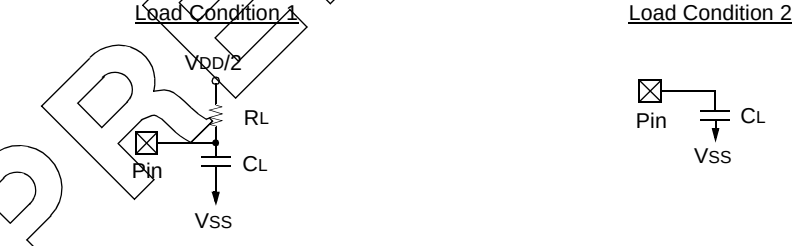
| | | | |
|---|---|---|---|
| **S** | | | |
| F | **立ち下がり** | P | **周期** |
| H | High | R | **立ち上がり** |
| I | **無効（ハイインピーダンス）** | V | **有効** |
| L | Low | Z | **ハイインピーダンス** |

### 図 12-1：　パラメータの測定情報

すべてのタイミングは、次の図に示すように、ハイとローの間で測定されます。




### 図 12-2：　負荷条件




規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。

PRELIMINARY



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 12.5 タイミング図および仕様

**図 12-3： 外部クロックタイミング**

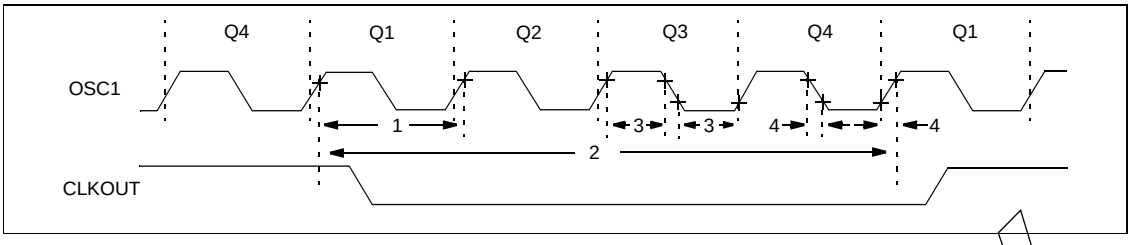



**表 12-3 外部クロックタイミング条件**

| パラメータ番号 | 記号 | 特性 | Min | Typ † | Max | 単位 | 条件 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | FOSC | **外部 CLKIN 周波数 (1)** | | | | MHz | XT, RC osc | PIC16LCR8X-04 |
| | | | | | | MHz | XT, RC osc | PIC16CR8X-04 |
| | | | | | | MHz | HS osc | PIC16CR8X-10 |
| | | | | | | kHz | LP osc | PIC16LCR8X-04 |
| | | **オシレータ周波数 (1)** | | | | MHz | RC osc | PIC16LCR8X-04 |
| | | | | | | MHz | RC osc | PIC16CR8X-04 |
| | | | | | | MHz | XT osc | PIC16LCR8X-04 |
| | | | | | | MHz | XT osc | PIC16CR8X-04 |
| | | | | | | MHz | HS osc | PIC16CR8X-10 |
| | | | | | | kHz | LP osc | PIC16LCR8X-04 |
| 1 | Tosc | **外部 CLKIN 周期 (1)** | | | | ns | XT, RC osc | PIC16LCR8X-04 |
| | | | | | | ns | XT, RC osc | PIC16CR8X-04 |
| | | | | | | ns | HS osc | PIC16CR8X-10 |
| | | | | | | µs | LP osc | PIC16LCR8X-04 |
| | | **オシレータ周期 (1)** | | | | ns | RC osc | PIC16LCR8X-04 |
| | | | | | | ns | RC osc | PIC16CR8X-04 |
| | | | | | | ns | XT osc | PIC16LCR8X-04 |
| | | | | | | ns | XT osc | PIC16CR8X-04 |
| | | | | | | ns | HS osc | PIC16CR8X-10 |
| | | | | | | µs | LP osc | PIC16LCR8X-04 |
| 2 | TCY | **命令サイクル時間 (1)** | | | | µs | | |
| 3 | TosL, TosH | **クロック・イン（OSC1）High または Low 時間** | * | | | ns | XT osc | PIC16LCR8X-04 |
| | | | * | | | ns | XT osc | PIC16CR8X-04 |
| | | | * | | | µs | LP osc | PIC16LCR8X-04 |
| | | | * | | | ns | HS osc | PIC16CR8X-10 |
| 4 | TosR, TosF | **クロック・イン（OSC1）立ち上がりまたは立ち下がり** | * | | | ns | XT osc | PIC16CR8X-04 |
| | | | * | | | ns | LP osc | PIC16LCR8X-04 |
| | | | * | | | ns | HS osc | PIC16CR8X-10 |

* このパラメータは特性データです。テストはしていません。

† "Typ" の列のデータは、特に指定のない限り、5.0V、25 ℃でテストしています。このパラメータは設計ガイダンスのためのもので、テストはしていません。

注意 1： 命令サイクル周期（TCY）は入力オシレータ周期の 4 倍になります。規定されたすべての値は、コードを実行しているデバイスを使用して、標準条件下で、オシレータの種類ごとの特性データに基づき決定しました。規定範囲を超えた場合は、オシレータの動作が不安定になったり、予想消費電流を上回ることがあります。すべてのデバイスは OSC1 ピンに入力される外部クロックの「最小」値で動作をテストします。
外部クロック入力を使用するときは、「最大」サイクル時間はすべてのデバイスで "DC"（クロックなし）になります。

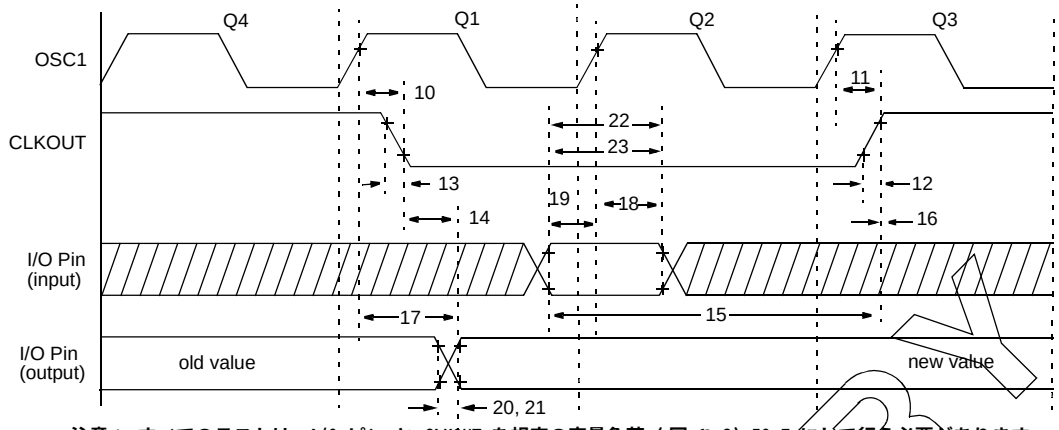
規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。

PRELIMINARY


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**図 12-4： CLKOUT および I/O のタイミング**




**注意： すべてのテストは、I/O ピン と CLKOUT を規定の容量負荷（図 12-2）50pF にして行う必要があります。**

**表 12-4： CLKOUT および I/O のタイミング条件**

| パラメータ番号 | 記号 | 特性 | | Min | Typ † | Max | 単位 | 条件 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | TosH2ckL | OSC1↑ to CLKOUT↓ | PIC16CR8X | | | * | ns | 注意 1 |
| 10A | | | PIC16LCR8X | | | * | ns | 注意 1 |
| 11 | TosH2ckH | OSC1↑ to CLKOUT↑ | PIC16CR8X | | | * | ns | 注意 1 |
| 11A | | | PIC16LCR8X | | | * | ns | 注意 1 |
| 12 | TckR | CLKOUT 立ち上がり時間 | PIC16CR8X | | | * | ns | 注意 1 |
| 12A | | | PIC16LCR8X | | | * | ns | 注意 1 |
| 13 | TckF | CLKOUT 立ち下がり時間 | PIC16CR8X | | | * | ns | 注意 1 |
| 13A | | | PIC16LCR8X | | | * | ns | 注意 1 |
| 14 | TckL2ioV | CLKOUT ↓ポート出力有効 | | | | * | ns | 注意 1 |
| 15 | TioV2ckH | CLKOUT ↑の前にポート入力有効 | PIC16CR8X | * | | | ns | 注意 1 |
| | | | PIC16LCR8X | * | | | ns | 注意 1 |
| 16 | TckH2ioI | CLKOUT ↑後、ポート入力保持 | | * | | | ns | 注意 1 |
| 17 | TosH2ioV | OSC1 ↑（Q1 サイクル）ポート出力有効 | PIC16CR8X | | | * | ns | |
| | | | PIC16LCR8X | | | * | ns | |
| 18 | TosH2ioI | OSC1 ↑（Q2 サイクル）ポート入力無効（I/O のホールド時間） | PIC16CR8X | * | | | ns | |
| | | | PIC16LCR8X | * | | | ns | |
| 19 | TioV2osH | OSC1 ↑（Q2 サイクル）ポート入力有効（I/O のセットアップ時間） | PIC16CR8X | * | | | ns | |
| | | | PIC16LCR8X | * | | | ns | |
| 20 | TioR | ポート出力立ち上がり時間 | PIC16CR8X | | | * | ns | |
| 20A | | | PIC16LCR8X | | | * | ns | |
| 21 | TioF | ポート出力立ち下がり時間 | PIC16CR8X | | | * | ns | |
| 21A | | | PIC16LCR8X | | | * | ns | |
| 22 | Tinp | INT ピン、High または Low 時間 | PIC16CR8X | * | | | ns | |
| 22A | | | PIC16LCR8X | * | | | ns | |
| 23 | Trbp | RB7:RB4 変化割り込み High または Low 時間 | PIC16CR8X | | | | ns | |
| 23A | | | PIC16LCR8X | | | | ns | |

* このパラメータは特性データです。テストはしていません。

† "Typ" の列のデータは、特に指定のない限り、5.0V、25 ℃でテストしています。このパラメータは設計ガイダンスのためのもので、テストはしていません。

ξ 設計

注意 1： CLKOUT 出力が 4 x Tosc、RC モードでの計測値です。

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。

PRELIMINARY



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**図 12-5： リセット、ウォッチドッグタイマ、デバイスリセットタイマのタイミング**

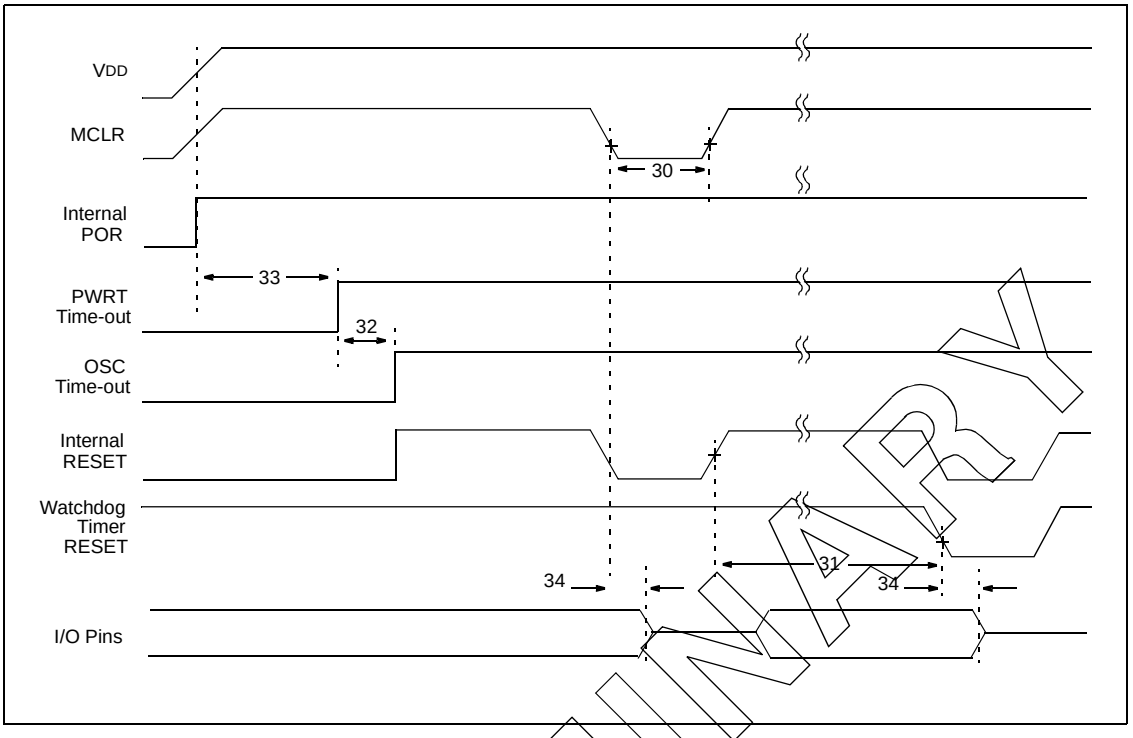



**表 12-5 リセット、ウォッチドッグタイマ、オシレータスタートアップタイマおよびパワーアップタイマの条件**

| パラメータ番号 | 記号 | 特性 | Min | Typ † | Max | 単位 | 条件 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 30 | TmcL | $\overline{MCLR}$ パルス幅 (Low) | * | | | ns | 2.0V ≤ VDD ≤ 6.0V |
| 31 | Twdt | ウォッチドッグタイマ・タイムアウト周期（プリスケーラなし） | * | | * | ms | VDD = 5.0V |
| 32 | Tost | オシレーション・スタートアップタイマ周期 | | | | ms | TOSC = OSC1 period |
| 33 | Tpwrt | パワーアップタイマ周期 | * | | * | ms | VDD = 5.0V |
| 34 | TIOZ | $\overline{MCLR}$ Low またはリセットからの I/O ハイインピーダンス | | | * | ns | |

* このパラメータは特性データです。テストはしていません。

† "Typ" の列のデータは、特に指定のない限り、5.0V、25 ℃でテストしています。このパラメータは設計ガイダンスのためのもので、テストはしていません。

PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**図 12-6： タイマ 0 クロックのタイミング**

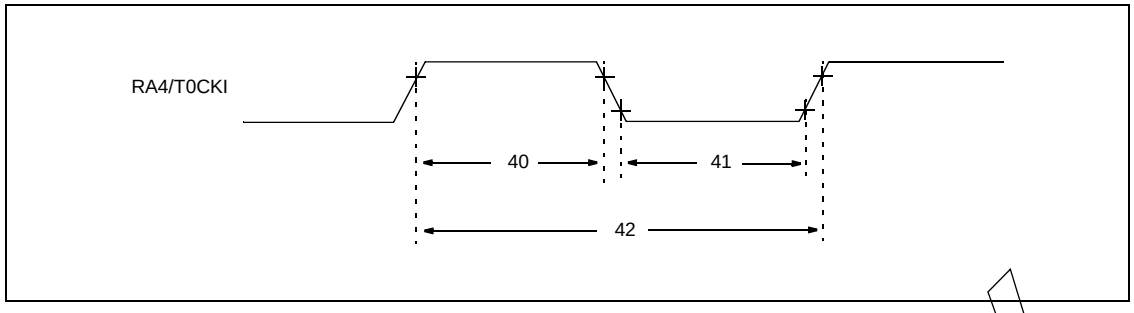



**表 12-6 タイマ 0 クロックの条件**

| パラメータ番号 | 記号 | 特性 | | Min | Typ † | Max | 単位 | 条件 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 40 | Tt0H | T0CKI High パルス幅 | プリスケーラなし | * | | | ns | |
| | | | プリスケーラあり | * | | | ns | 2.0V ≤ VDD ≤ 3.0V |
| | | | | * | | | ns | 3.0V ≤ VDD ≤ 6.0V |
| 41 | Tt0L | T0CKI Low パルス幅 | プリスケーラなし | * | | | ns | |
| | | | プリスケーラあり | * | | | ns | 2.0V ≤ VDD ≤ 3.0V |
| | | | | * | | | ns | 3.0V ≤ VDD ≤ 6.0V |
| 42 | Tt0P | T0CKI 周期 | | * | | | ns | N = プリスケーラ値 (2、4、…、256) |

* このパラメータは特性データです。テストはしていません。

† "Typ" の列のデータは、特に指定のない限り、5.0V、25 ℃でテストしています。このパラメータは設計ガイダンスのためのもので、テストはしていません。

PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**NOTES:**

PRELIMINARY


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 13.0 DC および AC 特性 --- グラフと表

この章に規定したグラフと表は設計ガイダンスを示すためのもので、テストはしていません。また、保証値でもありません。

いくつかのグラフや表では、データが規定の動作範囲から外れているものもあります。( 例えば、規定 $V_{DD}$ 範囲外 )。これは参考のためで、デバイスは規定の範囲内に限り正常に動作しています。

この章のデータは、一定期間にわたってロットの異なる製品から採集したデータの統計をまとめたものです。"Typical" は 25 ℃での平均を表し、"max" や "min" はそれぞれ ( 平均 + 3δ)、( 平均 - 3δ) を表します ( δ は標準偏差 )。

**図 13-1 標準的な RC オシレータ周波数 VS 温度**

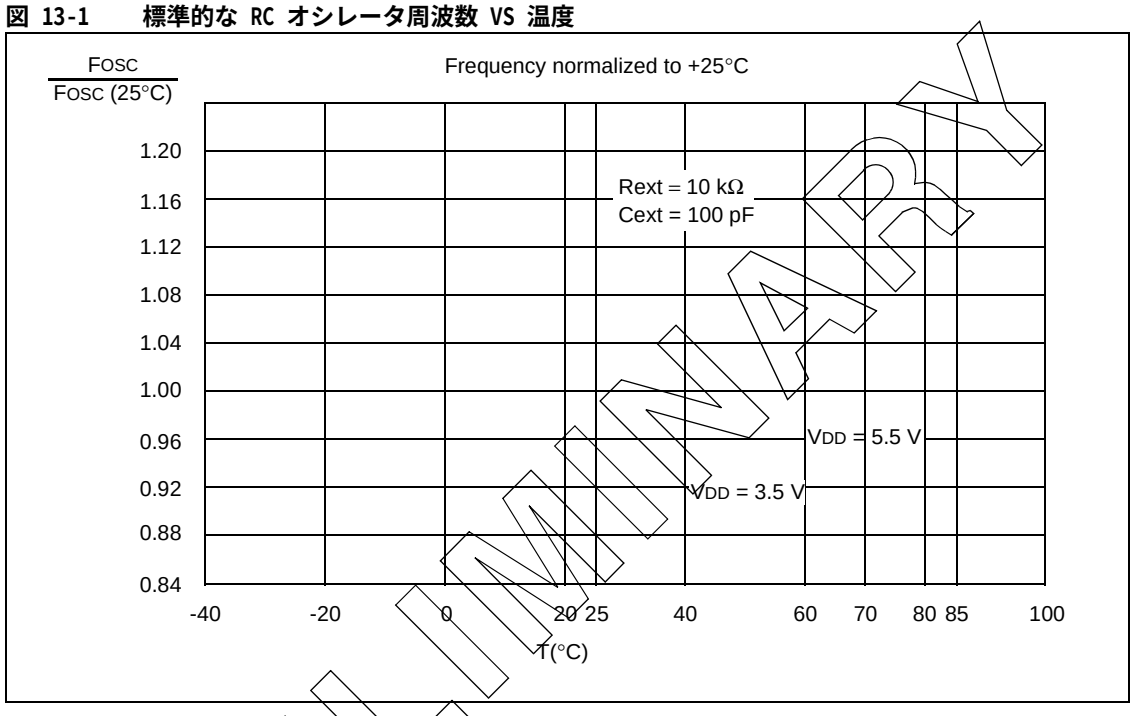



**表 13-1 RC オシレータの周波数 ***

| Cext | Rext | 平均 Fosce @ 5V、25 ℃ | |
|---|---|---|---|
| | | | 誤差 |
| 20 pF | 5 k<br>10 k<br>100 k | | |
| 100 pF | 5 k<br>10 k<br>100 k | | |
| 300 pF | 5 k<br>10 k<br>100 k | | |

* DIP パッケージで測定。この誤差は、通常の製造過程での製品ごとの誤差を示しています。全 VDD 範囲の平均値の標準誤差は± 3 です。

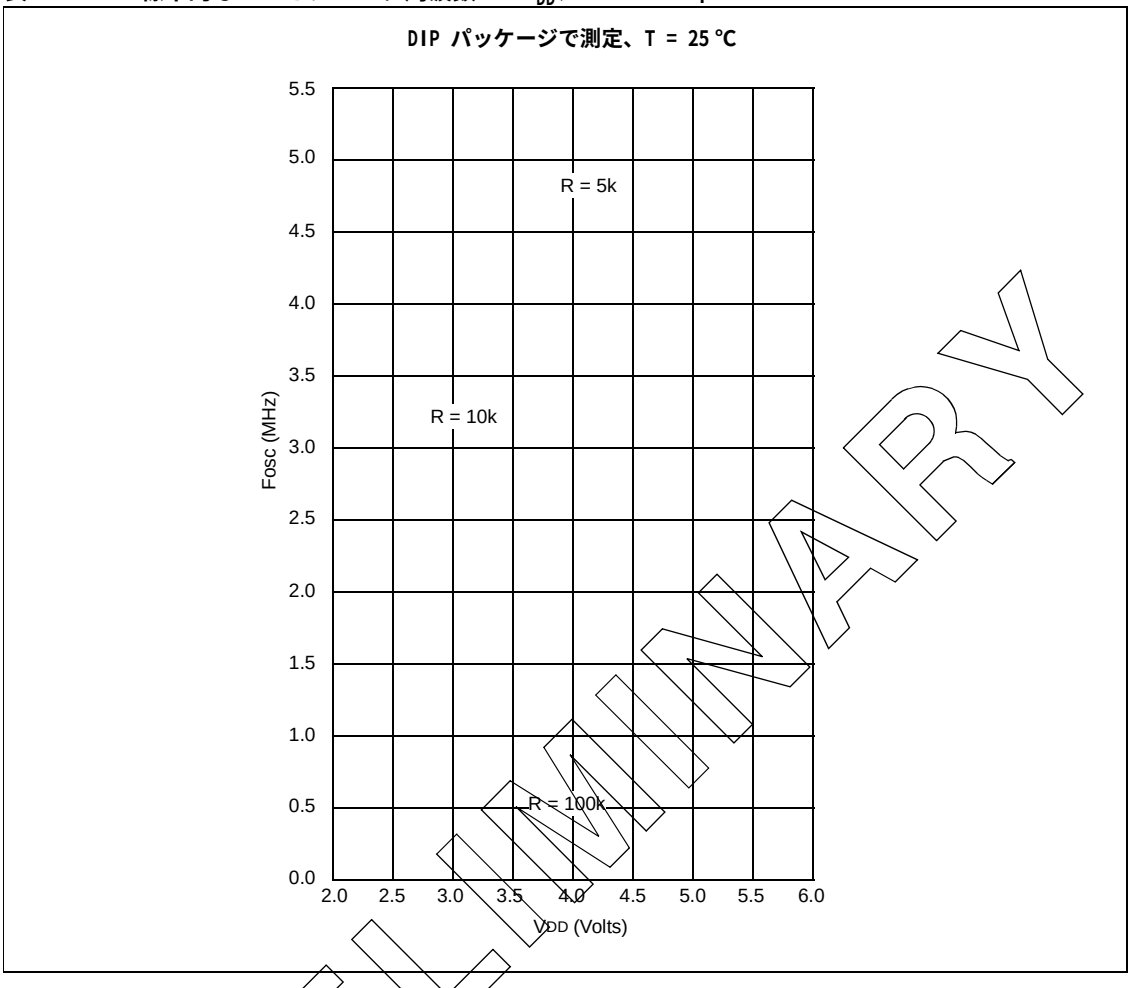
規格値については最新版データシート ( 英語 ) を参照してください。

PRELIMINARY



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

**表 13-2： 標準的な RC オシレータ周波数 VS $V_{DD}$、CEXT = 20 pF**




PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**図 13-3： 標準的な RC オシレータ周波数 VS $V_{DD}$、CEXT = 100 pF**

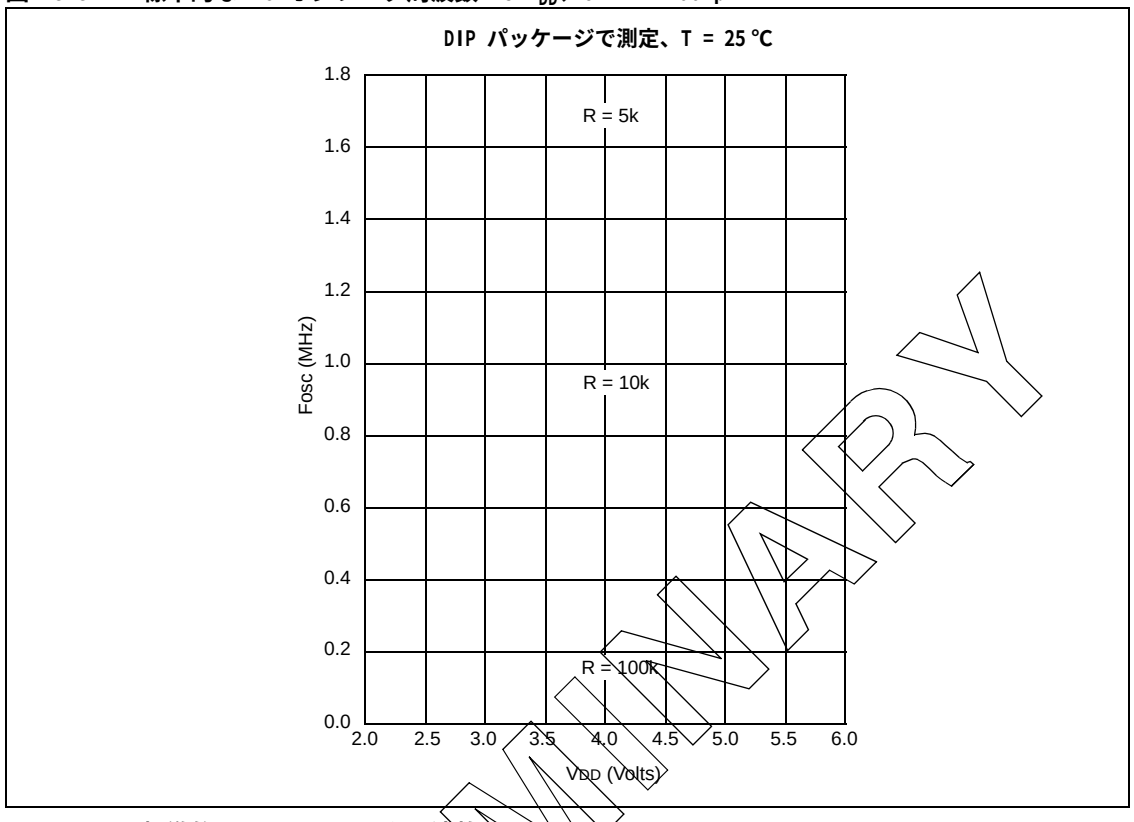
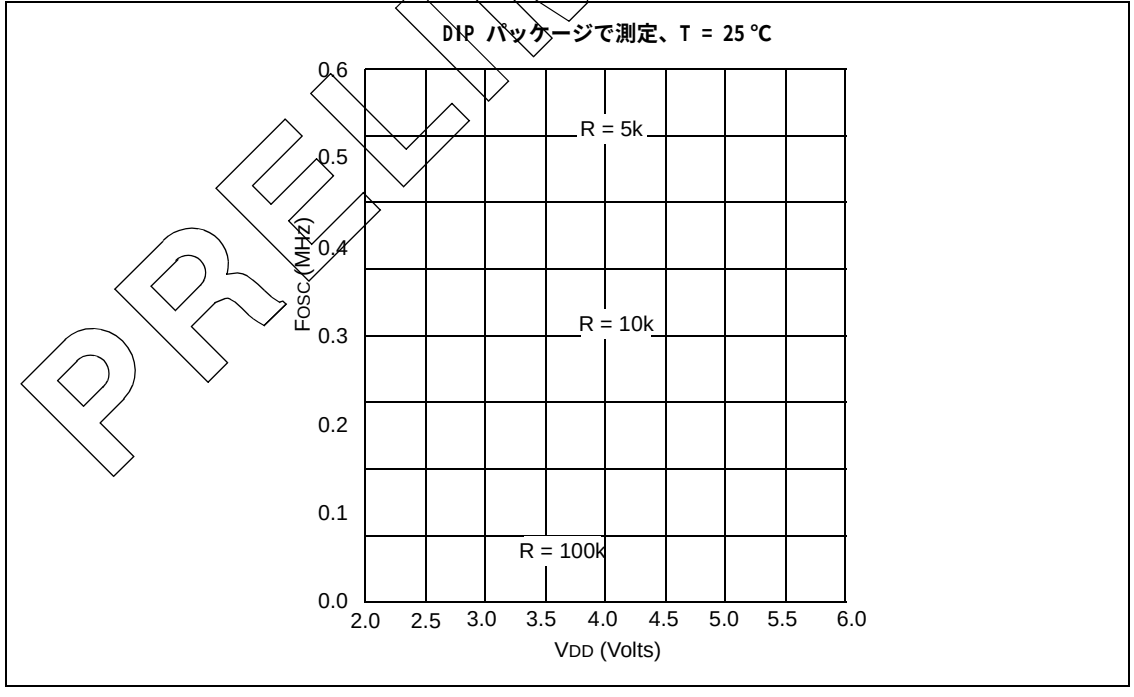



**図 13-4： 標準的な RC オシレータ周波数 VS $V_{DD}$、CEXT = 300 pF**




PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**図 13-5： 標準的な $I_{PD}$ VS $V_{DD}$、WDT オフ**

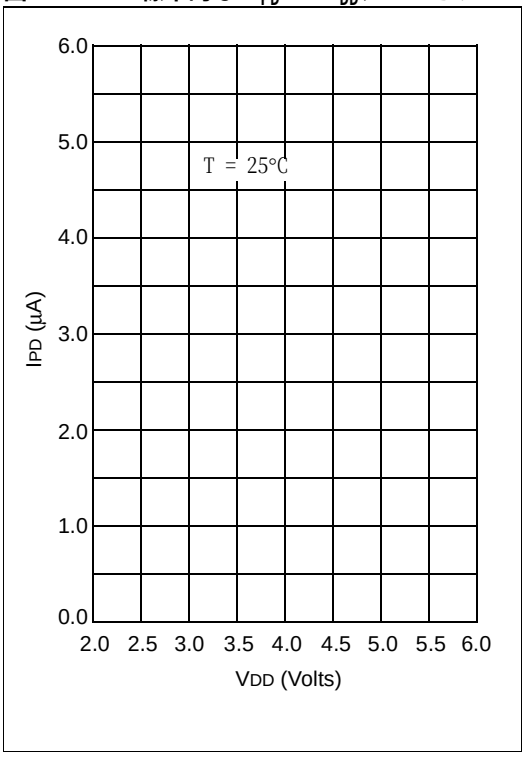



**図 13-6： 標準的な $I_{PD}$ VS $V_{DD}$、WDT オフ**

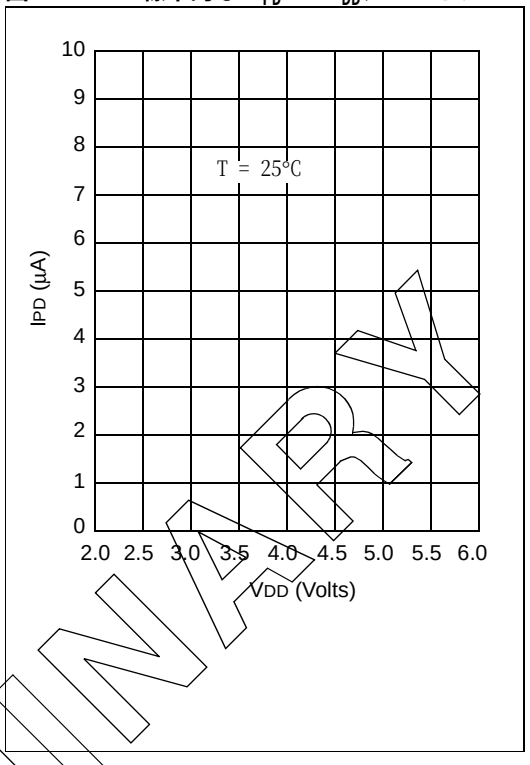
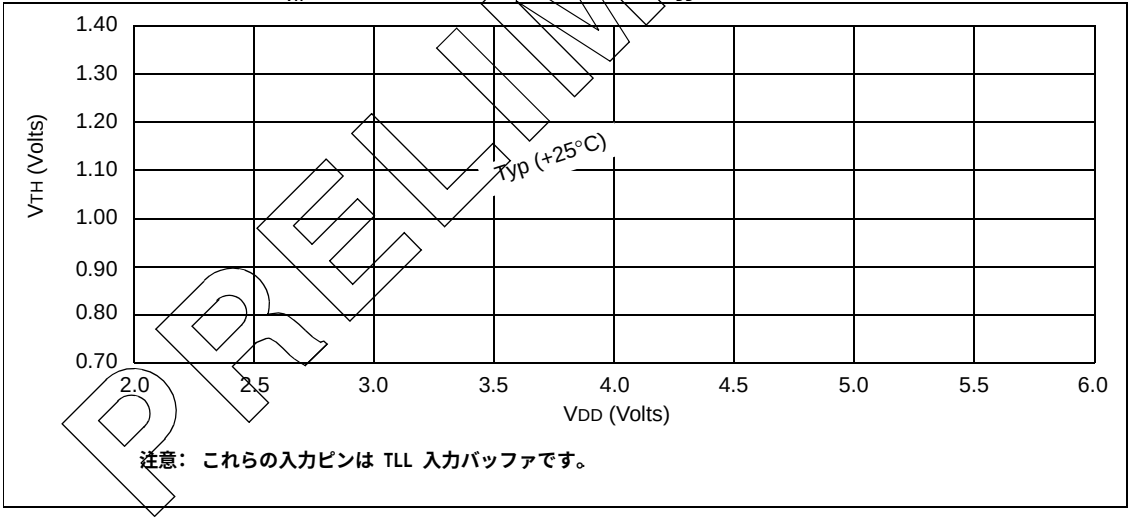



**図 13-7： I/O ピンの $V_{TH}$（入力スレッショルド電圧）VS $V_{DD}$**




**注意： これらの入力ピンは TLL 入力バッファです。**

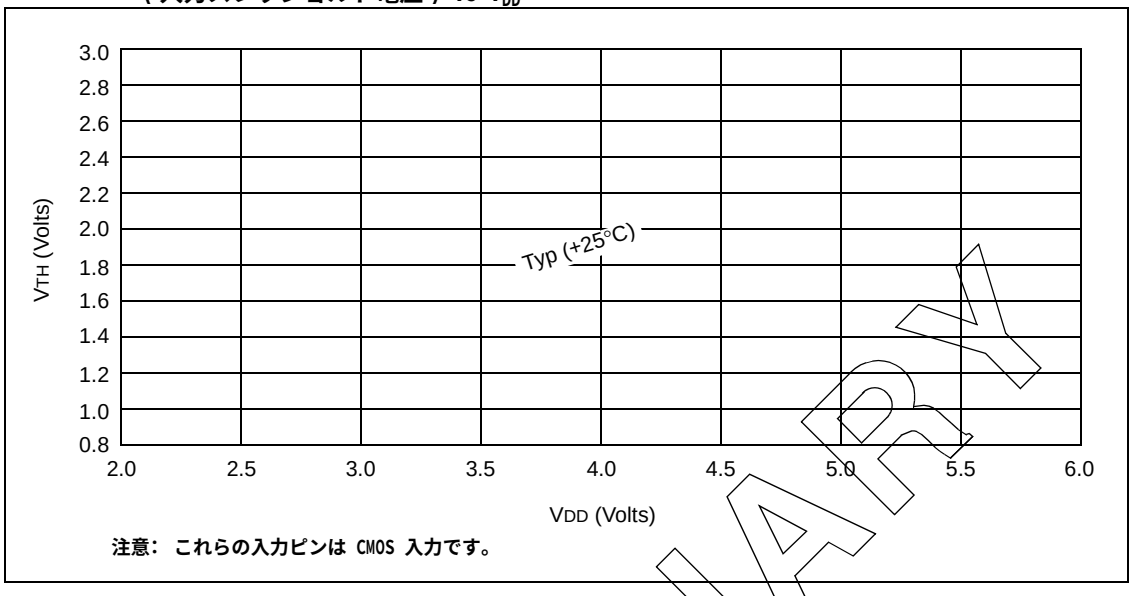
PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。


© 1998 Microchip Technology Inc.

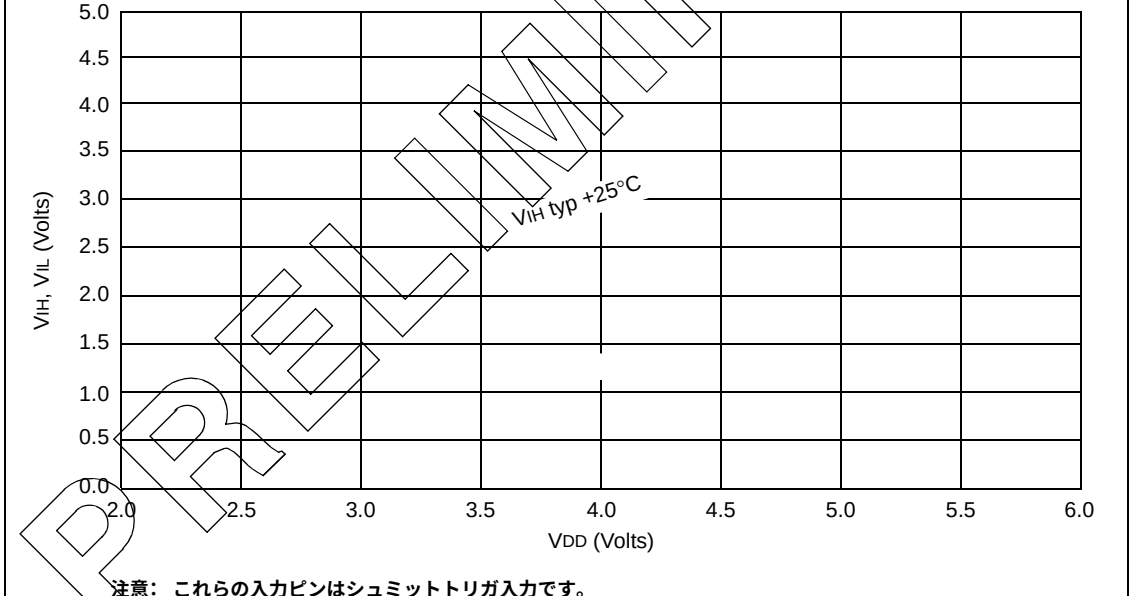
この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

図 13-8： OSC1 INPUT（XT、HS、LP の各モード）の $V_{TH}$（入力スレッショルド電圧）VS $V_{DD}$




注意： これらの入力ピンは CMOS 入力です。

図 13-9： OSC1 INPUT（XT、HS、LP の各モード）の $V_{TH}$（入力スレッショルド電圧）VS $V_{DD}$




注意： これらの入力ピンはシュミットトリガ入力です。

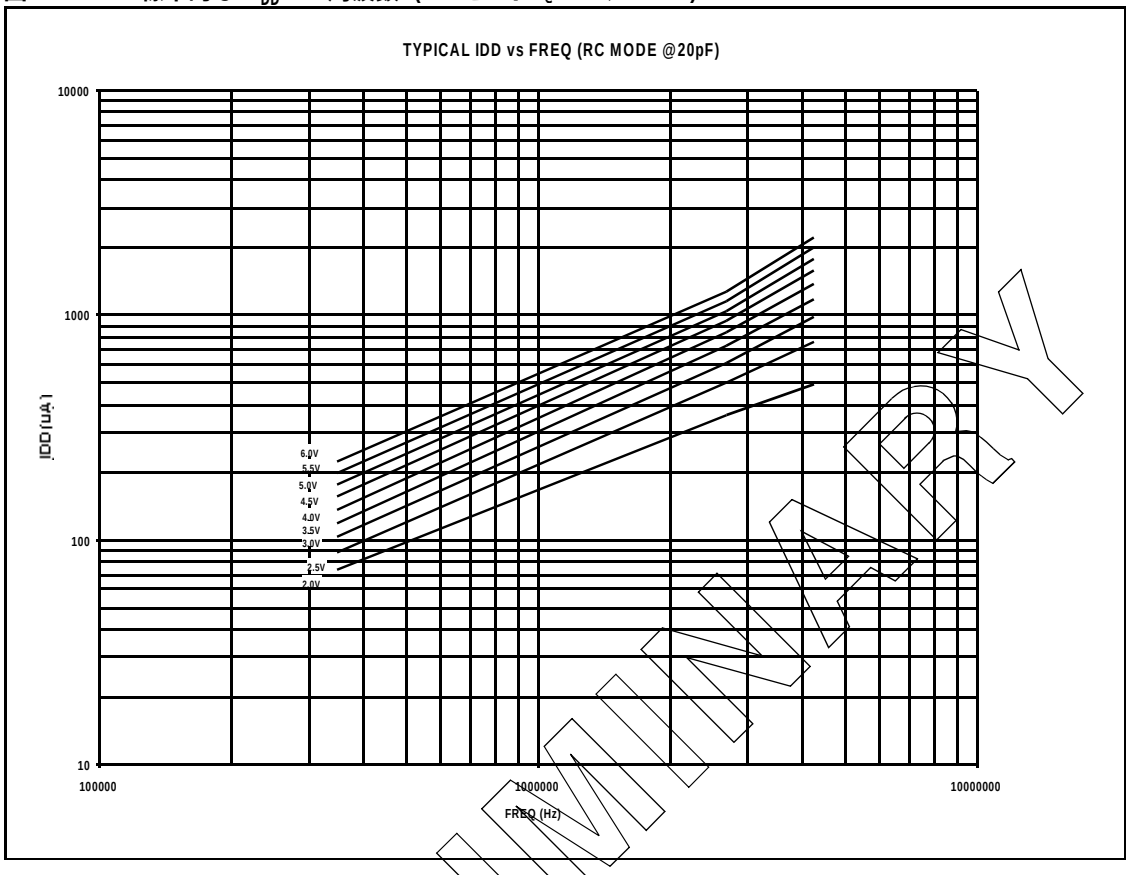
PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**図 13-10： 標準的な $I_{DD}$ VS 周波数（RC モード @20PF、25 °C ）**




PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**図 13-11： 標準的な $I_{DD}$ VS 周波数（RC モード @100PF、25 ℃）**

PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

図 13-12： 標準的な $I_{DD}$ VS 周波数（RC モード @300PF、25 °C ）

PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**図 13-13： WDT タイムアウト周期 VS $V_{DD}$（RC モード @300PF、25 °C）**

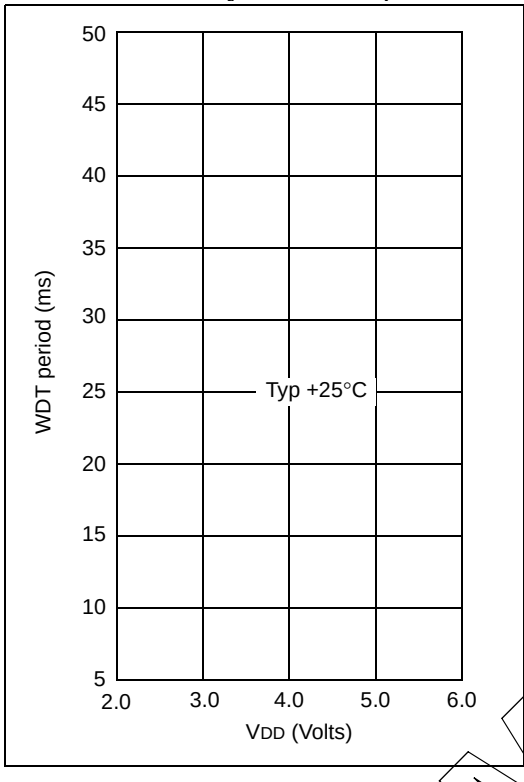
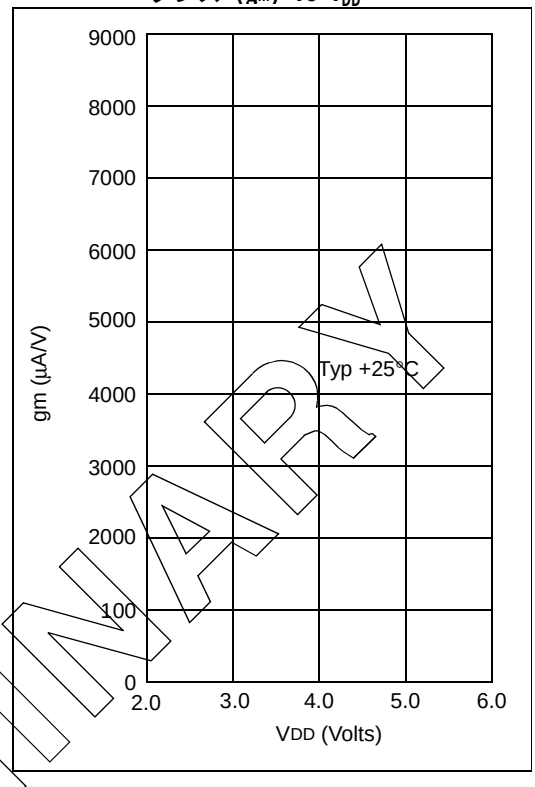



**図 13-14： HS オシレータのトランスコンダクタンス（gm）VS $V_{DD}$**




PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**図 13-15： LP オシレータのトランスコンダクタンス（gm）VS $V_{DD}$**

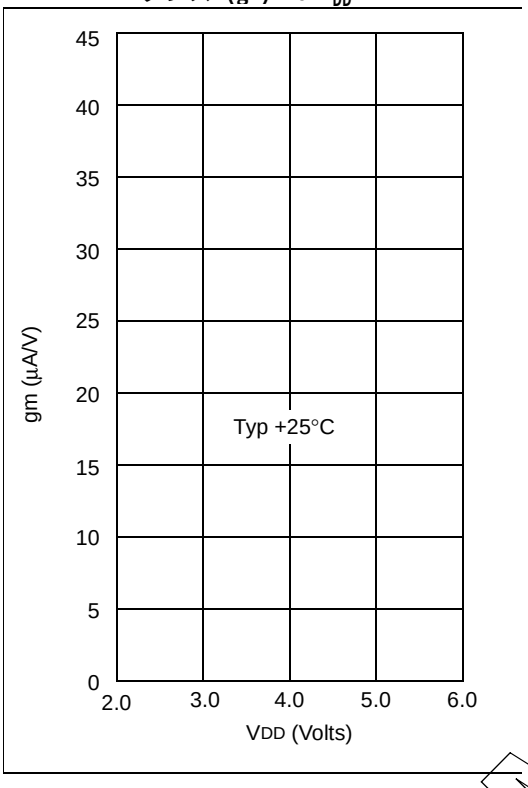
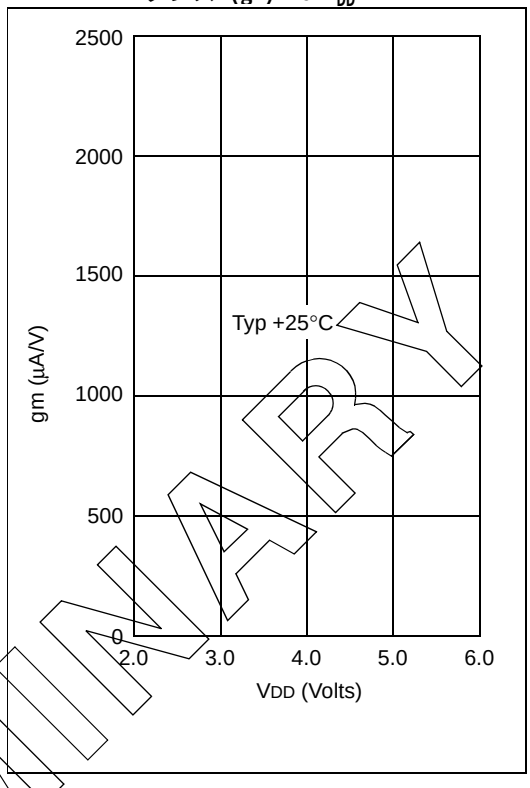



**図 13-16： XT オシレータのトランスコンダクタンス（gm）VS $V_{DD}$**




PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

図 13-17： $I_{OH}$ VS $I_{OH}$、$V_{DD}$ = 3V

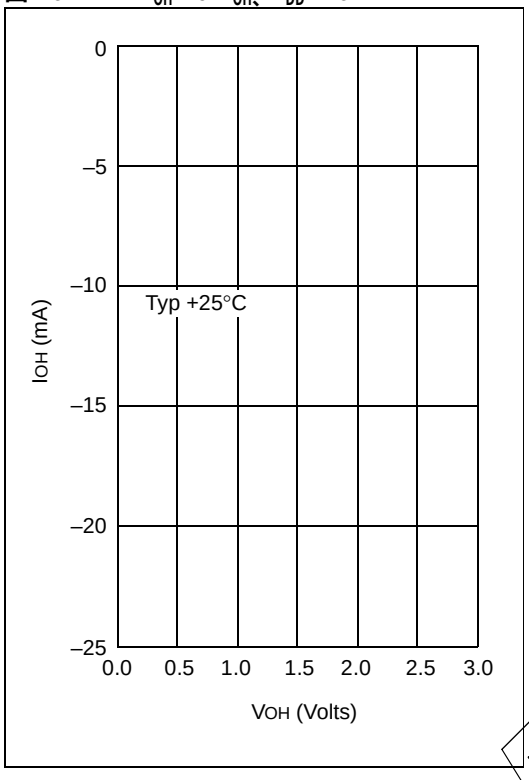



図 13-18： $I_{OH}$ VS $I_{OH}$、$V_{DD}$ = 5V

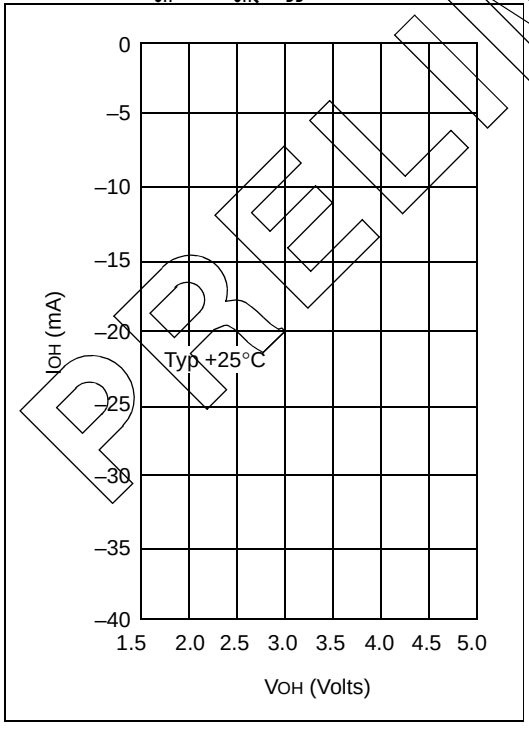



図 13-19： $I_{OL}$ VS $I_{OL}$、$V_{DD}$ = 3V

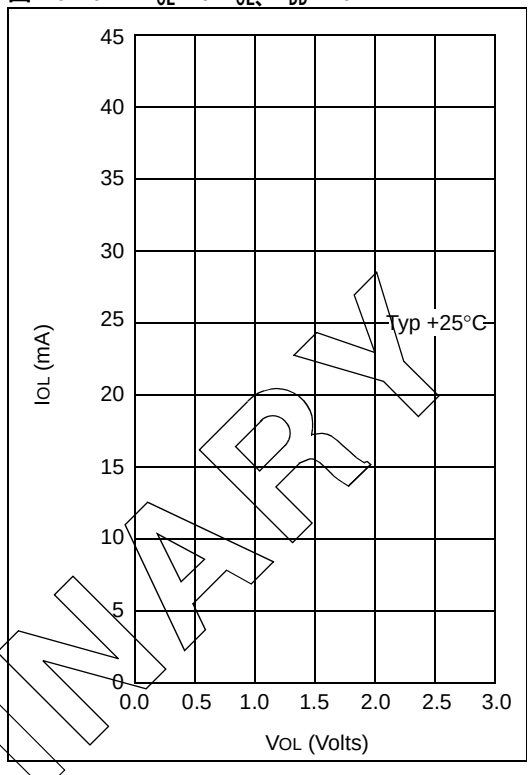
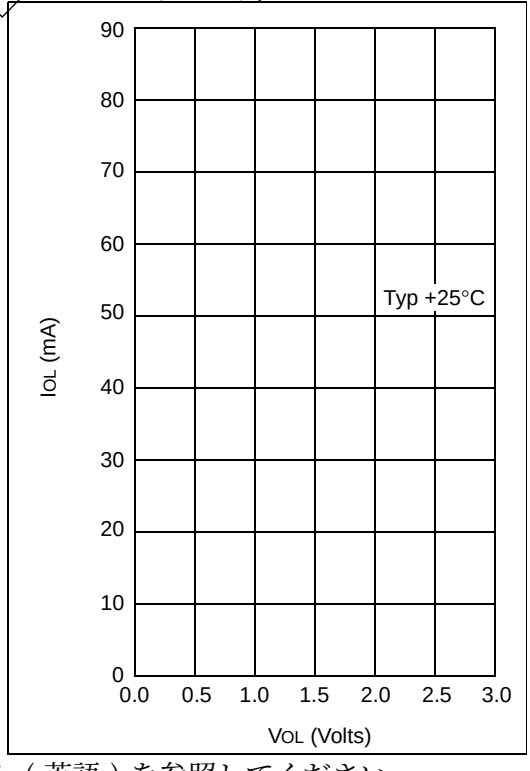



図 13-20： $I_{OL}$ VS $I_{OL}$、$V_{DD}$ = 5V




PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。

© 1998 Microchip Technology Inc.


この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**図 13-21： 標準的なデータメモリの消去 / ライトサイクルタイム VS $V_{DD}$**

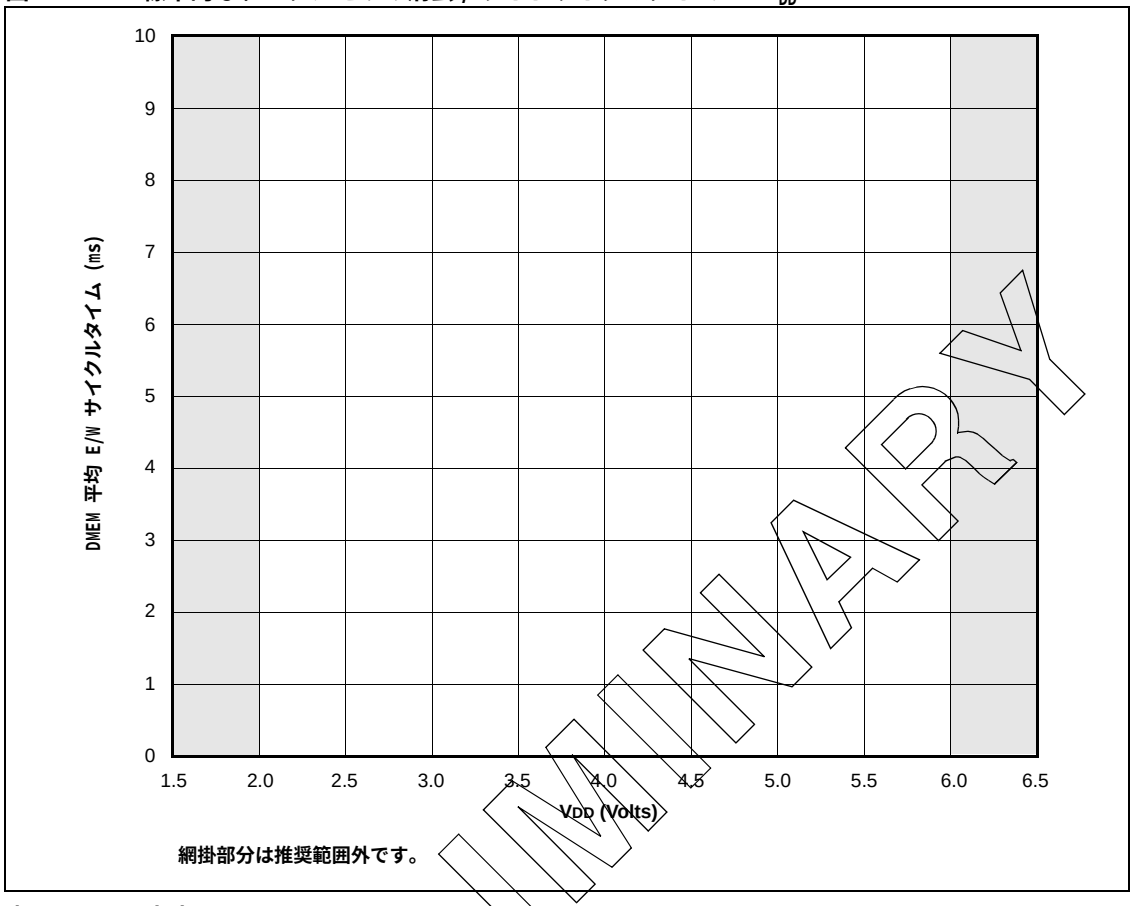



**表 13-2 入力容量 ***

| ピン名 | 標準的な入力容量 (pF) | |
|---|---|---|
| | 18L PDIP | 18L SOIC |
| PORTA | | |
| PORTB | | |
| $\overline{MCLR}$ | | |
| OSC1/CLKIN | | |
| OSC2/CLKOUT | | |
| T0CKI | | |

* すべての入力容量は平均 25 ℃です。部品ごとの誤差± 25%（3δ）の考慮が必要です。

PRELIMINARY

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。

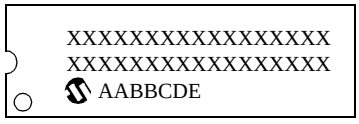

© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

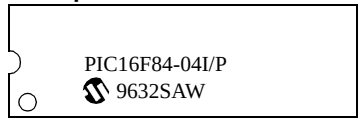
# 14.0 パッケージ

## 14.1 パッケージマーキング

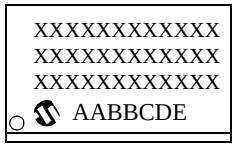
**18L PDIP**




**Example**




**18L SOIC**




**Example**

| | | |
|---|---|---|
| 凡例： | XX...X | マイクロチップ製品番号 & ユーザー情報 |
| | AA | 年（西暦の下 2 桁） |
| | BB | 週（1 月の第 1 週は "01" 週） |
| | C | ウェーハが製造された工場コード |
| | | C = チャンドラー（アメリカ合衆国アリゾナ州） |
| | | S = テンピ（アメリカ合衆国アリゾナ州） |
| | D | マスクレビジョン番号 |
| | E | 部品が組み立てられた工場または地域のアセンブリコード |

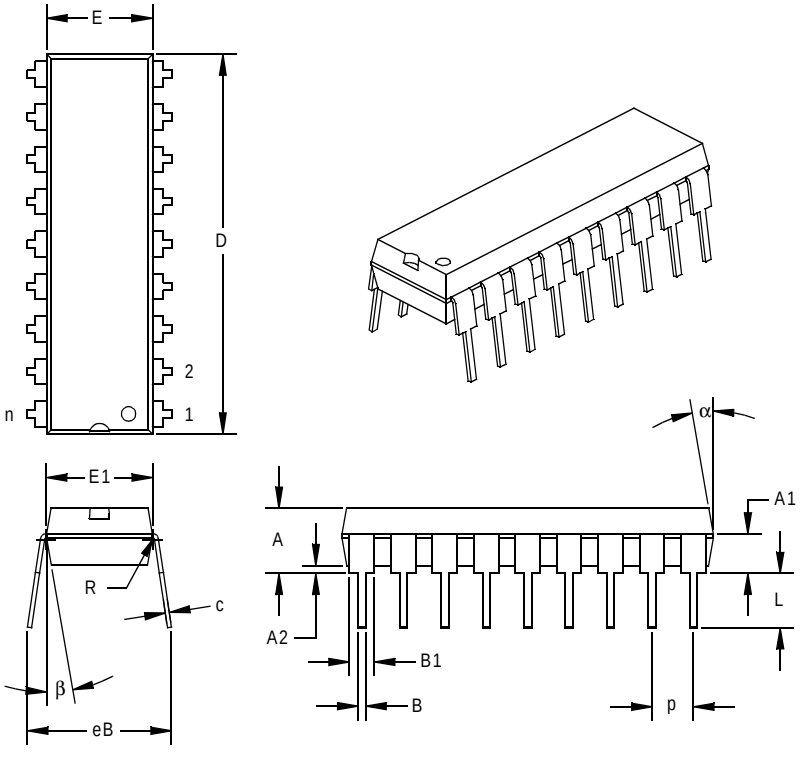
注意： マイクロチップ製品番号を 1 行で表示できない場合は、次の行にまたがることがあります。この場合、ユーザー情報に使用できる文字数が制限されます。

* 標準 OTP マーキングは、マイクロチップ製品番号、年コード、週コード、工場コード、マスクレビジョン番号、およびアセンブリコードで構成されます。これを超える OTP マーキングについては、追加料金が加算されます。販売代理店にお問い合わせください。QTP デバイスについては、特別マーキングの追加料金が QTP 価格に含まれています。

© 1998 Microchip Technology Inc.


この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**パッケージタイプ：K04-007 18 リードプラスティックデュアルインライン（P）--- 300 ミル**




| Units | | INCHES* | | | MILLIMETERS | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Dimension Limits | | MIN | NOM | MAX | MIN | NOM | MAX |
| PCB Row Spacing | | | | | | | |
| Number of Pins | n | | | | | | |
| Pitch | p | | | | | | |
| Lower Lead Width | B | | | | | | |
| Upper Lead Width | B1† | | | | | | |
| Shoulder Radius | R | | | | | | |
| Lead Thickness | c | | | | | | |
| Top to Seating Plane | A | | | | | | |
| Top of Lead to Seating Plane | A1 | | | | | | |
| Base to Seating Plane | A2 | | | | | | |
| Tip to Seating Plane | L | | | | | | |
| Package Length | D‡ | | | | | | |
| Molded Package Width | E‡ | | | | | | |
| Radius to Radius Width | E1 | | | | | | |
| Overall Row Spacing | eB | | | | | | |
| Mold Draft Angle Top | α | | | | | | |
| Mold Draft Angle Bottom | β | | | | | | |

* コントロールパラメータ。

† "B1" には DAM バー の突出部は含まれません。DAM バー の突出部は、片側 0.003"（0.076 mm）または "B1" の寸法より 0.006"（0.152mm）を超えません。

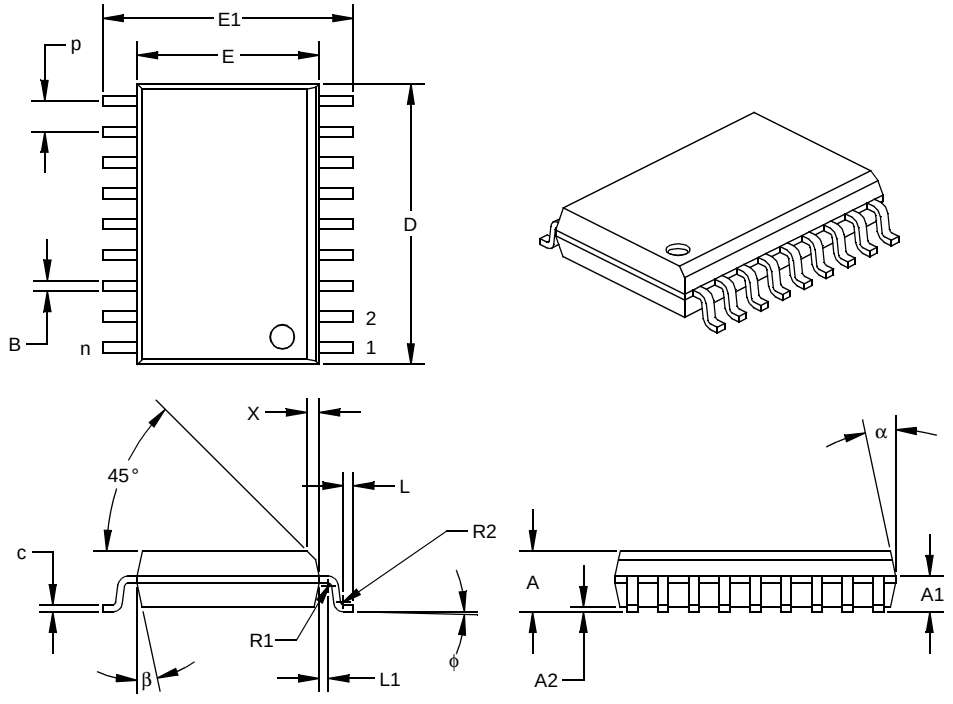
‡ "D" および "E" にはモールドフラッシュまたは突出部は含まれません。モールドフラッシュまたは突出部は片側 0.010"（0.254 mm）または D" や "E" の寸法より 0.020"（0.508mm）を超えません。

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**製品タイプ： K04-051 18 リードプラスティックデュアルインライン（P）--- ワイド、300 ミル**




| Units | | INCHES* | | | MILLIMETERS | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Dimension Limits | | MIN | NOM | MAX | MIN | NOM | MAX |
| Pitch | p | | | | | | |
| Number of Pins | n | | | | | | |
| Overall Pack. Height | A | | | | | | |
| Shoulder Height | A1 | | | | | | |
| Standoff | A2 | | | | | | |
| Molded Package Length | D‡ | | | | | | |
| Molded Package Width | E‡ | | | | | | |
| Outside Dimension | E1 | | | | | | |
| Chamfer Distance | X | | | | | | |
| Shoulder Radius | R1 | | | | | | |
| Gull Wing Radius | R2 | | | | | | |
| Foot Length | L | | | | | | |
| Foot Angle | ϕ | | | | | | |
| Radius Centerline | L1 | | | | | | |
| Lead Thickness | c | | | | | | |
| Lower Lead Width | B† | | | | | | |
| Mold Draft Angle Top | α | | | | | | |
| Mold Draft Angle Bottom | β | | | | | | |

* コントロールパラメータ。

† "B1" には DAM バー の突出部は含まれません。DAM バー の突出部は、片側 0.003"（0.076 mm）または "B1" の寸法より 0.006"（0.152mm）を超えません。

‡ "D" および "E" にはモールドフラッシュまたは突出部は含まれません。モールドフラッシュまたは突出部は片側 0.010"（0.254 mm）または D" や "E" の寸法より 0.020"（0.508mm）を超えません。

規格値については最新版データシート（英語）を参照してください。

© 1998 Microchip Technology Inc.


この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**NOTES:**


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 付録 A： PIC16C5X から PIC16F8X への機能改良点

以下に、PIC16C5X マイクロコントローラファミリーからの機能改良点をまとめます。

1. 命令ワード長が 14 ビットに増えました。これによって、プログラム メモリ (512 から 2K ) とレジストリファイル (32 バイトから 128 バイト ) のページ / バンクサイズが大きくなりました。
2. プログラムメモリページングの処理ために、PC ラッチレジスタ (PCLATH) が追加されました。PA2、PA1、および PA0 の各ビットがステータスレジスタから削除されました。
3. データメモリバンク選択が少し再定義されました。STATUS レジスタが変更されました。
4. RETURN、RETFIE、ADDLW、および SUBLW の 4 つの新しい命令が追加されました。TRIS と OPTION の 2 つの命令は PIC16C5X との互換性を維持していますが、将来は削除されます。
5. OPTION レジスタと TRIS レジスタはアドレス指定できます。
6. 割り込みが追加されました。割り込みベクタは 0004h です。
7. スタックサイズが 8 レベル に増えました。
8. リセットベクタが 0000h に変更されました。
9. レジスタのリセット状態を再検討しました。5 種類のリセット ( およびウェークアップ ) が識別できます。レジスタはリセットの種類によりリセットされます。
10. 割り込みによるスリープからの起動が追加されました。
11. より信頼性の高い電源 ON のために、オシレータスタートアップタイマ (OST) とパワーアップタイマ (PWRT) の 2 つのタイマが用意されました。この 2 つのタイマは、電源 ON およびスリープからの起動のときの不要な遅延を回避するために個別に起動されます。
12. PORTB には弱プルアップおよび変化への割り込みがあります。
13. TOCKI は I/O ポートにもなります (RA4/TOCKI)。
14. FSR は 8 ビットになりました。
15. " インサーキットシリアルプログラミング " が可能になりました。ユーザは、$V_{DD}$、$V_{SS}$、$V_{PP}$、RB6 ( クロック ) および RB7 ( データ入出力 ) の 5 つのピンだけを使用して PIC16CXX をプログラム書き込みできます。

## 付録 B： PIC16C5X と PIC16F8X とのコードの互換性

PIC16C5X 用に書かれたコードをコードを PIC16F8X 用に変換するには、以下の手順を実行します。

1. CALL、GOTO 用のプログラムメモリページ選択 (PA2、PA1、PA0 ビット ) を削除します。
2. 計算ジャンプ命令 (PC へのライト、PC への足し算など ) を再確認して、ページビットが新しい方法で正しくセットされていることを確認します。
3. データメモリバンク選択を削除します。
4. STATUS、OPTION および FSR レジスタは内容変更されたので、すべてのそれらのレジスタへのライトする値を確認します。
5. リセットベクタを 0000h に変更します。

© 1998 Microchip Technology Inc.


この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

## 付録 C： このデータシートでの追加点

このデータシートでの追加点は以下の通りです。

1. PIC16F8X デバイスが追加された DC および AC 特性のグラフや表。
2. コンバージョンの注意点の付録が追加されました。ここでは、PIC16C84 から PIC16F84 または同様のデバイスへコンバージョンのために、相違点を説明しています。

## 付録 D： このデータシートでの変更点

このデータシートでの変更点は以下の通りです。

1. Errata の情報を追加しました。
2. オプション レジスタ名が OPTION から OPTION_REG に変更されました。これにより他のデータシートおよびヘッダファイルと共通で、OPTION コマンドと OPTION レジスタの名前の衝突がなくなります。
3. エラーを修正しました。
4. PIC16/17 マイクロコントローラについての付録を削除しました。


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## 付録 E： コンバージョンの注意点 - PIC16C84 から /F84 および PIC16CR83/F84 へ

PIC16C84 から PIC16F84 へのコンバージョンに関する注意点を以下の表にまとめます。この注意点は PIC16C84 から PIC16F84 ( プログラムおよびデータ RAM メモリのサイズを除いて PIC16F83 も同様 ) および PIC16CR84 と PIC16CR83 ( フラッシュデバイスの ROM バージョン ) へのコンバージョンにも適用できます。開発システムサポートは、すべての PIC16X8X デバイスで利用できます。

| 相違点 | PIC16C84 | PIC16F84 |
|---|---|---|
| PWRTE ビットの極性が逆になりました。プログラム書き込み前にプログラムライターがこのビットを正しくセットしていることを確認してください。 | PWRTE | $\overline{\text{PWRTE}}$ |
| PIC16F84 ( および PIC16CR84) の RAM サイズが大きくなりました。これによってプログラムで問題が発生していないことを確認してください。 | RAM = 36 バイト | RAM = 68 バイト |
| $\overline{\text{MCLR}}$ ピンにオンチップフィルタが付きました。MCLR ピンの入力信号にはリセットを生成するために長い Low パルスが必要となります。 | $\overline{\text{MCLR}}$ パルス幅 (Low) | $\overline{\text{MCLR}}$ パルス幅 (Low) |
| 一部の電気的仕様が改善されました ( 例えば $I_{PD}$ を参照 )。<br>両方のデバイスの電気的仕様を比較して、互換性に関する問題が発生していないことを確認してください。 | $I_{PD}$ (typ @ 2V)<br><br>$I_{PD}$ ( 最大 @ 4V、WDT オフ ) | $I_{PD}$ (typ @ 2V)<br><br>$I_{PD}$ ( 最大 @ 4V、WDT オフ ) |
| PORTA および水晶オシレータの値が 500kHz 以下。 | 500 kHz 以下で動作する水晶オシレータの場合、PORTA<0> の状態が切り替わるとき、デバイスは不要な内部 Q クロックを発生します。 | N/A |
| RB0/INT ピン | TTL | TTL/ST*<br>(* このバッファは外部割り込みとして使用される場合、シュミットトリガ入力となります。) |
| EEADR<7:6> および IDD | EEADR<7:6> ビットをクリアすることを推奨します。どちらのビットがセットされているとき、両方のビットがクリアされるときより、最大 $I_{DD}$ が大きくなります。 | N/A |
| コードプロテクト | 1 CP ビット | 9 CP ビット |
| RC オシレータ回路の $R_{EXT}$ の推奨値 | REXT | REXT |
| GIE ビットの不要なセット | グローバル割込みイネーブル (GIE) ビットをクリア中に割り込みが発生すると、割り込みサービスルーチン (RETFIE 命令 ) によって GIE ビットが再びセットされ、クリアされないことがあります。 | N/A |

規格値については最新版データシート ( 英語 ) を参照してください。

© 1998 Microchip Technology Inc.


この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

**NOTES:**


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## INDEX

### Numerics

8.1 Configuration Bits ..... 37

### A

Absolute Maximum Ratings ..... 73, 85
ALU ..... 7
Architectural Overview ..... 7
Assembler
    MPASM Assembler ..... 70

### B

Block Diagram
    Interrupt Logic ..... 47
    On-Chip Reset Circuit ..... 41
    RA3:RA0 and RA5 Port Pins ..... 21
    RA4 Pin ..... 21
    RB7:RB4 Port Pins ..... 23
    TMR0/WDT Prescaler ..... 30
    Watchdog Timer ..... 50
Brown-out Protection Circuit ..... 46

### C

Carry ..... 7
CLKIN ..... 9
CLKOUT ..... 9
Code Protection ..... 37, 52
Compatibility, upward ..... 3
Computed GOTO ..... 18
Configuration Bits ..... 37

### D

DC Characteristics ..... 75, 76, 77, 78, 87, 88, 89, 90
Development Support ..... 69
Development Tools ..... 69
Digit Carry ..... 7

### E

Electrical Characteristics ..... 73, 85
External Power-on Reset Circuit ..... 43

### F

Family of Devices
    PIC16C8X ..... 3
FSR ..... 19, 42
Fuzzy Logic Dev. System (*fuzzy*TECH®-MP) ..... 71

### G

GIE ..... 47

### I

I/O Ports ..... 21
I/O Programming Considerations ..... 25
ICEPIC Low-Cost PIC16CXXX In-Circuit Emulator ..... 69
In-Circuit Serial Programming ..... 37, 52
INDF ..... 42
Instruction Format ..... 53
Instruction Set
    ADDLW ..... 55
    ADDWF ..... 55
    ANDLW ..... 55
    ANDWF ..... 55
    BCF ..... 56
    BSF ..... 56
    BTFSC ..... 56
    BTFSS ..... 57
    CALL ..... 57
    CLRF ..... 58
    CLRW ..... 58
    CLRWDT ..... 58
    COMF ..... 59
    DECF ..... 59
    DECFSZ ..... 59
    GOTO ..... 60
    INCF ..... 60
    INCFSZ ..... 61
    IORLW ..... 61
    IORWF ..... 62
    MOVF ..... 62
    MOVLW ..... 62
    MOVWF ..... 62
    NOP ..... 63
    OPTION ..... 63
    RETFIE ..... 63
    RETLW ..... 64
    RETURN ..... 64
    RLF ..... 65
    RRF ..... 65
    SLEEP ..... 66
    SUBLW ..... 66
    SUBWF ..... 67
    SWAPF ..... 67
    TRIS ..... 67
    XORLW ..... 68
    XORWF ..... 68
    Section ..... 53
    Summary Table ..... 54
INT Interrupt ..... 48
INTCON ..... 17, 42, 47, 48
INTEDG ..... 48
Interrupts
    Flag ..... 47
    Interrupt on Change Feature ..... 23
    Interrupts ..... 37, 47

### K

KeeLoq® Evaluation and Programming Tools ..... 71

### L

Loading of PC ..... 18

### M

$\overline{\text{MCLR}}$ ..... 9, 41, 42
Memory Organization
    Data Memory ..... 12
    Memory Organization ..... 11
    Program Memory ..... 11
MP-DriveWay™ - Application Code Generator ..... 71
MPLAB C ..... 71
MPLAB Integrated Development Environment Software ... 70

### O

OPCODE ..... 53
OPTION ..... 16, 42, 48
OSC selection ..... 37
OSC1 ..... 9
OSC2 ..... 9
Oscillator
    HS ..... 39, 46
    LP ..... 39, 46
    RC ..... 39, 40
    XT ..... 39
Oscillator Configurations ..... 39

© 1998 Microchip Technology Inc.


この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**P**

Paging, Program Memory ..... 18
PCL ..... 18, 42
PCLATH ..... 18, 42
PD ..... 15, 41, 46
PICDEM-1 Low-Cost PICmicro Demo Board ..... 70
PICDEM-2 Low-Cost PIC16CXX Demo Board ..... 70
PICDEM-3 Low-Cost PIC16CXXX Demo Board ..... 70
PICMASTER® In-Circuit Emulator ..... 69
PICSTART® Plus Entry Level Development System ..... 69
Pinout Descriptions ..... 9
POR ..... 43
  Oscillator Start-up Timer (OST) ..... 37, 43
  Power-on Reset (POR) ..... 37, 42, 43
  Power-up Timer (PWRT) ..... 37, 43
  Time-out Sequence ..... 46
  Time-out Sequence on Power-up ..... 44
  TO ..... 15, 41, 46
Port RB Interrupt ..... 48
PORTA ..... 9, 21, 42
PORTB ..... 9, 23, 42
Power-down Mode (SLEEP) ..... 51
Prescaler ..... 29
PRO MATE® II Universal Programmer ..... 69
Product Identification System ..... 121

**R**

RBIF bit ..... 23, 48
RC Oscillator ..... 46
Read-Modify-Write ..... 25
Register File ..... 12
Reset ..... 37, 41
Reset on Brown-Out ..... 46

**S**

Saving W Register and STATUS in RAM ..... 49
SEEVAL® Evaluation and Programming System ..... 71
SLEEP ..... 37, 41, 51
Software Simulator (MPLAB-SIM) ..... 71
Special Features of the CPU ..... 37
Special Function Registers ..... 12
Stack ..... 18
  Overflows ..... 18
  Underflows ..... 18
STATUS ..... 7, 15, 42

**T**

time-out ..... 42
Timer0
  Switching Prescaler Assignment ..... 31
  T0IF ..... 48
  Timer0 Module ..... 27
  TMR0 Interrupt ..... 48
  TMR0 with External Clock ..... 29
Timing Diagrams
  Time-out Sequence ..... 44
Timing Diagrams and Specifications ..... 80, 92
TRISA ..... 21
TRISB ..... 23, 42

**W**

W ..... 42
Wake-up from SLEEP ..... 42, 51
Watchdog Timer (WDT) ..... 37, 41, 42, 50
WDT ..... 42
  Period ..... 50
  Programming Considerations ..... 50
  Time-out ..... 42

**X**

XT ..... 46

**Z**

Zero bit ..... 7



© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## オンラインサポート

マイクロチップは Microchip World Wide Web (WWW) サイトにオンラインサポートを用意しています。

Web サイトは、ユーザーがファイルや情報を簡単に入手できるを目的としています。サイトを表示するには、Netscape や Microsoft Explorer などの Web ブラウザを使用してインターネットにアクセスする必要があります。ファイルは FTP ダウンロードでも利用できます。

### マイクロチップのインターネット Web サイトへのアクセス

マイクロチップの Web サイトは、インターネットブラウザを使用して次のアドレスにアクセスすると利用できます。

**www.microchip.com**

FTP サービスは

**ftp://ftp.futureone.com/pub/microchip/**

Web サイトおよび FTP サイトでは、さまざまなサービスをご提供しています。最新の開発ツール、データシート、アプリケーションノート、ユーザーズガイド、文献およびサンプルプログラムのファイルをダウンロードできます。マイクロチップの販売代理店、製品取扱店、工場窓口などのリストを含むさまざまな営業情報も入手できます。その他、ご利用いただけるデータは以下の通りです。

- 最新のマイクロチップ プレスリリース
- テクニカルサポートと FAQ
- デザインのコツ
- デバイスの Errata
- 求人情報
- マイクロチップ コンサルタントプログラムメンバーのリスト
- マイクチップ製品に関連する Web サイトへのリンク
- 製品に関するお問い合わせ、開発システム、技術情報など
- セミナーやイベントのリスト

### システム情報とアップグレードホットライン

システム情報とアップグレードラインでは、マイクロチップの開発システムソフトウェア製品の最新版のリストを入手できます。さらに、このラインでは、現在入手可能なアップグレードキットの入手方法についての情報をご提供します。ホットラインの電話番号は以下の通りです。(英語)

1-800-755-2345（アメリカおよびカナダの大部分の地域にお住まいの方）

1-602-786-7302（上記以外の国にお住まいの方）

980106

日本国内の技術サポートはFAX:045-471-6122までお問い合わせください。

**Trademarks:** The Microchip name, logo, PIC, PICSTART, PICMASTER and PRO MATE are registered trademarks of Microchip Technology Incorporated in the U.S.A. and other countries. PICmicro, *Flex*ROM, MPLAB and *fuzzy*LAB are trademarks and SQTP is a service mark of Microchip in the U.S.A.

*fuzzy*TECH is a registered trademark of Inform Software Corporation. IBM, IBM PC-AT are registered trademarks of International Business Machines Corp. Pentium is a trademark of Intel Corporation. Windows is a trademark and MS-DOS, Microsoft Windows are registered trademarks of Microsoft Corporation. CompuServe is a registered trademark of CompuServe Incorporated.

All other trademarks mentioned herein are the property of their respective companies.



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

## アンケートにお答えください

マイクロチップ製品を正しくご理解いただけるように、より良いマニュアルにしたいと思っています。ご意見は、FAX: 045-471-6122 までご送付ください。

**宛先:** マイクロチップテクノロジーPICmicro 技術担当 **総ページ数**

**RE: アンケートにお答えください**

**差出人: 名前** _____

**会社名** _____

**住所** _____

**市町村／都道府県／郵便番号／国** _____

**電話番号** (_____) _____ - _____ FAX: (_____) _____ - _____

( 差し支えなければ ) **アプリケーション** :

**回答をご希望ですか はい ____ いいえ ____**

**デバイス: PIC16F8X** **文献番号: DS30430C**

**質問** :

1. **このマニュアルの最も良い点はどこですか？**

2. **開発するハードウェアおよびソフトウェアに必要な情報をこのマニュアルから得られましたか？**

3. **このデータシートは簡単に入手できましたか？**

4. **このデータシートに加えたほうが良いと思われることがあれば、教えてください。**

5. **このデータシートから削除してもかまわないと思われることがあれば、教えてください。**

6. **誤りやわかりにくい記述がありましたら、お知らせください。**

7. **このマニュアルについて何かご要望がありましたら、お知らせください。**

8. **弊社のソフトウェア、システム、シリコン製品について何かご要望がありましたら、お知らせください。**


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます )

## PIC16F8X の型番 / 品名

**ご注文や価格や納期などの情報については販売代理店までお問い合わせください。**

| PART NO. | -XX | X | /XX | XXX |
|---|---|---|---|---|
| Device | Frequency Range | Temperature Range | Package | Pattern |

| | | |
|---|---|---|
| **Device** | PIC16F8X(2), PIC16F8XT(3)<br>PIC16LF8X(2), PIC16LF8XT(3)<br>PIC16F8XA(2), PIC16F8XAT(3)<br>PIC16LF8XA(2), PIC16LF8XAT(3)<br>PIC16CR8X(2), PIC16CR8XT(3)<br>PIC16LCR8X(2), PIC16LCR8XT(3) | |
| **Frequency Range** | 04<br>10<br>20 | = 4 MHz<br>= 10 MHz<br>= 20 MHz |
| **Temperature Range** | b(1)<br>I | = 0°C to +70°C (Commercial)<br>= -40°C to +85°C (Industrial) |
| **Package** | P<br>SO<br>SS | = PDIP<br>= SOIC (Gull Wing, 300 mil body)<br>= SSOP |
| **Pattern** | 3-digit Pattern Code for QTP, ROM (blank otherwise) | |

**Examples:**

a) PIC16F84 -04/P 301 = Commercial temp., PDIP package, 4 MHz, normal VDD limits, QTP pattern #301.

b) PIC16LF84 - 04I/SO = Industrial temp., SOIC package, 200 kHz, Extended VDD limits.

c) PIC16CR84 - 10I/P = ROM program memory, Industrial temp., PDIP package, 10MHz, normal VDD limits.

Note 1: b = blank
2: F = Standard VDD range
LF = Extended VDD range
CR = ROM Version, Standard VDD range
LCR = ROM Version, Extended VDD range
3: T = in tape and reel - SOIC, SSOP packages only.

## 営業とサポート

**製品には、デバイスのデータシートとの動作上の相違点や推奨する回避方法などを記載した Errata シートが発行されている場合があります。Errata シートが存在するかどうかを確認するには、下記をご参照ください。**

**1. マイクロチップのインターネットホームページ (http://www.microchip.com)**

**また、この日本語データシートは参考資料です。最新版の英文データシートを参照してください。**



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**NOTES:**


© 1998 Microchip Technology Inc.

この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

**NOTES:**

© 1998 Microchip Technology Inc.


この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)

# WORLDWIDE SALES AND SERVICE

## AMERICAS

### Corporate Office
Microchip Technology Inc.
2355 West Chandler Blvd.
Chandler, AZ 85224-6199
Tel: 602-786-7200 Fax: 602-786-7277
*Technical Support:* 602 786-7627
*Web:* http://www.microchip.com

### Atlanta
Microchip Technology Inc.
500 Sugar Mill Road, Suite 200B
Atlanta, GA 30350
Tel: 770-640-0034 Fax: 770-640-0307

### Boston
Microchip Technology Inc.
5 Mount Royal Avenue
Marlborough, MA 01752
Tel: 508-480-9990 Fax: 508-480-8575

### Chicago
Microchip Technology Inc.
333 Pierce Road, Suite 180
Itasca, IL 60143
Tel: 630-285-0071 Fax: 630-285-0075

### Dallas
Microchip Technology Inc.
14651 Dallas Parkway, Suite 816
Dallas, TX 75240-8809
Tel: 972-991-7177 Fax: 972-991-8588

### Dayton
Microchip Technology Inc.
Two Prestige Place, Suite 150
Miamisburg, OH 45342
Tel: 937-291-1654 Fax: 937-291-9175

### Los Angeles
Microchip Technology Inc.
18201 Von Karman, Suite 1090
Irvine, CA 92612
Tel: 714-263-1888 Fax: 714-263-1338

### New York
Microchip Technology Inc.
150 Motor Parkway, Suite 202
Hauppauge, NY 11788
Tel: 516-273-5305 Fax: 516-273-5335

### San Jose
Microchip Technology Inc.
2107 North First Street, Suite 590
San Jose, CA 95131
Tel: 408-436-7950 Fax: 408-436-7955

### Toronto
Microchip Technology Inc.
5925 Airport Road, Suite 200
Mississauga, Ontario L4V 1W1, Canada
Tel: 905-405-6279 Fax: 905-405-6253

## ASIA/PACIFIC

### Hong Kong
Microchip Asia Pacific
RM 3801B, Tower Two
Metroplaza
223 Hing Fong Road
Kwai Fong, N.T., Hong Kong
Tel: 852-2-401-1200 Fax: 852-2-401-3431

### India
Microchip Technology Inc.
India Liaison Office
No. 6, Legacy, Convent Road
Bangalore 560 025, India
Tel: 91-80-229-0061 Fax: 91-80-229-0062

### Japan
Microchip Technology Intl. Inc.
Benex S-1 6F
3-18-20, Shinyokohama
Kohoku-Ku, Yokohama-shi
Kanagawa 222 Japan
Tel: 81-45-471- 6166 Fax: 81-45-471-6122

### Korea
Microchip Technology Korea
168-1, Youngbo Bldg. 3 Floor
Samsung-Dong, Kangnam-Ku
Seoul, Korea
Tel: 82-2-554-7200 Fax: 82-2-558-5934

### Shanghai
Microchip Technology
RM 406 Shanghai Golden Bridge Bldg.
2077 Yan'an Road West, Hong Qiao District
Shanghai, PRC 200335
Tel: 86-21-6275-5700
Fax: 86 21-6275-5060

### Singapore
Microchip Technology Taiwan
Singapore Branch
200 Middle Road
#07-02 Prime Centre
Singapore 188980
Tel: 65-334-8870 Fax: 65-334-8850

## ASIA/PACIFIC (CONTINUED)

### Taiwan, R.O.C
Microchip Technology Taiwan
10F-1C 207
Tung Hua North Road
Taipei, Taiwan, ROC
Tel: 886-2-2717-7175 Fax: 886-2-2545-0139

## EUROPE

### United Kingdom
Arizona Microchip Technology Ltd.
505 Eskdale Road
Winnersh Triangle
Wokingham
Berkshire, England RG41 5TU
Tel: 44-1189-21-5858 Fax: 44-1189-21-5835

### France
Arizona Microchip Technology SARL
Zone Industrielle de la Bonde
2 Rue du Buisson aux Fraises
91300 Massy, France
Tel: 33-1-69-53-63-20 Fax: 33-1-69-30-90-79

### Germany
Arizona Microchip Technology GmbH
Gustav-Heinemann-Ring 125
D-81739 Müchen, Germany
Tel: 49-89-627-144 0 Fax: 49-89-627-144-44

### Italy
Arizona Microchip Technology SRL
Centro Direzionale Colleoni
Palazzo Taurus 1 V. Le Colleoni 1
20041 Agrate Brianza
Milan, Italy
Tel: 39-39-6899939 Fax: 39-39-6899883

1/13/98

*Microchip received ISO 9001 Quality System certification for its worldwide headquarters, design, and wafer fabrication facilities in January, 1997. Our field-programmable PICmicro™ 8-bit MCUs, Serial EEPROMs, related specialty memory products and development systems conform to the stringent quality standards of the International Standard Organization (ISO).*

All rights reserved. © 1998, Microchip Technology Incorporated, USA. 12/98 Printed on recycled paper.

Information contained in this publication regarding device applications and the like is intended for suggestion only and may be superseded by updates. No representation or warranty is given and no liability is assumed by Microchip Technology Incorporated with respect to the accuracy or use of such information, or infringement of patents or other intellectual property rights arising from such use or otherwise. Use of Microchip's products as critical components in life support systems is not authorized except with express written approval by Microchip. No licenses are conveyed, implicitly or otherwise, under any intellectual property rights. The Microchip logo and name are registered trademarks of Microchip Technology Inc. in the U.S.A. and other countries. All rights reserved. All other trademarks mentioned herein are the property of their respective companies.



この日本語データシートは参考資料です。最新版英語データシートを参照してください。
(http://www.microchip.com から入手できます)